

文学部教育学科
講義概要・授業計画

令和4年度
(2022)

高野山大学

— 本誌の利用に際して —

この「講義概要・授業計画」は、令和4年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

総 目 次

文学部教育学科	1
シラバスを活用しよう！	2
履修登録と見方	3
◆目次について	
◆講義コードについて	
◆受講登録について	
◆出席票について	
◆GPAについて	
◆科目ナンバリングについて	
◆シラバス「他」欄について	
入学から卒業までの履修について（教育学科）	8
◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー DP）	
◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）	
◆必修科目	
◆選択科目	
◆自由科目	
カリキュラムマップ	
文学部教育学科科目目次	16
講義概要・授業計画	19
教員別索引（50音順）	110

文 学 部
教 育 学 科

シラバスを活用しよう！

副学長（教育）

大学教育と高校までの教育との違いの一つに、学習の自己管理があります。高校までは、基本的に学校が作った時間割で学習しますが、大学ではいつどの科目をとるのかは、自分で決めます。だから、皆さんがどの科目を選択するか決める際に、その科目の学習内容など、授業についての詳しい情報がなければ困ります。こうした情報を、教員が示したものが、シラバスというものです。

シラバスには、授業の目的や概要、到達目標、授業計画、テキスト、評価方法などが記されています。今年度の授業は、これに沿って進められますので、シラバスを大切に学修を進めてください。

また、本学はGPA制度を導入しています。GPAは後の頁に説明がありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でも尋ねてください。シラバスについても、GPAについても、大事なことから、十分に理解してください。

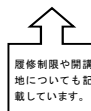
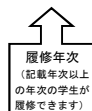
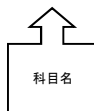
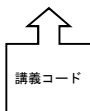
これからの1年間、意義ある学びをしていただくように期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

この『令和4年度文学部教育学科講義概要・授業計画』では、まず目次で開講科目を確認し、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

ターム	曜日	時限	講義コード	科目名	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	月	1・2	61101	空海の思想入門	添田 隆昭	2	1年次	—		20



◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

6 1 1 0 1

課程

- 5 = 密教・人間学科共通
- 6 = 教育学科
- 8 = 別科生用
- 9 = 大学院生用

曜日

- 1 = 月曜日
- 2 = 火曜日
- 3 = 水曜日
- 4 = 木曜日
- 5 = 金曜日
- 6 = 土曜日
- 7 = 集中講義
- 8 = 実習
- 9 = 論文

時限

- 1 = 1 講時
- 2 = 2 講時
- 3 = 3 講時
- 4 = 4 講時
- 5 = 5 講時
- 6 = 6 講時
- 7 = 7 講時

通し番号

- 01 ~ 30 = 1 ターム授業及び通年授業
- 31 ~ 50 = 2 ターム授業
- 51 ~ 70 = 3 ターム授業
- 71 ~ 99 = 4 ターム授業

◆受講登録について

1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、4月11日(月)から4月15日(金)午後5時までに河内長野キャンパス事務室へ提出してください。

2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

① 学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

② 履修登録欄には、今年度を受講するすべての授業科目を、『令和4年度文学部教育学科講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

※1年間に履修登録できるのは自由科目を除き 50 単位までです。

3 履修登録票を河内長野キャンパス事務室へ提出した学生は、4月19日(火)から4月22日(金)午後5時までに、河内長野キャンパス事務室で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、河内長野キャンパス事務室へ提出してください。

4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。

5 履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月6日(金)まで、後期は10月20日(木)まで受け付けますので河内長野キャンパス事務室に申し出てください。（※ただし、1～2年次配当の必修科目は履修取り消しできません。）

6 後期（9月26日開講）授業科目の追加及び登録変更は、9月26日(月)から9月30日(金)午後5時までの後期履修登録変更期間に、河内長野キャンパス事務室へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第4回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999)になりますので留意してください。

◆GPAについて

1 GPAとは

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のGP（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

2 目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

3 GPAの計算方法

履修登録した各科目の成績（GP）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第3位は四捨五入。

合否	評点	評語	GP	判定基準
合格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

4 GPAに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

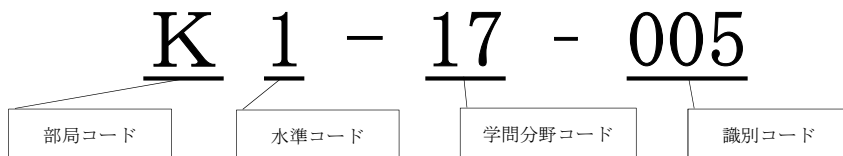
5 履修取り消し

前期は5月6日（金）まで、後期は10月20日（木）までと履修辞退期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、GPA算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

<高野山大学科目ナンバリングの形式>



<各コードの定義について>

1 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するための項目です。

<部局コード分類表>

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

3 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字2ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

4 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字3ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「A」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「I」については、ICTを用いて実施する科目を表しています。

入学から卒業までの履修について(教育学科)

◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー DP）

文部省教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

- (1)授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。(DP1)
- (2)子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。(DP2)
- (3)子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。(DP3)

2. 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

- (1)地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。(DP4)
- (2)地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）

文部省教育学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第3条）。

教育学科の科目は、大きく必修科目と選択科目にわかれています。必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の内、小学校教諭関係科目、幼稚園教諭関係科目、体験サポート科目は、その中から履修科目を選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計94単位以上を取得してください。また、必修科目以外に、選択科目の中から30単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。（自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。）教育学科の学生は、必修科目94単位と選択科目30単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	教養科目	12単位	体験実習科目	8単位
基礎ゼミ科目	8単位	教職専門科目	14単位	課題探求科目	16単位
外国語コミュニケーション科目	4単位	小学校教諭/幼稚園教諭関係科目	20単位 選択必修	必修科目合計	94単位
キャリア科目	4単位	体験サポート科目	6単位 選択必修	選択科目合計	30単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。以下では、教育学科の学生が卒業に必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかを考えてください。

河内長野キャンパスで学んでいる学生は、高野山キャンパス、難波サテライト教室で開講されている科目を履修することができます（1部科目を除く）。ただし、難波サテライト教室や学外で行う科目を60単位までしか認定されません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず 94 単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、小学校教諭関係科目/幼稚園教諭関係科目は 20 単位以上となっていますが、開講科目は 68 単位分開講されており、その中から 20 単位以上を履修することができます。

科目区分/科目名	学年 配当	開講 時期	履修 単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	授業内容
----------	----------	----------	----------	-----	-----	-----	-----	-----	------

【建学の精神科目】2 単位 必修

空海思想入門	1	半期	2		○	○	○	○	仏教思想の基礎と建学の精神である空海思想を学ぶ。
--------	---	----	---	--	---	---	---	---	--------------------------

【基礎ゼミ科目】8 単位 必修

基礎ゼミⅠ	1	半期	2	○					教育学科生として、教育の意義と役割を考え、自分が何を学びたいか考える。
基礎ゼミⅡ	1	半期	2	○	○				教育の意義と役割を再確認し、自分が何に興味・関心があるのか考える。
基礎ゼミⅢ	2	半期	2					○	グループワークを含めた授業で、相互批判を通して認識を深める。
基礎ゼミⅣ	2	半期	2					○	教育に関わるキーワードに基づき、これらの知識やスキルの理解に努める。

【外国語コミュニケーション科目】4 単位 必修

English CommunicationⅠ	1	通年	2	○	○				英語で聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの言語活動を通して実践的コミュニケーション能力を高める。
English CommunicationⅡ	2	通年	2	○					English CommunicationⅠで学んだ知識や技能をより高いレベルの英語活用能力に押し上げることが目指す。

【キャリア科目】4 単位 必修

キャリアデザインⅠ	1	半期	2		○				職業観・倫理観、キャリアデザインについて概要を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現状について授業を行う。
キャリアデザインⅡ	2	半期	2		○				社会における職業の種類や、労働問題等を理解する。自らの自己分析を行い、人生設計を立ててキャリアデザインを考える。

【教養科目】12 単位 必修

ほとけの世界	1	半期	2			○	○	○	「ほとけ」について分かりやすく紹介し、仏教と人間や社会との関わり、その役割などについて理解することを目的とする。
日本国憲法	1	半期	2		○		○	○	憲法の全体像を意識しながら、個々の条文の意義について、その歴史的背景(特に日本国憲法の制定過程)や判例などを通して考察する。
情報と教育	1	半期	2	○					情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。
生涯学習論	3	半期	2	○				○	生涯学習の過去・現在・未来(歴史・現状・展望・課題)、社会教育と学校教育の連携、生涯発達に即した学習・教育の内容や方法を、アクティブ・ラーニングと組み合わせて講義する。
平和教育	3	半期	2	○				○	平和教育の実践や課題を解説する。いのちの尊さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解することへと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得するために、様々な教科に関連づけ総合的学習としてカリキュラム化する。
人権と社会	3	半期	2	○			○	○	「多様性」を生かしつつ差別を克服してきた歴史や動きを知るとともに、そのことから個々がどのように他者や社会に働きかけるのか、解決に向けての具体的な方法を身に付けられるようにする。

【教職専門科目】14単位 必修

教育原理	1	半期	2	○					○	教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出すことを目的とする。教育の基本的理念及び思想を我が国の歴史と世界の動向を視野に入れて学び身につける。
教職入門	1	半期	2	○						講義をとおして現実の教育行政、特に学校教育の現場の様子を知り、教員としての基礎的知識やスキルを習得することをめざす。
教育と社会	2	半期	2	○					○	教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、及び社会の教育への影響や作用を基礎に、学校や教師の役割、現状、課題を講義する。
教育心理学	2	半期	2					○		教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。
特別支援教育	2	半期	2					○		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性・心身の発達について理解する。
教育相談	2	半期	2			○	○	○	○	学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。
教育方法論・ICT活用論	3	半期	2	○						教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的なVTR事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。

【小学校教諭関係科目/幼稚園教諭関係科目】20単位 選択必修

小学校教諭関係科目	国語科内容論	1	半期	2	○					学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解を深める。
	社会科内容論	1	半期	2	○					社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。
	理科内容論	1	半期	2	○					小学校理科で学習する内容を理解させると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の内容的な授業構成ができるように学習する。
	音楽科内容論	1	半期	2	○	○			○	「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「鑑賞」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学ぶ。
	家庭科内容論	1	半期	2	○				○	小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。
	初等英語科内容論	1	半期	2	○					新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について指導要領に則して講義する。
	音楽Ⅰ(表現技法)	1	半期	2	○	○				音楽Ⅰ(表現技法)は音楽初学者を対象とし、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
	算教科内容論	2	半期	2	○					小学校学習指導要領における算教科の目標、領域、各学年の内容とその系統性を実践的・協働的な学びを通して理解する。
	生活科内容論	2	半期	2	○					新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。
	図画工作科内容論	2	半期	2	○					小学校学習指導要領図画工作編に記述されている教科の目標と内容を正しく理解し、授業における評価と指導の実践力を身につける。
幼稚園教諭関係科目	体育科内容論	2	半期	2	○					小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。
	国語科指導法	2	半期	2	○					学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。

	社会科指導法	2	半期	2	○					小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考えつくるのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得することとする。
	理科指導法	2	半期	2	○					小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。
	音楽科指導法	2	半期	2	○					小学校学習指導要領（音楽）の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。
	家庭科指導法	2	半期	2	○					家庭科で学ぶ子どもの姿と教師のかかわり方をイメージした上で、小学校家庭科が目指す学習内容や、指導計画、指導法や評価などの基本事項を習得する。
	初等英語科指導法	2	半期	2	○					英語教育に関する様々な理論を踏まえた講義を行う。
	授業実践研究Ⅰ （初等教材開発）	2	半期	2	○					小学校の授業とその教材について、(1)典型的な事例の模擬授業の観察と教材分析を行う(2)典型的な授業の授業記録の分析を行う(3)受講者が用意された授業案とその教材を用いた模擬授業を互いに行う(4)受講者が自分たち自身で授業とその教材の試案を作る。
	授業実践研究Ⅱ （理科実験開発）	2	半期	2	○					実験・観察の目的・方法、および理科実験を授業にどう位置付けるかを解説した上で、理科授業にある実験や観察を実際に体験し基礎的な技能を習得する。
	音楽Ⅱ（表現技法）	2	半期	1	○					音楽Ⅱ（表現技法）は音楽経験者を対象とする。音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎から応用を学ぶ。
	算数科指導法	3	半期	2	○					算数科の目標、指導内容について理解し、授業づくり及び学習評価について学ぶ。
	生活科指導法	3	半期	2	○					生活科の特徴について、内容論を踏まえた講義のみならず、まちたんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う講義を行う。
	図画工作科指導法	3	半期	2	○					図画工作科の学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力の育成を目指す指導の方法や評価のあり方を互いの模擬授業をもとに交流・検討しながら学修する。
	体育科指導法	3	半期	2	○					小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。
幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	1	半期	2	○	○				幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。
	幼児と人間関係	1	半期	2	○	○				幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解する。具体的には、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。
	幼児と環境	2	半期	2	○					領域（環境）のねらいと内容の理解を深め、保育実践の構成員を身に付けると共に、「環境」を目的にした自然保育への知識理解をすることを目的とする。
	幼児と言葉	2	半期	2	○					『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして、「言葉」に関する教育・保育の内容を理解する。
	幼児と表現	2	半期	2	○					乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。
	保育内容の指導法 （健康）	3	半期	2	○					幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。
	保育内容の指導法 （人間関係）	3	半期	2	○					「なぜ、人とかわかることが大切なのか」の問いを自分自身の体験の振り返りを通した自己理解から考え、子どもを取り巻く人的環境を配慮する必要性も学んでいく。
	保育内容の指導法 （環境）	3	半期	2	○					幼稚園教育要領「環境」で示している内容を理解し、幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導だけではなく、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。

	保育内容の指導法 (言葉)	3	半期	2	○					『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』におけるねらいを踏まえて、言葉の指導法を学ぶ。
	保育内容の指導法 (造形表現)	3	半期	2	○					幼稚園教育要領領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方、知識、表現力を学ぶ。
	保育内容の指導法 (音楽表現)	3	半期	2	○					領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

【体験サポート科目】 2単位必修(地域体験基礎) 4単位 選択必修

地域体験基礎	1	半期	2	○					○	地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。
科学技術と社会	1	半期	2	○				○	○	AI の登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。
植物栽培の基本	1	半期	2	○					○	地域体験で、植物栽培に関わる体験がたくさん用意されている。この体験を有意義にするため、植物栽培の基本的な知識・技能について講義する。
自然と人間	1	半期	2	○				○	○	自然と人間との歴史的経緯・問題点・これからの展望について解説する。理解が深まるよう、グループディスカッションを多く組み入れた講義を行う。
日本文化	1	半期	2					○		日本文化について、テーマを設けて学ぶ。本講義では、仏画について、その意味や教典との関係なども踏まえた講義を行い、仏画を通して仏教や日本文化について理解することを目指す。
文学	1	半期	2	○						小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、児童文学作品、絵本などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、深めていくことを目的とする。
創作研究	1	半期	2	○	○					認知能力の向上に演劇や絵本は貢献する。その理論を学び、教師となる学生自身の表現力も養う。
茶道	1	半期	2		○	○	○			日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初風炉、開炉、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。
書学入門(書道)	1	半期	2	○				○		小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。
地域体験特論	2	半期	2	○	○			○	○	地域で農業・栽培などの体験活動することの目的・意義をしっかりと理解させたうえで、個別の体験活動についての説明を行う。

【体験実習科目】 8単位 必修

学校・保育現場体験Ⅰ	1	通年	2	○						1年次に学校現場での体験活動に参加し、学校についての理解に努める。こうした実際の教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員としての資質・能力を育成する。
学校・保育現場体験Ⅱ	2	通年	2	○						2年次における学校現場体験である。目的や活動内容はⅠと同様に、教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。

地域体験Ⅰ	1	通年	1					○	大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅱ	1	通年	1		○		○	○	地域体験Ⅰと同じく、連携先の団体で体験的に学ぶ。街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅲ	2	通年	1					○	2年次における地域体験活動である。連携先および目的は地域体験Ⅰ、Ⅱと同様であり、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅳ	2	通年	1		○		○	○	2年次における地域体験活動である。内容は、街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

【課題探求科目】16単位 必修

専門基礎演習Ⅰ	3	半期	2	○	○	○	○	○	卒業研究に繋がる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する理解、特にさまざまな学習理論や方法についての理解を深めることを中心としてすすめる。
専門基礎演習Ⅱ	3	半期	2	○	○	○	○	○	卒業研究につながる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する深い理解と、論文を作成するための必要な情報と文献整理・収集などの技能、ICTを利用した発表方法、ディスカッションする力、教育・保育に関する課題を自ら探究する力を身につける。
専門演習Ⅰ	4	半期	2	○	○	○	○	○	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。
専門演習Ⅱ	4	半期	2	○	○	○	○	○	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。
卒業研究	4	通年	8	○	○	○	○	○	卒業にあたって、すべての学生が、卒業論文を作成しなければならない。4年次の1年間を通じて、ゼミ担当教員の指導のもとで卒業研究を行い、卒業論文にまとめて提出し、審査をうけなければならない。

◆選択科目

教育学科の必修科目を94単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの30単位は、選択科目から履修することができます。また、余分に履修した選択必修科目を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、卒業単位にはなりませんので注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部教育学科目次で確認してください。

カリキュラムマップ（教育学科）

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前期	後期	単位 数	単位 数	前期	後期	単位 数	単位 数	前期	後期	単位 数	単位 数	前期	後期	単位 数	単位 数
基礎科目	建学の精神科目	空海の思想入門	2														
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	基礎ゼミⅣ	2								
	外国語コミュニケーション科目	English communicationⅠ		English communicationⅠ	2	English communicationⅡ		English communicationⅡ	2	English communicationⅢ(集中)	1						
						長野山岡院ガイド体験(集中)	1										
						中国語		中国語	2								
	キャリア科目		キャリアアデザインⅠ	2	キャリアアデザインⅡ	2					キャリアアデザインⅢ	2					
	教養科目	ほとけの世界	2	情報と教育	2					生涯学習論	2	人権と社会	2				
		日本国憲法	2	体育の理論と実技	2					平和教育	2	死生観	2				
		世界遺産と観光(集中)	2							常用経典(集中)	2	法式(集中)	2				
		AIと世界	2							声明(集中)	2	布教(集中)	2				
		身体技法(ダンス)	1														
		現代社会と医療	2	世界の医療課題	2												
専門科目	教職専門科目		教育原理	2	教育心理学	2	教育と社会	2	特別活動の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	2					
			教職入門	2	特別支援教育	2	教育課程論	2	教育方法論	2	教職とICT	2					
			幼児理解方法論	2	教育相談	2	道德教育の理論と方法	2	保育教育課程論	2							
							生徒指導論	2	教師力養成特講Ⅰ(0時+4時/1人)	2							
							進路指導・キャリア教育		教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2							
	小学校教諭関係科目	国語科内容論	2	社会科内容論	2	図画工作科内容論	2	算数科内容論	2								
		理科内容論	2	家庭科内容論	2	体育科内容論	2	生活科内容論	2								
		音楽科内容論	2														
		初等英語科内容論	2														
						国語科指導法	2	家庭科指導法	2	生活科指導法	2	算数科指導法	2				
						理科指導法	2	初等英語科指導法	2	図画工作科指導法	2						
						社会科指導法	2			体育科指導法	2						
						音楽科指導法	2	授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)	2								
			音楽Ⅰ(表現技法)	1	授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)	2	音楽Ⅱ(表現技法)	1									
	幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	2	幼児と人間関係	2	幼児と環境	2			幼児と表現	2	保育内容の指導法(環境)	2				
						幼児と言葉	2			保育内容の指導法(健康)	2	保育内容の指導法(音楽表現)	2				
										保育内容の指導法(人間関係)	2						
										保育内容の指導法(言葉)	2						
										保育内容の指導法(造形表現)	2						

20単位
選択必修

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数
専門科目	理論的科目	保育士関係科目	社会福祉論	2	障害児保育	2	保育内容総論	2	保育原理	2	社会的養護Ⅰ	2	子ども家庭支援論	2			
			保育者論	2			乳児保育Ⅰ	2	子ども家庭福祉	2	社会的養護Ⅱ	2	子どもの食と栄養	2			
			子どもの保健	2				保育の心理学	2			子育て支援	2				
								子ども家庭支援の心理学	2								
								子どもの健康と安全	2								
								乳児保育Ⅱ	2								
								表現技術(ビジュアル)	2								
								表現技術(造形)	2								
		心理学関係科目						発達心理学	2	心理身体論Ⅰ	2	心理身体論Ⅱ	2				
								カウンセリング論	2								
								学校臨床心理学	2								
	体験サポート科目	地域体験基礎	地域体験基礎	2	書学入門(書道)	2		地域体験特論	2	地域体験基礎を含んで6単位選択必修							
			植物栽培の基本	2	科学技術と社会	2											
			日本文化	2	自然と人間	2											
			創作研究(集中)	2	文学	2											
					茶道	2											
	体験的科目	教育実習科目								教育実習Ⅰ(小)	教育実習Ⅰ(小)	4					
										教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1					
										教育実習Ⅱ(幼1)	教育実習Ⅱ(幼1)	2	教育実習Ⅲ(幼2)	教育実習Ⅲ(幼2)	2		
										教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1		
										保育実習Ⅰ(保育所)	保育実習Ⅰ(保育所)	2	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱ	2		
										保育実習Ⅰ(福祉施設)	保育実習Ⅰ(福祉施設)	2	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅱ	1		
										保育実習指導Ⅰ(保育所)	保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	保育実習Ⅲ	保育実習Ⅲ	2		
										保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1	保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅲ	1		
		体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場ボランティア	学校・保育現場ボランティア	1						
			地域体験Ⅰ	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅲ	地域体験Ⅲ	1	地域体験ボランティア	地域体験ボランティア	1						
			地域体験Ⅱ	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅳ	地域体験Ⅳ	1									
						海外留学体験	4										
	課題探求科目									専門基礎演習Ⅰ	専門基礎演習Ⅱ	2	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	2		
														卒業研究	8		
														教職実践演習(幼・小)	2		
														保育実践演習	2		

文学部教育学科科目目次

「備考・履修条件」欄について
 選択必修科目・・・
 卒業要件として一定の単位数を要する。
 履修経路を確認すること。
 日 付・・・集中講義開座日（詳細は掲示確認）

1 必修科目(選択必修含) [基礎科目]

1) 「建学の精神」科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	月	1・2	61101	空海の思想入門	添田隆昭	2	1年次	—		20

2) 基礎ゼミ科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1・2	水	2	63201	基礎ゼミⅠ	山田正行／本山司	2	1年次	—		21
3・4	水	2	63251	基礎ゼミⅡ	村尾聡／松本歩子	2	1年次	—		22
1・2	水	1	63102	基礎ゼミⅢ	今西幸藏／栗田修一郎	2	2年次	—		23
3・4	水	1	63151	基礎ゼミⅣ	柳原高文／溝淵淳	2	2年次	—		24

3) 外国語コミュニケーション科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	1	63101	English Communication I	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎/保育士必修		25
通年	水	2	63202	English Communication II	森本敦子	2	2年次	保育士必修		26

4) キャリア科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
4	月	3・4	61371	キャリアデザインⅠ	帯野久美子	2	1年次	—		27
集中	集中	集中	67153	キャリアデザインⅡ	帯野久美子	2	2年次	—		28

5) 教養科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
2	金	1・2	65131	ほとけの世界	永島龍弘	2	1年次	保育士必修		29
1・2	木	1	64101	日本国憲法	森征樹	2	1年次	教職基礎/保育士必修		30
1	月	3・4	61301	情報と教育	広瀬勝則	2	1年次	教職基礎/保育士必修		31

[専門科目]

1) 教職専門科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
4	月	1・2	61171	教育原理	岡部美香／森七恵	2	1年次	小幼免・保育士必修/教職Ⅱ必修		32
3	金	1・2	65151	教職入門	今西幸藏	2	1年次	小幼免必修		33
3・4	水	3	63352	教育と社会	山田正行	2	2年次	小幼免必修		34
3・4	金	3	65352	教育心理学	米澤好文	2	2年次	小幼免必修		35
1	金	3・4	65303	特別支援教育	宮本直美	2	2年次	小幼免必修		36
1・2	水	3	63303	教育相談	上野和久	2	2年次	小幼免必修		37

2) 小学校教諭関係科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
2	月	1・2	61131	国語科内容論	村尾聡	2	1年次	小免必修	選択必修科目	38
2	金	3・4	65331	社会科内容論	奥田修一郎	2	1年次	小免必修	選択必修科目	39
4	金	1・2	65172	算数科内容論	東尾晃世	2	2年次	小免必修	選択必修科目	40
2	月	3・4	61331	理科内容論	児島昌雄／柳原高文	2	1年次	小免必修	選択必修科目	41
3	木	1・2	64152	生活科内容論	柳原高文	2	2年次	小免必修	選択必修科目	42

1・2	木	2	64201	音楽科内容論	植田恵理子	2	1年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	43
1・2	水	4	63403	図画工学科内容論	吉垣隆雄	2	2年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	44
3	月	1・2	61151	家庭科内容論	松本歩子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	45
2	金	1・2	65132	体育科内容論	本山司	2	2年次	小免必修	選択必修科目	46
2	木	3・4	64331	初等英語科内容論	森本敦子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	47
1	月	3・4	61302	国語科指導法	村尾聡	2	2年次	小免必修	選択必修科目	48
2	月	3・4	61332	社会科指導法	奥田修一郎	2	2年次	小免必修	選択必修科目	49
1	月	1・2	61102	理科指導法	児島昌雄/柳原高文	2	2年次	小免必修	選択必修科目	50
1・2	木	3	64302	音楽科指導法	植田恵理子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	51
4	月	1・2	61172	家庭科指導法	松本歩子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	52
4	月	3・4	61372	初等英語科指導法	森本敦子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	53
集中	集中	集中	67103	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）	笠潤平	2	2年次	小免選択	選択必修科目	54
集中	集中	集中	67104	授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	児島昌雄/柳原高文	2	2年次	小免選択	選択必修科目	55
3・4	金	3	65351	音楽Ⅰ(表現技法)	岡本文音	1	1年次	小幼免選択/保育士選択	選択必修科目	56
3・4	金	4	65451	音楽Ⅱ(表現技法)	岡本文音	1	2年次	小幼免選択/保育士選択	選択必修科目	57

3) 幼稚園教諭関係科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	金	3・4	65301	幼児と健康	本山司	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	58
3	木	3・4	64352	幼児と人間関係	吉次豊見	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	59
1	木	1・2	64102	幼児と環境	児島昌雄/柳原高文	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	60
2	木	1・2	64131	幼児と言葉	香田健治	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	61
1・2	木	4	64401	幼児と表現	植田恵理子	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	62

4) 体験サポート科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	金	1・2	65101	地域体験基礎	奥田修一郎	2	1年次	—		63
3・4	木	3	64351	科学技術と社会	岡本正志	2	1年次	—	選択必修科目	64
1・2	水	4	63402	植物栽培の基本	竹田義	2	1年次	—	選択必修科目	65
3・4	水	3	63351	自然と人間	那須義次	2	1年次	—	選択必修科目	66
1・2	水	3	63301	日本文化	浅井雅宏	2	1年次	—	選択必修科目	67
3	月	3・4	61352	文学	村尾聡	2	1年次	—	選択必修科目	68
1・2	水	3	63302	創作研究	伊藤佳世子	2	1年次	—	選択必修科目	69
3・4	木	4	64451	茶道	岡本文音	2	1年次	—	選択必修科目	70
3・4	木	2	64251	書学入門(書道)	野田悟	2	1年次	小免必修	選択必修科目	71
2	月	1・2	61133	地域体験特論	岡本(正)/柳原/船井田	2	2年次	—	選択必修科目	72

5) 体験実習科目

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	1～4	62101	学校・保育現場体験Ⅰ	今西幸蔵/植田恵理子	2	1年次	小幼免選択		73
通年	火	1～4	62104	学校・保育現場体験Ⅱ	山田正行/柳原高文	2	2年次	小幼免選択		74
通年	火	1～4	62102	地域体験Ⅰ	柳原高文	1	1年次	—		75
通年	火	1～4	62103	地域体験Ⅱ	松本歩子	1	1年次	—		76
通年	火	1～4	62105	地域体験Ⅲ	村尾聡/山上祐輝	1	2年次	—		77
通年	火	1～4	62106	地域体験Ⅳ	奥田修一郎/山上祐輝	1	2年次	—		78

2 選択科目

1) 外国語コミュニケーション科目

チーム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
集中	集中	集中	67105	高野山国際ガイド体験	伊藤佳世子	1	2年次	—		79
3・4	木	4・5	64453	中国語	劉燕子	2	2年次	—		80

2) 教養科目

チーム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
3・4	木	1	64151	体育の理論と実技	本山司	2	1年次	教職基礎/保育士必修		81
3	月	3・4	61351	AIと世界	広瀬勝則	2	1年次	—		82
集中	集中	集中	67101	世界遺産と観光	宗田好史	2	1年次	—		83
1	金	3・4	65302	身体技法(ダンス)	範衍麗	1	1年次	保育士選択		84
1・2	水	4	63401	現代社会と医療	早川和生	2	1年次	—		85
3・4	水	4	63451	世界の医療課題	早川和生	2	1年次	—		86

3) 教職専門科目

チーム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
3・4	水	4	63452	教育課程論	八木英二	2	2年次	小免必修/保育士必修		87
集中	集中	集中	67152	道徳教育の理論と方法	小林将太	2	2年次	小免必修		88
3	月	1・2	61152	生徒指導論	今西幸蔵	2	2年次	小免必修		89
4	木	3・4	64371	幼児理解方法論	茂野仁美	2	1年次	幼免必修/保育士必修		90
3	月	3・4	61354	進路指導・キャリア教育	濱川昌人	2	2年次	小免必修		91

4) 保育士関係科目

チーム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
3	月	3・4	61353	保育原理	馬場住子	2	2年次	保育士必修/社福士専		92
4	金	1・2	65173	子ども家庭福祉	満洲淳	2	2年次	保育士必修/社福士専		93
2	月	1・2	61132	社会福祉論	満洲淳	2	1年次	保育士必修/社福士専		94
1	木	3・4	64301	保育者論	板倉史郎	2	1年次	保育士必修		95
3・4	金	4	65452	保育の心理学	米澤好史	2	2年次	保育士必修		96
3	火	3・4	62351	子ども家庭支援の心理学	渋谷郁子	2	2年次	保育士必修		97
2	木	3・4	64332	子どもの保健	釜島美智代	2	1年次	保育士必修		98
1	木	3・4	64303	保育内容総論	明神規子	2	2年次	保育士必修		99
2	木	3・4	64333	乳児保育Ⅰ	明神規子	2	2年次	保育士必修		100
3	木	1・2	64153	乳児保育Ⅱ	明神規子	2	2年次	保育士必修		101
3	金	1・2	65153	子どもの健康と安全	本山司	2	2年次	保育士必修		102
4	金	1・2	65171	障害児保育	南亜紀子	2	1年次	保育士必修		103
3・4	木	4	64452	表現技法(ピアノ)	植田恵理子	2	2年次	保育士選択		104
4	月	3・4	61373	表現技法(造形)	原田昌幸	2	2年次	保育士選択		105

5) 心理関係科目

チーム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
4	火	3・4	62371	発達心理学	渋谷郁子	2	2年次			106
集中	集中	集中	67151	カウンセリング論	上野和久	2	2年次			107
3	金	1・2	65152	学校臨床心理学	森崎雅好	2	2年次			108

6) 体験実習科目

チーム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
集中	集中	集中	67106	海外留学体験	伊藤佳世子	4	2年次			109

講 義 概 要
•
授 業 計 画

科目名	空海の思想入門							学期	前期 1 ターム
副 題	弘法大師の生涯とその密教思想				授業 方法	講義	担当者	添田隆昭	
ナンバ リング	K1-01-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3, 4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の伝えられた密教の教えを建学の精神としている。では密教はインドでどのように発達し 日本に伝えられたのか。弘法大師はどのように密教を理解したのか。現在の大師信仰の根拠となっている「入定留身」とはどういうものかについて考察する。

授業の到達目標

弘法大師の生涯及び密教思想の全体像を理解する。

授業計画

- 1. インド ヨーロッパ語族の広がり
- 2. ブッダの誕生
- 3. 部派仏教の成立
- 4. 大乘仏教の興起
- 5. 大乘經典 (維摩經 般若經 法華經 華嚴經 涅槃經)
- 6. 密教經典の深化
- 7. 大日經 金剛頂經の成立
- 8. 弘法大師の生涯 1
- 9. 弘法大師の生涯 2
- 10. 弘法大師の著作 1
- 11. 弘法大師の著作 2
- 12. 入定留身
- 13. 入定留身以後
- 14. 大師信仰の現在 1
- 15. 大師信仰の現在 2

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容について関心のあった部分について関連図書で調べておくこと (90 分)

テキスト

必要に応じて プリントを配布する

参考書・参考資料等

添田隆昭「大師はいまだおられますか」(高野山出版社)

学生に対する評価

期末の筆記試験 (80%) と授業への積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を自分の言葉で表現できる。
- (A) 専門用語を理解し自分の文章の中で駆使できる。
- (S) 興味のある部分について自分で探求し、文章化できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には授業中に対応する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職でもある学長が、本学の建学の精神について、弘法大師の教え及び密教思想の重要性を通して認識させる。

科目名	基礎ゼミⅠ						学期	前期 1・2 ターム	
副題	-				授業 方法	演習	担当者	山田正行／ 本山司	
ナンバ リング	K1-17-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 大学の教育理念である「いのち・文化・創造」を理解することを目的に、多様な研究の成果を学ぶことによって「いのちを活かす」人材となることをめざす。(授業の概要) 教育学科生として教育の意義と役割を考える初年次教育の機会となる。専門領域の内容を学ぶために、レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼン等の技法、学問修得に向けた動機付け、そして自分が何を学びたいのかを考える機会を得る。授業は講義をふまえて演習を行い、スタディスキルを高めることにより教育目標の達成を図る。

授業の到達目標

1. 教育の意義と役割について理解できる。 2. 多様な研究があることを知り、学修に関わる基礎的な知識やスキルを習得することができる。 3. さまざまな演習の機会をとおして、学んだ成果を自分の問題として捉えることができる。

授業計画

1. 本授業全体に関するオリエンテーション(山田・本山)
2. 自分の学部・学科の理解(山田)
3. 大学生活のデザイン化(本山)
4. 卒業研究に至る演習の理解(山田)
5. シラバスの活用と予習・復習(本山)
6. 講義の受け方と演習への参加と進め方(山田・本山)
7. 教育学の学びと演習(山田)
8. 教育社会学の学びと演習(山田)
9. 教育心理学の学びと演習(本山)
10. 心理ケアの学びと演習(本山)
11. 体育学の学びと演習(本山)
12. 社会学の学びと演習(山田)
13. 家政学の学びと演習(本山)
14. 自然科学の学びと演習(山田)
15. 本授業全体のまとめと助言(山田・本山)

準備学習(予習・復習)・時間

事前にシラバスを読んでおく。学習した内容やワーク等を踏まえて、ポイントを各自で整理して、次の授業に備える。60分以上取り組むこと。

テキスト

各回ごとに資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内課題(20%)、課題リポート(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことが理解できる。
 (B) 授業内容を理解して、主体的に行動できる。
 (A) 大学の講義や演習について理解している。
 (S) 授業内容を理解して、大学生活で自分が何を学びたいかを具現化できるようになる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

毎回出席をとる。テーマに基づいたグループディスカッションを行うことがある。今後の大学生活に大いに関係する授業なので、主体的に受講してほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校保健体育教員の経験をいかして、体育学の初歩的な内容や授業実践の基礎的な方法等を講義する。(本山)

科目名	基礎ゼミⅡ								学 期	後期 3・4 ターム
副 題	-					授業 方法	演習	担当者	村尾聡／ 松本歩子	
ナンバ リング	K1-26-003	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2	単位数	2	他	A	

授業の目的と概要

(授業のテーマ)

大学の教育理念である「いのち・文化・創造」についての理解を深めることを目的に、科学的な研究の成果からアプローチする。「いのちを活かす人材」となることをめざす。

(授業の概要)

基礎ゼミⅠで学修したことをふまえ、本授業をとおして教育の意義と役割を再確認し、学生一人一人が何に興味・関心を持つのかを検討する。そのために、本学専任教員の研究分野からの専門的な講義や演習を、コーディネーターの指導と共にオムニバス形式の授業を実施するので、内容理解に努めるとともに、自分が何を求めるのかを考えてほしい。

授業の到達目標

1. 教育の意義と役割について理解を深める。 2. 大学生生活の質を高め、学問・文化を理解することをめざして知識やスキルを身につける。 3. 科学的な視点で対象を理解する態度を身につける。 4. 広く社会をみつめることができ、その発展のために自らがどうあるべきかを考えることができる。

授業計画

1. 本授業に全体に関するオリエンテーション(村尾、松本)
2. 人文科学領域の学びと演習(1)(村尾)
3. 人文科学領域の学びと演習(2)(村尾)
4. 人文科学領域の学びと演習(3)(村尾)
5. 人文科学領域の学びと演習(4)(村尾)
6. 社会科学領域の学びと演習(1)(松本)
7. 社会科学領域の学びと演習(2)(松本)
8. 社会科学領域の学びと演習(3)(松本)
9. 社会科学領域の学びと演習(4)(松本)
10. 自然科学領域の学びと演習(1)(村尾、松本)
11. 自然科学領域の学びと演習(2)(村尾、松本)
12. 自然科学領域の学びと演習(3)(村尾、松本)
13. 自然科学領域の学びと演習(4)(村尾、松本)
14. 学生による発表会(村尾、松本)
15. まとめの講義(村尾、松本)

準備学習(予習・復習)・時間

学習内容を振り返り、レポートにまとめる (60分)

テキスト

各回ごとに、資料を配布

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

授業担当教員による授業内課題(20%)や課題レポート(80%)等で総合的に評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことを理解し、レポートが作成できる。
 (B) 授業で説明したことを理解し、科学的な視点でレポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを生かして、科学的な視点と広い視野をもってレポートが作成できる。
 (S) 授業で説明したことを生かして、科学的な視点と広い視野をもってレポートが作成でき、授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

授業に出席することは当然であるが、大学生活を有意義に過ごすために積極的に取り組むこと。グループワークやディスカッションを行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務した経験を生かし、教員として学級をどう運営し、児童にどのような接していくのか、また現在の教育の問題状況についても考える機会を提供していきたい(村尾)。

科目名	基礎ゼミⅢ							学 期	前期 1・2 ターム
副 題	教育と教職について考える					授業 方法	演習	担当者	今西幸蔵／ 奥田修一郎
ナンバ リング	K2-17-004	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 教育の現状と課題について理解し、現代の学校の諸問題を考察するために、テキストを読んだり、新聞や雑誌を丹念に見たり、学生相互の真摯な討論によって読解力やコミュニケーション能力を高める。(授業の概要) グループワークを含めながら授業を進行する。学生が事前にレジュメや資料を用意し、プレゼンテーションを行い、相互批判をとおして認識を深める。事前の周到な準備と授業への積極的な参加・参画が重要である。

授業の到達目標

1. 教育・人間形成に関わる基礎的・概説的な面からの学術的理解を形成し、他人に説明できる。 2. テキスト、新聞や雑誌の中から教育の問題だと思われる課題を見つける。 3. 他人の発表を聞き、それに対する共感や批判を適切に表現できる。 4. 現代の教育事情についての理解を深め、自分の意見を表明できる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 文献検索、教育研究とは何かの理解
3. テキストにある教育学の文献を読み込み、討論により内容を深める。
4. 前時の内容を深めるとともに、テキストにある新しい教育学の文献を読み込み、討論する。
5. 引き続き前時の内容を深める。内容の要約と感想や意見の叙述に努める。
6. 引き続き前時の内容を深める。感想や意見をそれぞれが発表・報告する。
7. 引き続き前時の内容を深める。感想や意見を出していない学生が発表・報告する。
8. 教育施設や学校を訪問、見学することによって教育についての理解の深化を図る。
9. 受講学生が希望する追加文献を読み込み、討論により内容を深める。
10. 前時の内容を深めるとともに、追加文献の内容の要約と感想や意見の叙述に努める。
11. 引き続き前時の内容を深める。感想や意見をそれぞれが発表・報告する。
12. 引き続き前時の内容を深める。感想や意見を出していない学生が発表・報告する。
13. グループごとに研究・学修したことをまとめ、パワーポイントを作成し、報告する。
14. 前時の活動を受けて、全体で討論し、内容を深めるように努める。
15. 全体のとまとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

・授業前に与えられた課題について各種資料や文献にあたって学修し、その学修成果を授業において発表する。発表にあたっては、通常の研究発表だけでなく、各種パフォーマンスによって内容の理解が図られるように工夫する。授業後には、授業中における助言や指導をふまえ、学修成果の定着を図ること。(90分)

テキスト

予定していない

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

授業内課題(20%)、課題リポート(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育に関わる現状と課題を知っている。
- (B) 教育に関わる現状と課題について考え、問題のありかを問うことができる。
- (A) 教育に関わる現状と課題を理解、考察し、問題解決に向かって考えることができる。
- (S) 教育に関わる現状と課題を理解、考察し、問題解決に向かっての意見や論理を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

各種の課題や学生から出された疑問や質問については、授業中にその都度指導・助言を与えて学生の理解を助ける。

その他

授業実施においては毎回必ず課題が示され、各自の予習成果が問われるので、しっかりと学修して授業に臨むことを求める。授業時には主体的に参加し、自己表現することが望ましい。学修成果は、将来の教職に役立つものであるため、復習によって内容の定着化を図ってほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

今西幸蔵は高等学校教員、中学校教員や大阪府教育委員会職員を務めた実務経験がある。奥田修一郎は中学校教員としての豊かな実績を有している。

科目名	基礎ゼミⅣ								学 期	後期 ３・４ ターム
副 題	現代の教育を取り巻く問題に向き合う					授業 方法	演習	担当者	柳原高文／ 溝淵淳	
ナンバ リング	K2-17-005	実務経験 の有無	無	関連 DP	2, 4, 5	単位数	2	他	A・I	

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 基礎ゼミⅢの学修成果をふまえて、今日の教育で発生するさまざまな問題や課題について多面的に分析する力を身につけ、多様なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を習得すること。(授業の概要) 教育に関わるいくつかのキーワードに基づき、これらの知識やスキルの理解に努め、その学び得た事項をプレゼンテーションできることをめざし、そのためのコミュニケーション・ツールの活用について実践的に学修する。その際、グループ化して少人数で討議する。

授業の到達目標

1. 今日の教育で発生するさまざまな問題を知り、キーワードを学ぶことをとおして、どのような課題があるのかが理解できる。 2. 問題を多面的に分析し、課題として何が必要であり、どのような道筋で取り組むべきか検討できる。 3. 自分の感想や意見を、エビデンスに基づいて述べることができる。 4. コミュニケーション・ツールを活用し、適切なプレゼンテーションを可能とする。

授業計画

- オリエンテーション
- グループによる発表と相互討議① スクール・カウンセリング、発達障害など
- グループによる発表と相互討議② いじめ、体罰など
- グループによる発表と相互討議③ 不登校、オールタナティブ・スクールなど
- グループによる発表と相互討議④ 学習指導要領、活用できる能力の育成など
- グループによる発表と相互討議⑤ 学校教育制度の統合化、総合的な学習の時間など
- グループによる発表と相互討議⑥ 地域学校協働本部、コミュニティ・スクールなど
- グループによる発表と相互討議⑦ 学校評価、学校の広報など
- グループによる発表と相互討議⑧ OECD の教育政策、リカレント教育など
- グループによる発表と相互討議⑨ PISA の実施、フィンランドの教育など
- グループによる発表と相互討議⑩ 部活動、働き方改革など
- グループによる発表と相互討議⑪ 学習評価、パフォーマンス評価など
- グループによる発表と相互討議⑫ キャリア・サポート、体験学習など
- 受講生のプレゼンテーションによる授業のまとめと感想文の作成
- 授業の総括と感想

準備学習(予習・復習)・時間

日常的に教育を取り巻く諸問題に関して情報収集し、その背景等についても考えた上で自らの意見や思いを書き出しておく (60 分)。授業後に、参加者の意見を振り返った上で自らの意見や考えに変化が生じたかなどを考えた上で、今後の展望についての意見をまとめておく (90 分)

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加の度合い (40%)、最終レポート (30%)、発表の内容およびプレゼンテーション技術(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持つことができる。
- (B) 教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持ち、その背景について思いをめぐらせることができる。
- (A) 教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持ち、その背景について思いをめぐらせた上で自らの立場や意見を述べることができる。
- (S) 教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持ち、その背景について思いをめぐらせた上で自らの立場や意見を述べ、具体的な対策や行動を展望することができる。

課題に対するフィードバックの方法

発表内容に対してコメントした上で適宜修正し、再度発表する機会を用意するなど、フィードバック後のさらなる学びの深まりをフォローすることを視野に入れた授業をおこなう。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、教育課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を多用する。 ②担当者 2 名がそれぞれ役割分担をおこないながら授業を実施する。 ③状況に応じて、ICT を活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	English Communication I						学期	通年	
副 題	ニュースを使って英語4技能5領域を伸ばす				授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K1-07-006	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

e-learning で学習したリーディング、リスニングの確認小テストと各課題の基礎文法を解説する。さらに様々な場面を想定して英語で対話形式の演習を行う。またポスターセッションやプレゼンテーションも実施する。

授業の到達目標

英語で表現し伝え合うために、英語による聞く事、読む事、話す事、書く事の言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて情報を整理しながら考えを形成し、再構築できるようになる事を目指す。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション（講義の進め方、評価の仕方）
2. パーバル・ノンバーバルコミュニケーション
3. 小テストと基礎文法解説(1) ロールプレイ（自己紹介）Topic [Anti-Asian Hate Crimes Rising]
4. 小テスト/ロールプレイ（家族構成及び紹介）Topic [Anti-Asian Hate Crimes Rising]
5. 小テストと基礎文法解説(2) ロールプレイ（キャンパスの紹介）Topic [Courthouse Facility Dogs]
6. 小テスト/ロールプレイ（道案内）Topic [Courthouse Facility Dogs]
7. 小テストと基礎文法解説(3) ロールプレイ（電話対応）Topic [Japan Works to Make Paternity Leave More Flexible]
8. 小テスト/ロールプレイ（買い物等、ショッピング）Topic [Students Cooperate with Police in Cyber Patrol]
9. 小テスト/基礎文法解説(4) ロールプレイ（ホテル等様々な予約）Topic [Emergency Number "118"]
10. 小テスト/ロールプレイ（入国審査と搭乗手続き）Topic [Emergency Number "118"]
11. 小テスト/基礎文法解説(5) ロールプレイ（幼稚園等）Topic [Shibusawa Eiichi]
12. 小テスト/ロールプレイ（小学校等）Topic [Hawker Culture in Singapore]
13. 小テスト/基礎文法解説(6) ロールプレイ（病院）Topic [Debate Sparked over Same Surname for Married Couples]
14. 小テスト/ロールプレイ（新聞記事等、ニュース）Topic [Debate Sparked over Same Surname for Married Couples]
15. 前期の授業内容についての解説、ポスターセッションと質疑応答 Topic [Video Translation]

【後期】

1. 小テスト/基礎文法解説(7) ロールプレイ（日本文化の紹介①概要）Topic [Video Translation]
2. 小テスト/ロールプレイ（日本文化の紹介②仏教等）Topic [Opinions Divided on Vaccine Passports]
3. 小テスト/基礎文法解説(8) ロールプレイ（日本文化の紹介③茶道）Topic [Opinions Divided on Vaccine Passports]
4. 小テスト/ロールプレイ（日本文化の紹介④華道）Topic [Problems with Japan's Technical Intern Training Program]
5. 小テスト/基礎文法解説(9) ロールプレイ（日本文化の紹介⑤書道）Topic [Problems with Japan's Technical Intern Training Program]
6. 小テスト/ロールプレイ（面接での自己紹介）Topic [Young Carers]
7. 小テスト/基礎文法解説(10) ロールプレイ（面接での自己PRと志望動機）Topic [Young Carers]
8. 小テスト/ロールプレイ（面接官からの質問等）Topic [Genetically Modified Mosquito Project Given Green Light in Florida]
9. 小テスト/基礎文法解説(11) ロールプレイ（面接官とのやりとり）Topic [Genetically Modified Mosquito Project Given Green Light in Florida]
10. 小テスト/ロールプレイ（プレゼンテーションの司会）
11. プレゼンテーションの仕方 講義
12. プレゼンテーションの為のグループワーク（プレゼンテーションの構成等）
13. プレゼンテーションの為のグループワーク（パワーポイント作成等）
14. プレゼンテーション及び解説
15. 全体のまとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として毎回こちらで担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。60分以上取り組むこと。

テキスト

授業内容に応じて毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語』文部科学省(平成 29 年) 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験は実施しない。ポスターセッション(40%) プレゼンテーション(40%) 復習小テスト(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) トピックの英文を読める
- (B) ロール・プレイを完遂する
- (A) 自分の意見を英語で表現できる
- (S) 課題の英文を理解し、グループワークでリーダー的な立場で行動できる

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキスト（配布したプリント）とノート、辞書を持参すること

科目名	English Communication II							学 期	通年
副 題	-				授業方法	演習	担当者	森本敦子	
ナンバリング	K2-07-007	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

英会話で頻繁に使用する英文法を学びながら、簡単な日常会話ができるようにトレーニングをする。音声付きのデジタル英語教材やオンライン英会話教材を利用しながら、スピーキング力（やり取り、発表、発音等）とライティング力を高める。英語での発表やプレゼンテーションを行い、いずれ英語で授業が行える程度の英会話力を身につける。

授業の到達目標

英会話を楽しめるようになるための英文法を学びながら、4 技能(Speaking, Listening, Reading, Writing)を高め、自信を持って英語でやり取りができるようになる。オンライン教材や英語ジャーナルを書くことで、英語のアウトプットを高める。

授業計画

【前期】

- 1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
- 2. Lesson 1① (Assessment Test)、英語ジャーナルの書き方
- 3. Lesson 1② (To Be:Introduction)
- 4. Lesson 2① (To Be+Location)、Book Flix①
- 5. Lesson 2② (Classroom Objects, Rooms in the Home)、Book Flix②
- 6. Lesson 3① (Present Continuous 1)、Book Flix③
- 7. Lesson 3② (Present Continuous 2)、Book Flix④
- 8. 英語プレゼンテーション①
- 9. Lesson 4① (To Be:Short Answers)、オンライン英会話 1
- 10. Lesson 4② (Possessive Adjectives)、オンライン英会話 2
- 11. Lesson 5① (To Be:Yes/No Questions)、オンライン英会話 3
- 12. Lesson 5② (Adjectives, Possessives Nouns)、オンライン英会話 4
- 13. 前期のまとめ
- 14. 前期テスト
- 15. 前期テストのフィードバック

【後期】

- 1. Lesson 6① (Present Continuous Tense)、Book Flix⑤
- 2. Lesson 6② (Prepositions of Location)、Book Flix⑥
- 3. Lesson 7① (There Is/ There are)、Book Flix⑦
- 4. Lesson 7② (Singular/Plural)、Book Flix⑧
- 5. Lesson 8① (Adjectives 1)、Book Flix⑨
- 6. Lesson 8② (Adjectives 2)、Book Flix⑩
- 7. 英語プレゼンテーション②
- 8. Lesson 9① (Simple Present Tense 1)、オンライン英会話 5
- 9. Lesson 9② (Simple Present Tense 2)、オンライン英会話 6
- 10. Lesson 10① (Simple Present Tense 3 Yes/No Questions)、オンライン英会話 7
- 11. Lesson 10② ((Simple Present Tense 4 Negatives, Short Answers)、オンライン英会話 8
- 12. Lesson 11① (Object Pronouns)
- 13. Lesson 11② (Have/ Has, Adverbs of Frequency)、後期のまとめ
- 14. 後期テスト
- 15. 後期テストのフィードバック、年間の学習のフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

予習として、テキストの学習範囲の音読、デジタル絵本を視聴しておくこと。講義後は英語ジャーナルを書き、学習した内容を復習しておくこと。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

Side by Side Level 1 Extra Edition: Student Book and eText with CD、SCHOLASTIC Book Flix（オンライン教材）、Hodoo English(オンライン教材)、英語レポートシート（ネット配信）

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』文部科学省。文部科学省（2017）、『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』文部科学省。

学生に対する評価

講義中の積極性（30%）、前期・後期試験（30%）、講義後の英語ジャーナル（20%）、プレゼンテーションの評価（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) 基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話をする事ができる。
- (A) 読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りをすることができる。
- (S) 豊かな語彙や英文法を使い、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義についての質問は授業内、ジャーナルのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻3回で欠席1回とみなす。・学生による模擬授業や ICT を取り入れた科目である。・テキスト教材を用いて英会話の授業を行うが、オンライン教材（2 種類）も併用する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

元英会話スクール講師、元私立小学校英語専科教員として長年勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発表指導も行う予定である。

科目名	キャリアデザインⅠ							学 期	前期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	帯野久美子	
ナンバ リング	K1-16-008	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

キャリアデザイン科目では、自らの人生と労働との関係、働く意味や社会との関わり等を理解し、仕事を通じて自己の能力や個性を発揮し、社会貢献につながる人生をどう築くのかを深く考えること、また、自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性やグランドデザインを描くことが目指される。本科目では、職業観・倫理観、キャリアデザインについての概要を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現状について、ゲストスピーカーの体験談を交えながら学びを深める。受講生が自分の人生を「創る」きっかけを得る場としたい。

授業の到達目標

・職業観・倫理観を身につける。 ・キャリアデザインとは何かを理解する。 ・日本社会の現状を理解し、変化する時代の中で生きる力を育成する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業の進め方、評価方法等についての説明
2. キャリアデザインとは何か
3. 日本社会の変化と現状、今後求められる人材とは
4. グローバル化の中で求められる異文化理解と地域創生
5. グローバル化の中で求められる人材とコミュニケーション力
6. 地域ビジネスについて考える
7. 問題提起と質疑応答の中で提起された問題について考え、まとめ、発表する。
8. グローバルビジネスについて考える
9. 問題提起と質疑応答の中で提起された問題について考え、まとめ、発表する。
10. 日本の伝統文化について考える
11. 問題提起と質疑応答の中で提起された問題について考え、まとめ、発表する。
12. グローバル化とスポーツについて考える
13. 問題提起と質疑応答の中で提起された問題について考え、まとめ、発表する。
14. 自らのキャリアデザインを設計し、まとめる
15. キャリアデザインの発表と質疑応答、授業の振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として与えられたテーマに関する情報を収集し理解しておくこと。事後学習として与えられた課題に関してレポートを提出すること。※いずれも 60 分以上取り組むこと

テキスト

適宜資料を指定する。

参考書・参考資料等

適宜資料を指定する。

学生に対する評価

授業への参加の度合い 30％ レポート 30％ 最終プレゼン 40％

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリアデザインに関する語彙を理解できる
- (B) キャリアデザインとは何かについて理解できている
- (A) 日本社会の現状を理解し、職業を自身のこととして考えることができる
- (S) 変化する時代の中で生きる力を持って、自身のキャリアデザインを描くことができる

課題に対するフィードバックの方法

毎回、質疑応答の時間をとり、授業内でフィードバックを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

学生によるディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

自ら企業を運営している取締役として、その経験を活かし、学生自身にキャリアデザインの設計や社会人基礎力を身につけてもらうような授業を行う。

科目名	キャリアデザインⅡ							学 期	集 中
副 題	10 年後の日本の教育を考える				授業 方法	演 習	担当者	帯野久美子	
ナンバ リング	K2-16-009	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

デジタル化、グローバル化の中で日本の教育は大きく変わろうとしている。将来教壇に立つ学生が 10 年後の教育現場を予想することは極めて重要である。キャリアⅡでは「デジタル技術で教育がどう変わるのか」を学び、「技術革新の中で子供を幸せにするために何が必要なのか」について考える。併せて多様な世界の教育を見ながら「デジタル化がもたらす可能性」についても考察する。

授業の到達目標

・デジタル教育の可能性と課題について理解する。 ・世界の教育と日本の教育の違いを理解する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業の進め方、評価方法等。
2. Edtech の生まれた背景
3. Edtech の現状と可能性を理解する
4. AI ロボット・キュビナを使った授業モデルで未来の教室を体験する
5. 環境と技術の融合について考える
6. デジタル教育と子供の幸せについて考える
7. 日本と世界の教育の違いを知る
8. アメリカの教育の現状と課題Ⅰ
9. アメリカの教育の現状と課題Ⅱ
10. フィンランドの教育の現状と課題Ⅰ
11. フィンランドの教育の現状と課題Ⅱ
12. ルワンダの教育の現状と課題Ⅰ
13. ルワンダの教育の現状と課題Ⅱ
14. シンポジウム「デジタル教育の未来と可能性」
15. まとめ、授業の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として与えられたテーマに関する情報を収集し理解しておくこと 事後学習として与えられた課題に関してレポートを提出すること ※いずれも 60 分以上取り組むこと

テキスト

適宜資料を指定する

参考書・参考資料等

適宜資料を指定する

学生に対する評価

授業態度 30% レポート 40% 最終プレゼン 30%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の到達目標に記された内容について合格最低基準である
- (B) 授業の到達目標に記された内容について妥当な習得がなされている
- (A) 授業の到達目標に記された内容について優れた成果を認められる
- (S) 授業の到達目標に記された内容について特に優れていてと認められる

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う

その他

学生によるディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れた科目である

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

自ら企業を運営している取締役として、その経験を活かし、学生自身にキャリアデザインの設計や社会人基礎力を身につけてもらうような授業を行う。

科目名	ほとけの世界							学期	前期2 ターム
副題	-				授業 方法	講義	担当者	永島龍弘	
ナンバ リング	K1-02-010	実務経験 の有無	有	関連 DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

「ほとけ」について分かりやすく紹介し、仏教と人間や社会との関わり、その役割などについて理解することを目的とする。特に仏教の開祖釈尊の教えと真言宗の開祖弘法大師空海の教えを中心として仏教の理解を深める。講義の中で、密教瞑想である阿字観にも触れ、体験的に学ぶ。

授業の到達目標

釈尊と弘法大師の実像を知り、その教義を理解し、生きる指標とする。

授業計画

1. 「ほとけ」の考え方、見方
2. 「ほとけ」の考え方、見方
3. 仏教の意味
4. 仏教の意味
5. 釈尊の生涯 — 出生と成道・初転法輪 初転法輪と布教の旅
6. 釈尊の生涯 — 出生と成道・初転法輪 初転法輪と布教の旅
7. 釈尊の教え — 縁起・中道・四諦・八正道について
8. 釈尊の教え — 縁起・中道・四諦・八正道について
9. 仏教の伝播と涅槃 六波羅蜜について
10. 仏教の伝播と涅槃 六波羅蜜について
11. 空海の生涯 映画「空海」の鑑賞
12. 空海の生涯 映画「空海」の鑑賞
13. 阿字観・写経・勤行実修
14. 阿字観・写経・勤行実修
15. 密教の教え 空海の教え

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

村上保壽 著 「空海-日本人のこころの言葉」 創元社

参考書・参考資料等

授業中で紹介

学生に対する評価

レポート（50％） 発表（50％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教に関する基礎的な語彙を理解している。
- (B) 仏教・密教の歴史、釈尊、空海の生涯について知る。
- (A) 釈尊・空海の教えについて基礎的な理解を有し、説明できる。
- (S) 仏教、密教の教義を理解し、自らの生活・人生に活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶である教員がその経験を踏まえ、仏教と人間や社会とのかわり、役割について講じる。

科目名	日本国憲法							学 期	前期 1・2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	森征樹	
ナンバ リング	K1-09-011	実務経験 の有無	無	関連 DP	2, 4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

われわれの社会では、憲法の内容を分からなければ理解できない様々な問題が日々起っている。本講義では、時事問題や過去の裁判例などの具体的な事例を取り上げ、現代社会における「憲法問題」をどのように読み解けばよいのかを考察する。さらに日本国憲法の基本的な構造と原理を学ぶことによって、現代社会の問題点について、自己の意見を論理的に主張する力を身につける。

授業の到達目標

講義で扱う「憲法問題」、「人権問題」を考えるにあたって、最低限必要な知識を身につけるとともに、これらの問題に対して自分の意見を持って解決策を探り、自分の主張を的確に表現できるようにする。すなわち、最低限の暗記は必要だが、自身の主張を論理的に形成して（説得力のある）文章に記すようになることが大事である。

授業計画

1. ガイダンス／憲法とは何か
2. 人権とは何か／子どもの人権・外国人の人権
3. 新しい人権／プライバシー権・自己決定権
4. 法の下での平等／性差別とは
5. 表現の自由／なぜボルノは規制されるのか
6. 職業選択の自由（営業の自由）
7. 生存権／人間らしく生きるということ
8. 教育を受ける権利／誰が教育内容を決めるのか
9. 平和主義／戦争が起きないために何をする
10. 立法権／国会は何をするところか
11. 内閣／政府がしなければならないこと
12. 裁判所①／裁判の種類・内容
13. 裁判所②／司法審査制とは何か
14. 地方自治／住民投票で決着を！
15. 憲法改正／憲法は改正すべきなのか

準備学習(予習・復習)・時間

・事前にテキストの該当ページを毎回読み、理解できないところを洗い出しておくこと。(予習：60分) ・授業後に、理解できていないところを必ず復習し、自分のノートを作成すること。(復習：60分) ・毎回、新聞やニュースで憲法に関することを探して内容を調べておくこと。(60分)

テキスト

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』有斐閣アルマ、2020年。

参考書・参考資料等

西原博史、斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門〔第2版〕』弘文堂、2019年。志田陽子編著『合格水準 教職のための憲法』法律文化社、2017年。

学生に対する評価

期末試験（70％）、授業への積極的参加・小テスト（30％）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ・現代日本社会において憲法がどのように機能しているかを理解している。 ・各種の人権規定の内容が把握できている。
- (B) (C)に加えて、 ・人権が侵害された場合や、平和が脅かされる場合の解決策について自身の考えを提示できる。
- (A) (B)の内容を、自分の言葉でわかりやすく説明できる。
- (S) (A)に加えて、 ・他者の意見に耳を傾けながら、自身の主張を止揚して新たな知見を形成できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問等に関しては、コメントペーパーに記してもらい、翌週の授業においてフィードバックを行う。

その他

テーマによっては、ディスカッションやグループワークを行う。資料・レジュメはICTを活用して配布する。

科目名	情報と教育							学 期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	広瀬勝則	
ナンバ リング	K1-13-012	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

インターネットやメール、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業時においても大切な要素の一つである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやスキャナーなど、コンピュータの周辺機器を扱う能力も必要とされるようになった。本科目では具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力が付くよう構成されている。次の「各回の授業テーマ・内容」に示した内容を学習し、ワード・エクセル・パワーポイントの持つそれぞれの基本機能を習得し、専門分野への応用ができる技能を身につける。

授業の到達目標

一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得しながら、操作の仕組みや背景を理解するといった、総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。授業では、以下の2点を到達目標とする。(1) 幼児・児童の興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児や児童の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(2) 幼児や児童の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

授業計画

1. パソコンの起動と終了、ウィンドウの操作、ファイルやフォルダの管理。タッチタイピング練習。
2. パワーポイント：PowerPoint2016の起動と終了。簡単なプレゼンテーションの作成。
3. パワーポイント：オブジェクトの挿入（ワードアート、画像、図形、表、テキストボックス等）。
4. パワーポイント：Excelの利用（Excelで表とグラフを作成、Excelグラフの取り込み）。
5. パワーポイント：効果的なプレゼンテーションにする（画面切り替え、スライドショー、アニメーション）。
6. パワーポイント：自己紹介の作成
7. ワード：Word2016の基礎知識。入力のいろいろ（入力・文書編集）。
8. ワード：体裁を整える（ページ設定・文書の書式設定）。
9. ワード：表を作成する（表の挿入、表のレイアウト変更、表の書式設定、段落罫線の設定）。
10. ワード：ビジュアルの文書（1）（ワードアートの挿入と編集、図形の描画と編集、画像の挿入と編集）。
11. ワード：ビジュアルの文書（2）「学園だより」の作成。
12. エクセル：Excel2016の起動、データの入力（表示形式、フォントの書式設定、行や列の編集）。
13. エクセル：計算式の入力（式の入力、オートフィル機能、オートSUM、相対参照と絶対参照）。
14. エクセル：関数の利用とグラフの作成。
15. エクセル：データベースの利用（並べ替え、フィルターによる抽出）。

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、タッチタイピングの練習をしておくこと（60分） ・授業後に毎回宿題を課すので、次回に提出すること（90分）

テキスト

『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2016 対応』実教出版株式会社 定価（本体600円+税）（生協で購入）

参考書・参考資料等

『よくわかる Word 2016 基礎』富士通エフ・オー・エム株式会社 定価2,200円（税込）『よくわかる Excel 2016 基礎』富士通エフ・オー・エム株式会社 定価2,200円（税込）

学生に対する評価

小テスト（30%）、課題（60%）、発表（10%）。授業態度も重視する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ワードプロソフトを用い、簡単なビジネス文書が作成できる。表計算ソフトを用い、簡単な計算や表が作成できる。
- (B) ワードプロソフトを用い、簡単な図表入りのビジネス文書が作成できる。表計算ソフトを用い、簡単な関数やグラフが作成できる。
- (A) ワードプロソフトを用い、見本とおりの図表入りの文書が作成できる。表計算ソフトを用い、目的に応じた関数やグラフを選択できる。
- (S) ワードプロソフトを用い、図表入りの文書を自由に作成できる。表計算ソフトを用い、関数やグラフを自由に作成できる。プレゼンテーションソフトで自由に発表できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された課題は、添削し次回授業時に返却する。

その他

・グループ分けによるメンバー間での「教え合い」。 ・グループ・ワーク課題の実施。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。

科目名	教育原理							学期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	岡部美香／ 森七恵	
ナンバ リング	K1-17-013	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【授業のテーマ】教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出す。【授業の方法】おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、小レポートの作成・提出を求める。【準備学習の内容】毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。

授業の到達目標

【到達目標】○教育に関わる基本的な概念を学び、自らの言葉で具体的に説明できる。○多様な教育の理念や思想が、どのような歴史的背景のもと現れてきたのかを理解している。○現代社会における様々な教育課題やその解決策について、多角的に考察できる。

授業計画

1. イントロダクション——教育の原理を学ぶ意義
2. 「教える」とは何か——人間形成と教育
3. 「子ども」の誕生と変容
4. 西洋における教育の歴史と思想①——哲学・キリスト教と教育
5. 西洋における教育の歴史と思想②——ルネサンス・市民革命と教育
6. 西洋における教育の歴史と思想③——近代の学校教育の成立
7. 西洋における教育の歴史と思想④——科学・ポストモダン時代における教育
8. 日本における教育の歴史と思想①——近代以前の教育
9. 日本における教育の歴史と思想②——近代学校の成立
10. 教育評価の歴史と思想——教育評価と学力観の変遷
11. 教育とメディア——学習理論と学習指導の形態
12. 現代社会と教育①——多文化教育
13. 現代社会と教育②——インクルーシブ教育
14. 現代社会と教育③——子どもの貧困
15. 授業のまとめと確認

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】次回授業に関するテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく（60分）。【復習】毎回授業で扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えておく（60分）。その他は授業中に別途指示する。

テキスト

岡部美香（編著）『子どもと教育の未来を考えるⅡ』北樹出版、2017年 その他、適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

古谷恵太（編著）『教育の哲学・歴史』学文社、2017年

学生に対する評価

小レポート（40％）・試験（60％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育に関わる基本的な理念や思想を理解している。
 (B) 教育に関わる理念や思想を、自らの言葉で説明できる。
 (A) 教育に関わる理念や思想を、現代的課題に結びつけられる。
 (S) 教育に関わる理念や思想の理解をもとに、現代的課題について多角的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートについては、毎回次の授業時にフィードバックを行う。最終授業で試験の総評を行う。

その他

グループ・ディスカッションを行う科目である。

科目名	教職入門							学 期	後期 3 ターム	
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	今西幸蔵	
ナンバ リング	K1-17-014	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A	

授業の目的と概要

教職に関する理解を深め、学校をとりまく教育条件を理解することにより教員の役割を認識する。この授業では、講義をとおりて実際の教育行政や教育現場の様子を知り、教員としての基礎的な資質を高めることをめざす。学校現場では、多様な教育活動が求められているため、教員としてのあり方や指導の仕方について、個人としてだけでなくチーム学校として対応していかねばならないことを学ぶ。また、学校が社会から期待されており、それに応えるべく教員の役割について実例を取り上げて解説するので、それを学ぶことによって自ら教員としての意識と意欲を高めてほしい。

授業の到達目標

この授業では、講義をとおりて実際の教育行政や教育現場の様子を知り、教員としての基礎的な資質を高めることをめざす。学校現場では、多様な教育活動が求められているため、教員としてのあり方や指導の仕方について、個人としてだけでなくチーム学校として対応していかねばならないことを学ぶ。また、学校が社会から期待されており、それに応えるべく教員の役割について実例を取り上げて解説するので、それを学ぶことによって自ら教員としての意識と意欲を高めてほしい。

授業計画

1. 教職課程と教員免許制度
2. 教職の意義と教員
3. 教育行政と教員採用の現状【授業内課題 1】教員の身分について
4. 教員と校務
5. 教員と教材研究
6. 教員の諸権利と義務【授業内課題 2】教員の仕事の内容と教材研究
7. 子ども文化と子ども理解
8. 子どものいのちと安全を守る教育【授業内課題 3】子どもをどう理解したか
9. 児童・生徒指導のあり方、進め方とチーム学校づくり
10. 教員と服務・研修制度
11. 教員に問われていること、求められていること【授業内課題 4】良い先生とは
12. 教員に必要な資質や能力
13. 地域社会と学校の協働化【期末レポート】地域社会と学校とがどうつながるべきか
14. 教員と家庭・地域社会との関わり、コミュニティスクールの進め方
15. 過去と未来の学校

準備学習(予習・復習)・時間

1. 事前学習として、前時に配付された授業レジュメをよく読み、簡単な記入を行うだけでなく、キーワードについてその意味や概念を調べておく。
2. 事後学習として、適宜、授業の振り返りを目的とした小レポートを仕上げる。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識（三訂版）』八千代出版

参考書・参考資料等

解説教育六法編集委員会『解説 教育六法 2021 年版』三省堂、古川治・今西幸蔵他『教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房、下村哲夫『先生の条件』学陽書房、立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』法律文化社

学生に対する評価

授業内課題（80%）、期末レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教職とはどのような仕事であり、学校が果たす役割が何かという基本事項を知る。そのことをふまえて、日本の教育に対する理解を進めるようになる。
- (B) 教職に意欲や関心を持ち、教員になろうとする気持ちを持つ。さらに、教員として必要とされる基礎的知識とスキルを身につけようとする。
- (A) 教員になりたいとする意欲が生まれ、そのための力を身につけようとする。教員としての具体的なスキルや質の高い知識を獲得することについて考えるようになる。
- (S) 教員になりたいとする強い意志が見られ、教職課程学習に対して積極的な姿勢を示すようになる。質の高い教員をめざして、自己研鑽に励むようになる。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施した際には、次の講義において解説を実施し、振り返りと知識やスキルの定着を図る。

その他

1. 教職課程プログラムの最初の科目であり、先ずは「教職」についての基本的理解に努め、その上で、教員になることについて考えてほしい。
2. 配付する授業レジュメは、授業の概要を理解する上で重要な内容を示しているため、読み解くことによって何を学ぶのかを理解しておく必要がある。
3. アクティブラーニングであるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ジグソー法などを取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校及び高等学校教員及び教育委員会事務局職員としての勤務経験があり、その経験を活用して教職を志望する学生への対応に生かす。また、他大学の教員として、この科目と内容のほぼ変わらない学修活動を指導してきている。

科目名	教育と社会								学 期	後期 3・4 ターム
副 題	社会の持続可能な発展／開発のための教育					授業 方法	講義	担当者	山田正行	
ナンバ リング	K2-17-015	実務経験 の有無	無	関連 DP	5	単位数		2	他	A

授業の目的と概要

教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、社会の教育への影響や作用を基軸に学校や教師の機能、役割、課題を講義する。児童生徒が社会の持続可能で公正な開発／発展を進め、超スマート社会(Society 5.0)を担える者となる学力・体力・徳性・生きる力を習得させる授業実践を解説する。日本再生や教育再生など具体的課題に即してアクティブ・ラーニングを組み入れ、理論や知識を実践力に結実させる。午後のマイスター制度の豊富な教育スタッフの協力による体験学習プログラムやフィールドワークに繋げる。

授業の到達目標

人間が安心して生きられる安全な社会を基盤とし、またそれを支える教育のあり方、そのための学校と教師の役割をテーマとする。そして、これを実践的に理解して、児童生徒を地域の持続的な発展の担い手として育成できる教育的力量の向上を目標とする。

授業計画

1. 授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明(シラバスにある諸概念の詳しい解説)
2. 教育と社会と捉える視座—学校と地域の角度から
3. 学校教育と社会教育の連携とシナジー効果(相乗効果)
4. 学校の基盤としての安全な地域社会—安全教育の役割と課題
5. 児童生徒の家庭生活の理解—学校教育と家庭教育
6. 教師と親・保護者の協力—P T Aと相互教育
7. 子供会・少年団の教育的な機能—地域生活における形成と教育
8. 総合的学習とボランティア活動—アクティブ・ラーニングの指導
9. 地域のグローバル化と学校の役割—外国にルーツのある児童生徒の指導
10. 地域の伝統文化を活用した授業実践(多文化共生の中での日本的アイデンティティ)
11. 地域の人材を活用した授業実践(生涯学習の成果の還元・活用)
12. 学校開放とセーフティネットの構築—安全教育の実践(アクション・リサーチ)
13. 「教育再生」における学校や教師の役割—レジリエンス、生きる力の育成のために
14. 超スマート社会(Society 5.0)に向けた学校や教師の役割—明日を担う子供を教えるために
15. 授業のまとめ、振り返り、フィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

シラバスと参考書・資料に基づく予習 (90 分)、授業の指示に基づく復習 (90 分)。

テキスト

最新の研究成果や情報をまとめたレジュメを毎回配付する。

参考書・参考資料等

ジョン・デューイ『学校と社会』岩波文庫。稲垣・岩井・佐藤編著『社会と教育』協同出版。『文部科学省白書』最新版。山田『アイデンティティと時代』同時代社。山田「公共性の実践的構造転換と学習の認識論・I—「叢書生涯学習」(1987-1992 年)の発展のために—」『大阪教育大学紀要』総合教育科学第 68 巻

学生に対する評価

授業への積極的な態度等 20%、小レポート 30%、定期試験 50%。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 参考書・資料、授業の六割が理解できる。
 (B) 参考書・資料、授業の七割以上の理解を、教育や社会に適用できる。
 (A) 参考書・資料、授業の八割以上の理解を教育や社会に適用し、論理的に思考し、表現できる。
 (S) 参考書・資料、授業の九割以上の理解を教育や社会に適用し、論理的に思考し、積極的に解釈や提言を表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業やクラスルームで総評・解説し、個別的にはオフィス・アワーやメールで対応する。

その他

科目名	教育心理学						学 期	後期 3・4 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	米澤好史	
ナンバ リング	K2-17-016	実務経験 の有無	無	関連 DP	2, 3	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育の対象を理解するため、教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。養護教諭として生徒に教育することはもちろん、将来、患者教育や保健指導、臨床指導や看護教育の場面で活用できることをねらい、本授業では発達と教育に関する概念・理論を学び、教育実践の基礎的スキルを習得する。

授業の到達目標

こどもの発達、特性を正しく理解し、学習、教育のメカニズムを踏まえた、適切な支援、かかわりができる人材育成をめざす。

授業計画

1. 発達支援と発達を規定する要因
2. 愛着という視点と人間関係の支援
3. 愛着障害・発達障害の理解とその支援
4. いじめの理解と支援
5. 不登校の理解と支援
6. 特性の理解と評価
7. 知能の特性とその発達
8. 「わかる」メカニズムとその支援（１）－わかるの落とし穴－
9. 「わかる」メカニズムとその支援（２）－わかる支援に必要なこと－
10. 「覚える」メカニズムとその支援
11. 「学ぶ」メカニズムとその支援（１）－できるとわかるの違い－
12. 「学ぶ」メカニズムとその支援（２）－学び支援のあり方－
13. 「意欲」のメカニズムとその支援
14. 「考える」メカニズムとその支援
15. まとめ（こどもを支援するということ）

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

米澤好史（著）「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラム－発達障害・愛着障害 現場で正しくこどもを理解し、こどもに合った支援をする－ 福村出版

参考書・参考資料等

米谷淳，米澤好史，尾入正哲，神藤貴昭（編著）『行動科学への招待〔改訂版〕－現代心理学のアプローチ－』 福村出版

学生に対する評価

出席及び授業参加意欲、参加態度 50%、試験とレポート 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- （C）授業の到達目標に記された内容について合格最低基準である
- （B）授業の到達目標に記された内容について妥当な習得がなされている
- （A）授業の到達目標に記された内容について優れた成果を認められる
- （S）授業の到達目標に記された内容について特に優れていると認められる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

状況に応じて遠隔による授業を行うことがある。

科目名	特別支援教育							学 期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	宮本直美	
ナンバ リング	K2-17-017	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現代の特別支援教育に至る今日までの歴史的変遷を、基本理念、制度、教育内容を通して学ぶ。そして、特別支援教育、システム、指導法の基本的な理解をする。

授業の到達目標

障害や特別なニーズのある子どもに対する、その子どもを支える教育や制度を理解することにより、特別支援教育の在り方とその方法を理解できることを目標とする。

授業計画

1. 特別支援教育とは～その概要～
2. 特別支援教育に至る障害児教育の歴史的変遷
3. 特別支援教育の理念、その基本的な考え方
4. 特別支援教育の対象
5. 「特別なニーズ教育」と特別支援教育
6. 個別の教育支援計画と指導計画
7. 特別支援学校における教育の概要
8. 特別支援学校における教育課程の特長
9. 特別支援学校における教育、その自立活動の目標及び内容
10. 特別支援学校におけるセンター的機能とその役割
11. 特別支援教育コーディネーターの役割
12. 幼、小、中学校等における特別支援教育～特別支援学級、通級、その指導の仕組み～
13. 幼、小、中学校等における特別支援教育～校内支援体制、その仕組み～
14. 幼、小、中学校等における特別支援教育～地域との連携教育体制～
15. 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：講義時に配布する資料や紹介した文献、教示したテキストの当該箇所を読み、疑問点等を含めて内容について整理しておくこと。事後学習：毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと（計 90 分以上）。

テキスト

森田健宏・田爪宏二（監修）よくわかる！教職エクササイズ 5 石橋裕子・林幸範（編著）特別支援教育 ミネルヴァ書房 2019 年 （生協で購入）

参考書・参考資料等

適宜配布する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業の最後に提出するレポート（30％）、授業中の発言や発表、グループワークやプレゼンへの取り組み等授業への参加状況（20％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- （C）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。
- （B）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
- （A）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心を持ち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
- （S）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題は添削し次回の講義時に返却し、理解力を高める。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークや学生によるプレゼンテーションを行う科目である

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

授業 10～15 において、発達障害のある生徒等や障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等への指導と支援について、担当者の通級・特別支援コーディネーターとしての体験を取入れ、具体的な事例を通して講義、演習を行う。

科目名	教育相談							学 期	前期 1・2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバ リング	K2-17-018	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。また、子どもの発達上の課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する問題を取りあげ、それらへの理解を深めていく。

授業の到達目標

学校教育相談の意義や方法について理解できる。また、子どもの発達課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する典型的な課題についての基本的理解を得ることができる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学校教育相談とは
3. 学校教育相談と生徒指導
4. 学校教育相談の基礎 1－カウンセリングの基本－
5. 学校教育相談の基礎 2－カウンセリングの諸理論－
6. 学校教育相談の基礎 3－発達障害－
7. 学校教育相談の基礎 4－アセスメント－
8. スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー
9. 校内連携－チーム学校－
10. 保護者との関係
11. 学校教育相談と不登校
12. 学校教育相談といじめ
13. 学校教育相談と虐待
14. 学校教育相談と特別支援教育
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

「体験型ワークで学ぶ教育相談」(2019 年、小野田正利他監修 大阪大学出版会)

参考書・参考資料等

生徒指導提要(平成 22 年 3 月 文部科学省)又は、新・生徒指導提要(発刊未定)。他は、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業での態度・意欲(50%)、試験(レポートを含む)(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育相談の理論と技術の基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) 教育相談の理論と技術の基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) 教育相談の理論と技法(最低3つ以上)の関連性と実践について説明できる。
- (S) 教育相談の理論と技法を用いて、学校場面の基礎的な問題事象を解決できる提案やロールプレイにおいて実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング(active learning)を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚(フェルトセンス)に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクティショナー、SE プラクティショナー、I S P トレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県 SC・スーパーバイザーに就任

科目名	国語科内容論							学 期	前期 2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバ リング	K1-20-019	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解を深める。国語科には「詩、物語、小説などの文学教材」「伝統的な言語文化である俳句、短歌」「説明文（論説文）」「作文教育」「読書指導」などがある。講義は教員自らが文学教材、説明文などを「模擬授業形式（学生参加型）」で講義する。

授業の到達目標

1) 学習指導要領に示された国語科における国語教育の内容を理解する。 2) 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、伝統的な言語文化と国語の特質」における具体的な指導内容について理解する。

授業計画

1. 学習指導要領国語科の学力観と教育内容
2. 詩教材、低学年
3. 詩教材、中・高学年
4. 物語教材、低学年
5. 物語教材、中・高学年
6. 説明文教材、低学年
7. 説明文教材、中・高学年
8. 俳句教材
9. 短歌教材
10. 絵本
11. 作文教育について
12. 読書指導について
13. 国語科教育のその他の教育内容について
14. 授業構想の立て方
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った内容（詩や物語をどのように分析・解釈し、どのような発問、板書で授業化するのか）について要点を整理する。文芸学、教育的認識論（ものの見方・考え方）の概念用語を復習し、覚える。
※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

・文部科学省『学習指導要領解説 国語編』東洋館出版 ・平成 29 年小学校国語教科書『国語 四 上 か
がやき』光村図書出版、令和 2 年 ・小学校国語教科書『国語 四 下 はばたき』光村図書出版、令和 2
年 ・講義時に適宜資料（テキスト）を配布

参考書・参考資料等

村尾聡『文学教育論—西郷文芸学のエデュケーション—』ブイツーソリューション、2014 年 西郷竹彦監修、
文芸教育研究協議会著『新国語教育事典』明治図書、2005 年

学生に対する評価

授業への積極的参加(30%) レポート(30%) 定期試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 講義で学習した内容を自分の言葉で表現できている。
- (A) 講義で学習した内容を文芸用語を使って表現できている。
- (S) 講義で学習した内容を文芸用語を使っている確に表現できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

パワーポイントを使って、模擬授業形式で講義を行う。学生同士の話し合い（グループワーク）の時間もとる。講義後に授業内容についての感想を書いてもらい小テストとする。授業の 3 分の 1 をこえて欠席した場合は失格とし、遅刻・早退は 2 分の 1 の欠席と計算とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 25 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	社会科内容論						学期	前期 2 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバ リング	K1-20-020	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を身に付ける。また、本講義では、小学校の社会科の学習内容と学年間の系統性について理解するとともに、教科書を手掛かりとして、“社会”に関する基礎的な知識を、様々な角度から考察する。本講義を通して、受講者が持続可能な社会の在り方に関心がもてるようにする。

授業の到達目標

(1) 社会科の学習内容について理解を深める。(2) 時事問題について基礎的な解説ができる。

授業計画

1. 授業ガイダンス 今までの社会科の学びを振り返る。
2. 新学習指導要領：「主体的対話的な深い学び」をつくるためにはどうすればいいのかを考える。
3. 教科書の性格、役割、構成。教材とは何かを考察する。
4. 社会科学習方法にはどんなものがあるのかを調べ、まとめる。
5. 第3学年の内容「身近な地域や市の様子」や「地域に見られる販売の仕事」を見方・考え方から教材研究する。
6. 第3学年の内容「地域に見られる生産の仕事」の単元をフィールドワークや取材から教材を考える。
7. 第4学年の内容「都道府県の様子」 各都道府県新聞をプレゼンしあう。
8. 第4学年の内容「自然災害から人々を守る」 すぐれた実践に学ぶ。
9. 第5学年の内容「我が国の農業・水産業における食料生産」 どんな探求課題を設定すればいいかを考える。
10. 第5学年の内容「我が国の産業と情報の関わり」 社会見学・取材を授業に生かす。
11. 第5学年の内容「日本の国土」 災害に強い町づくりという視点からの授業づくりを行う。
12. 第6学年の内容「私たちの生活と政治」 模擬裁判の判断をツールミン図式でまとめる。
13. 第6学年の内容「我が国の歴史Ⅰ」 史料を有効に使う授業とは何かを考察する。
14. 第6学年の内容「我が国の歴史Ⅱ」エンパシーに着目して。グループ発表（模擬授業）を行う（その1）。
15. グループ発表（模擬授業）を行う（その2）。小テストと講評

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、次回までに調べたり提出したりする課題を提示するので、小レポートや課題・指導案として提出すること(60分)。授業で使ったバワが資料は、classroomに載せるので復習しておくこと。(30分)

テキスト

学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 日本文教出版 （生協で購入）

参考書・参考資料等

北俊夫他/新編 新しい社会 3～6/東京書籍

学生に対する評価

レポート[作品や授業略案も含む] (30%)、小テスト(20%)、ワークシート記述内容(30%)、積極的参加度・発表[模擬授業も含む] (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・これまで受けてきた社会科の学びを振り返ることができる。学習指導要領の内容(求められる学び、教科目標、教科内容など)が理解できる。
- (B)・自分の社会科の学びを振り返るとともに、また、学習指導要領の内容を理解し、学習課題を考えることができる。
- (A)・自分の社会科の学びを振り返るとともに、また、学習指導要領の内容を理解し学習課題を考えることができる。また、学習者の関心ももてるような教材を用意できている。
- (S)・自分の社会科の学びを振り返るとともに、また、学習指導要領の内容を理解し学習課題を考え、また、学習者の関心にそった授業を指導案で表現できている。

課題に対するフィードバックの方法

・授業での振り返りワークシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については、コメントを書き、個々にフィードバックするとともに、全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめて共有し深めるようにする。

その他

・現学習指導要領では、「主体的・対話的な深い学び」が求められている。特に、社会科はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法がこれまで多く取り入れられてきた。それを学ぶためにも、授業では、PBL、グループディスカッション、グループ内プレゼン、ゲームシミュレーションなどを行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が、その経験を活かして、子どもが意欲的に学ぶ授業づくりができるように指導する。そのために、まず、自分たちが学生時代に受けてきた授業を振り返る。また、カリキュラムや単元・授業の計画、単元のトピックで何ができるのかを、「学習指導要領」「子どもの現状」「学問の研究成果」「社会の現状」を踏まえて、具体的な単元計画や授業案の形で表現できるよう指導する。

科目名	算数科内容論							学期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	東尾晃世	
ナンバ リング	K2-20-021	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校学習指導要領における算数科の目標、領域、各学年の内容とその系統性を実践的・協働的な学びを通して理解する。小学校算数の領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データ活用）を理解し、学年での系統性や指導上考えるべき点などを学習指導要領に基づいて理解し、指導の在り方についての見通しを持つことを目指す。

授業の到達目標

学習指導要領に基づいて算数科の目標、領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）、内容とその系統性について理解できる。また、小学校における算数科の学習内容に関わる数学に関する基本的な知識を身に付けることができる。

授業計画

- 1. オリエンテーション（授業の目的と授業の進め方について、算数科の内容構成）
- 2. 算数科に係る学習指導要領の歴史
- 3. 算数科の目標
- 4. 数学的活動の意義
- 5. 算数科における問題発見・解決学習
- 6. 数と計算（1）低学年
- 7. 数と計算（2）高学年
- 8. 図形（1）低学年
- 9. 図形（2）高学年
- 10. 測定
- 11. 変化と関係
- 12. データの活用（1）基本
- 13. データの活用（2）発展
- 14. 算数科における内容と系統性について
- 15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

- ・課題について調べてまとめ、発表や討議を踏まえ内容について各自で整理する。（60 分）
- ・講義内容について、要点をまとめる。（60 分）

テキスト

文部科学省(2017), 小学校学習指導要領解説算数編, 日本文教出版

参考書・参考資料等

文部科学省(2017), 小学校学習指導要領, 東洋館出版 必要に応じて資料を配付する

学生に対する評価

試験(小テスト)30%, レポート・授業への取り組み 70%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 合格と認められる最低限の成績である
- (B) 妥当と認められる成績である
- (A) 優れた成績である
- (S) 特に優れた成績である

課題に対するフィードバックの方法

レポートや発表等に対するフィードバックを適宜行う

その他

グループワーク、発表を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

教育現場での実務経験を生かして、算数科の目的や内容に係る授業を行う。

科目名	理科内容論							学期	前期 2 ターム
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	児島昌雄／ 柳原高文
ナンバ リング	K1-20-022	実務経験 の有無	無	関連 DP	1	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

小学校理科の目的・内容についての理解を深め、理科の授業の基礎となる科学的知識を身につけると共に、授業の構成力を身に付ける。小学校理科の目的・内容・方法を理解すると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の教材構成ができるように学習する。また、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。

授業の到達目標

1) 小学校学習指導要領に定められた、理科の「目的・内容」を理解することができる。 2) 小学校理科の内容の基礎となる科学的知識を身に付ける。 3) 「主体的・対話的で深い学び」を理解し、指導することができる。

授業計画

1. 授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察
2. 小学校3年生理科「風とゴムの力の働き」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
3. 小学校3年生理科「身の回りの生物」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
4. 小学校4年生理科「月と星」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
5. 小学校4年生理科「空気と水の性質」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
6. 小学校4年生理科「季節と生物」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
7. 小学校4年生理科「電流の働き」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
8. 小学校5年生理科「天気の変化」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
9. 小学校5年生理科「植物の発芽、成長、結実」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
10. 小学校5年生理科「天気の変化」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
11. 小学校6年生理科「月と星」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
12. 小学校6年生理科「てこの規則性」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
13. 情報機器を授業に活かす手法・指導案について 予習：情報機器等の理解 (30 分) 復習：指導案の書き方 (60 分)
14. 方向目標と到達目標 予習：各単元の内容がどこに向かうか (30 分) 復習：単元ごとの方向目標の作成 (60 分)
15. 授業のまとめと全体討論

準備学習(予習・復習)・時間

・予習として、講義の単元の内容を小学校の教科書などで確認しておくこと。復習として、講義内容を学習ノートにまとめ、関連問題の復習をすること。いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説理科編」

参考書・参考資料等

・「シリーズ日本型理科教育 第2巻 『子ども』はどう考えているかーとらえやすい自然認識と化学概念ー」日置久・星野昌治（編） 東洋館出版社 2007 年 ・「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集改定 2 版」 松原静郎・岩間淳子（編）オーム社 2018 年

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度(20%)、課題作成(30%)、定期試験(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校理科で学習する内容の知識がある。
- (B) 小学校理科で学習する内容の知識と関連問題を解くことができる。
- (A) 小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができる。
- (S) 小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常生活の中で科学的（理学的）に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう？」「これは何？」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍や web 等で調べ課題解決をすること。

科目名	生活科内容論						学期	後期 3 ターム	
副 題	児童の自立とは				授業 方法	講義	担当者	柳原高文	
ナンバ リング	K2-17-023	実務経験 の有無	無	関連 DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

(テーマ)小学校生活科のねらいや内容等に関する基礎的な知識を習得する。(授業の概要) 新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。生活科の考えやその内容構成の考え方について理解し、生活科を学ぶ意義を理解する。

授業の到達目標

(到達目標) 1)生活科創設の意味、ねらいについて理解することができる。 2)新学習指導要領における生活科の改定趣旨と目標について理解することができる。 3)学習指導要領における生活科の学年の内容と目標について理解することができる。 4)年間指導計画の作成および指導案の作成ができる。

授業計画

1. 授業の進め方、評価方法、生活科創設とねらいについて
2. 生活科の内容と目標、情報機器を授業に活かす手法 予習：講義内容の情報を収集する 復習：情報機器を実際に試してみる
3. 「学校と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
4. 「家庭と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
5. 「地域と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
6. 「公共物や公共施設の利用」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
7. 「季節の変化と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
8. 「自然や物を使った遊び」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
9. 「動植物の飼育・栽培」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
10. 「生活や出来事の伝え合い」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
11. 「自分の成長」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
12. 生活科と総合的学習について：グループ討議 予習：自らの経験した総合的学習と生活科を整理しておく 復習：生活科と総合的な学習の意味を考える
13. 生活科と幼児教育 予習：「幼稚園教育要領」の内容を調べる 復習：幼稚園から小学校への連続性と違いを整理
14. 中学年科目内容との関連 予習：3年生理科・社会科の内容を調べる 復習：連続性と違いを整理
15. 最終グループ討論とまとめ 予習：グループでの役割を検討する 復習：小学校教育における生活科の意味・役割を総括する

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説生活編」

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、課題：30%、定期試験：50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校生活科で学習する内容の知識がある。
- (B) 小学校生活科で学習する内容の知識と行動することができる。
- (A) 小学校生活科で学習する内容の知識と行動することができ、教材開発ができる。
- (S) 小学校生活科で学習する内容の知識を関連問題を解き、行動することができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で児童と生活科との関係にに思考する。日常生活で社会や天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう?」「これは何?」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍や web 等で調べ課題解決をすること。

科目名	音楽科内容論						学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバ リング	K1-20-024	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。

授業の到達目標

小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べることができる。歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。即興的に伴奏を付けることができる。小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。

授業計画

1. 音楽科の目標と内容
2. 子どもの発達と音楽科教育について
3. 音楽と身体表現
4. わらべうた遊び
5. オルフ・シュールベルク、コダーイ・システム
6. 音楽づくり
7. 歌唱（1）小学校歌唱共通教材
8. 歌唱（2）合唱
9. 器楽（1）リコーダー
10. 器楽（2）器楽合奏
11. 鑑賞
12. 指揮と伴奏
13. 実技テスト（1）リコーダー
14. 実技テスト（2）弾き歌い、授業内確認テスト
15. 振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

・授業内発表、グループワークでは、毎回の実践内容を振り返り、今後、どのような音楽的技量を身につける必要があるかを確認する。(90 分) ・課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、ワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

初等科音楽教育研究会編/『最新 初等科音楽教育法』（改訂版）音楽之友社（＊「音楽科指導法」で同じ教科書を使用する）「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説（音楽科）」(平成29年6月 文部科学省)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

提出物（40％） 授業内発表及び実技テスト（60％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- （C）就学前・小学校の音楽活動・授業の意義と内容について基本的に理解できる。
- （B）基本的な理解に基づき、音楽の指導を考えることができる。
- （A）指導に必要な実技（器楽・弾き歌い等）ができる。
- （S）音楽の指導について、自分の意見に基づき、指導を工夫するとともに、それに必要な弾き歌い・即興的な演奏ができる。

課題に対するフィードバックの方法

各提出物については、当該翌週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内の発表や、実技テストについては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

個人・グループワークによる音楽の活動実践を取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	図画工作科内容論						学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	図画工作科の指導において必要とされる知識及び指導法を理解する。				授業方法	演習	担当者	吉垣隆雄	
ナンバリング	K2-20-025	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

小学校学習指導要領図画工作編に記述されている教科の目標と内容を理解し、技法習得や指導の実践力と授業における評価を身につける。子どもの表現について成長の道筋を述べ、発達論的な理解を深めると共に、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞に挑戦することで、図画工作の自由な発想を尊重し、楽しさや達成感を体験する。

授業の到達目標

小学校学習指導要領「図画工作」のねらい及び内容について正しく理解する。また、その指導法を指導計画案立案、実施することにより「造形表現」の指導目標を身に付ける

授業計画

1. 学習指導要領における図画工作のねらい及び内容
2. 図画工作教育の内容と目標 作品などを鑑賞する活動
3. 図画工作教育の内容と目標 作品を鑑賞する活動 子どもの絵
4. 図画工作教育の内容と目標 材料をもとにした造形遊びをする活動（低学年）
5. 図画工作教育の内容と目標 材料をもとにした造形遊びをする活動（中学年）
6. 図画工作教育の内容と目標 材料をもとにした造形遊びをする活動（高学年）
7. 学習計画の理解 題材とは？（教科書を使った題材の理解（教科書の調査）
8. 学習計画の理解 題材とは？（教科書を使った題材の理解（調査内容の発表と意見交換）
9. 指導計画とは何か？
10. 表したいことを絵や立体、工作に表す活動（教材研究・指導案作成）
11. 学習指導要領とは何か？小テスト
12. 図画工作のねらい（「A 表現」）
13. 図画工作のねらい（「B 鑑賞」、共通事項について）
14. 図画工作における評価、評価の意義、評価活動の要点
15. 図画工作の学習指導学習指導案の作成、課題のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業内容をふりかえり、テーマやキーワードと内容についての理解を深める。 ・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深めてみる。 ・課題制作の作品は必ず完成させ、必要に応じてレポートを提出する。 ※60分以上取り組むこと。

テキスト

・小学校学習指導要領解説（図画工作） ・樋口一成『小学校図画工作の基礎』、萌文書林、2020年（生協で購入） ・図画工作セット（水彩絵の具セット、スケッチブック、鉛筆、マーカー）（生協で購入）

参考書・参考資料等

適宜必要に応じてプリント配布する

学生に対する評価

学習を反映させた作品（60%）、出席点・課題レポート・確認テスト（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たして成果物をまとめている
- (B) 課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を用いて成果物をまとめている。
- (A) 課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を応用して成果物をまとめている。
- (S) 課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を発展的に成果物にまとめている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された成果物(課題作品・レポートなど)は評価し、返却を行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 ・小テストを実施した際には、次の講義にて解説を実施する。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす、また遅刻3回で欠席1回とみなす） ・制作に必要な画材用具(水彩絵具セット、マーカー、色鉛筆、のり、はさみ など)や各自で準備すべき材料は忘れずに持参する。 ・課題作品は、授業でのポイントを抑えながら自身で工夫し、期日までに必ず仕上げて提出する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大阪府公立中学校教員(美術科)及び大阪府公立小学校管理職教員を経て、短期大学教員(造形教育)として勤務経験を持つ教員が、その経験や指導を活かし図画工作科教育の基本的な知識と内容を講義し、手法についても具体的に用具を用いて指導にあたる。

科目名	家庭科内容論							学期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	松本歩子	
ナンバ リング	K1-20-026	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。家庭科の内容を支えている衣服、食物、住居等の各領域について、基礎的な知識を習得し、小学校家庭科の授業構成及び実践ができる能力をつけることを目標とする。

授業の到達目標

- ・小学校家庭科の各領域の内容について、実際の家庭科教科書（５・６年）を参照しながら、基礎知識と応用力を習得する。
- ・各領域の基本的な考え方、内容の深め方、授業構成の仕方などを理解する。

授業計画

1. 小学校家庭科の理念・目的・学習内容
2. 家族・家庭生活-家庭生活と仕事
3. 食生活－食事の役割
4. 食生活－調理の基礎
5. 食生活－栄養を考えた食事
6. 食生活－米飯および味噌汁の調理
7. 衣生活－衣服の働きと着用
8. 衣生活－衣服の手入れ
9. 衣生活－役立つ物の製作（手縫い）
10. 衣生活－役立つ物の製作（ミシン）
11. 住生活－住まい方の工夫
12. 住生活－整理・整頓
13. 消費生活
14. 家庭生活と環境
15. 家族・家庭生活-家族や近隣の人々との関わり

準備学習(予習・復習)・時間

授業後にテキスト・資料をもとに復習し確実な理解を図るとともに、自らの考えを小レポートにまとめること（60 分）、調理・被服製作に当たっては授業内での指示に従い、グループで話し合うなど準備を計画的に進めること（60 分）

テキスト

『小学校学習指導要領解説 家庭編』（文部科学省）

文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』開隆堂

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）

『小学校家庭科教育法』大竹美登利他編著 建帛社

学生に対する評価

授業への積極的参加 50%、期末筆記試験 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、課題に取り組んでいる。
- (B) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用して課題に取り組んでいる。
- (A) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用するとともに、自らの考えを持って工夫して課題に取り組んでいる。
- (S) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業の学びだけでなく自ら学びを深め考察したうえで工夫して課題に取り組んでいる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークを行う科目である。

科目名	体育科内容論						学期	前期 2 ターム	
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	本山司	
ナンバ リング	K2-20-027	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

(テーマ) 体づくり運動系、器械運動系、陸上運動系、水泳運動系、ボール運動系、表現運動系、保健領域の特性を理解し、具体的な授業実践及び評価ができるようになる。(授業の概要) 小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法をについて理解を深める。小学校体育科の内容は、運動領域と保健領域から構成されている。本授業では、新学習指導要領における体育科の目標及び内容について解説し理解を深める。また、運動領域、保健領域それぞれの内容を示し、体育授業の学習指導の展開の仕方について考える。

授業の到達目標

①小学校体育科教育の内容を理解する。②小学校体育科教育の学年別目標と指導内容の関係性について理解する。③体育科の内容に即した授業実践ができるよう、知識や技術を身につける。

授業計画

1. 本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。シラバスに沿って講義の内容を説明する。
2. 学習指導要領における小学校体育科の目標、内容、全体構造について
3. 「体づくりの運動遊び」及び「体づくり運動」について
4. 「器械・器具を使つての運動遊び」及び「器械運動」について
5. 「走・跳の運動遊び」及び「走・跳の運動」について
6. 「陸上運動」について
7. 「水遊び」及び「水泳運動」について
8. 「ゲーム」について
9. 「ボール運動(ゴール型)」について
10. 「ボール運動(ネット型)」について
11. 「ボール運動(ベースボール型)」について
12. 「表現リズム遊び」及び「表現運動」について
13. 「保健(健康な生活、体の発育・発達)」
14. 「保健(心の健康、けがの防止、病気の予防)」
15. まとめ及び体育科の評価の考え方

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前にシラバスを読み、授業計画の内容について事前学習を行うこと。(60 分)
- ・学習した内容を踏まえて、ポイントを各自でまとめ、提出または授業実践ができるように準備しておくこと。(90 分)

テキスト

『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018

参考書・参考資料等

小学校指導要領解説 体育編(平成 29 年度 文部科学省)

学生に対する評価

本試験 60% レポート他の提出物 20% 実技テスト 20%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校体育科教育における運動領域・保健領域、新学習指導要領の内容について理解することができる。
- (B) 授業内容の理解に基づき、各領域の指導法を考えることができる。
- (A) 学年別の目標と指導内容の関係性から指導案として表現することができる。
- (S) 体育科の内容に即した知識や技術を身につけ、指導案を基に模擬授業として表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見、実技テストは講義内でフィードバックを行う。レポートや他の提出、試験等については次時にフィードバックを行う。

その他

毎回出席をとる。パワーポイントを使用して授業を行いつつ、実技も組み合わせながら行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校保健体育教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、現代の子どもたちの体力問題等にも着目しながら、実践に活かせる内容(教材)の提供をする。

科目名	初等英語科内容論							学期	前期 2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバ リング	K1-20-028	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

小学校英語教育のねらいや内容等に関する基礎的な理解と、指導者としての英語能力を身につけることを目的とする。新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について講義する。英語教育に関する考え方や内容構成の考え方について理解するとともに、指導者としての英語能力の向上を目指す。

授業の到達目標

1. 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。
2. 新学習指導要領における外国語の改定趣旨と目標を理解する。
3. 初等英語科の内容・評価を理解し、指導者としての英語能力を高める。

授業計画

1. イントロダクション（講義のねらいと進め方、評価の仕方）
2. 第二言語習得とは何か、脳科学と教育学の観点から
3. 学習指導要領における4技能5領域についてと、最近の研究報告について
4. 英語の音声（聞くこと・話すこと）について ―web 教材を使って―
5. 英語の文字（読むこと・書くこと）
6. 英語の綴りと音声（フォニックスについて）
7. 英米の児童文学（マザーグースや童話）について
8. 異文化交流と言語コミュニケーションについて
9. 国際理解と英語教育
10. バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション
11. グループやペア等の学習形態とその効果について
12. 英語教材の内容と構成
13. 小学校における英語での発表について
14. グループ討論 小学校英語教育を考える
15. 全体のまとめ 豊かな初等英語教育を目指して

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを予め読んでおき、専門用語を理解しておくこと。(90 分)
事後学習として授業の内容をまとめ、提出または発表ができるように準備をしておくこと。(90 分)

テキスト

文部科学省編『小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説外国語活動・外国語編』2018 年
金森強『小学校英語科教育法―理論と実践―』、成美堂、2019 年
配布プリント

参考書・参考資料等

『Let's Try! 1』(文部科学省)、『Let's Try!2』(文部科学省)

学生に対する評価

毎時間の講義レポート(30%)、発表に対する評価(30%)、試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校英語教育に関する基礎的な用語を理解することができる。
- (B) 小学校英語教育に関する基礎的な用語を説明することができる。
- (A) 小学校英語教育の現状や課題について、論理的に自分の言葉で説明することができる。
- (S) 小学校英語教育の現状や課題を論理的に説明し、さらに英語で授業を行うための英語力を身につけることができる。

課題に対するフィードバックの方法

- ・講義についての質問は、授業内、レポートや試験等の課題については次時にフィードバックを行う。

その他

- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・遅刻3回で欠席1回とみなす。
- ・学生による模擬授業や ICT を取り入れた科目である。
- ・初等英語教育の実践等、内容により英語で講義を行う場面がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・先進的な初等英語教育を提供する私立小学校の英語科主任としての経験や指導技術を活かし、シラバスに沿って段階的に紹介する。そのため受講生には初等英語教育の理論と実践の両側面を連携させながら、講義を理解し、指導に必要な英語力も身につける講座である。

科目名	国語科指導法							学 期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバ リング	K2-20-029	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。国語科には「詩、物語、小説などの文学教材の指導」「伝統的な言語文化である俳句、短歌の指導」「説明文(論説文)の指導」「作文教育」「読書指導」などがある。講義の前半は教員自らが文学教材の指導、説明文の指導などについて具体的な授業を示し、後半は、学生自らが学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その中で実践的な指導力の育成につとめる。

授業の到達目標

1)国語科教育の現状について基本的な知識を習得し、学習指導要領に示された国語教育の特徴や指導法について理解し、説明できる。 2)教材の特質や学年の発達段階に即した「ねらい」(教授課題)をふまえ、教材を分析し、発問や板書計画を含む学習指導案を立案し、模擬授業ができる。

授業計画

- 1. 国語科教育の目的および現状と課題
- 2. 教材研究のしかた(詩教材)
- 3. 教材研究のしかた(物語教材 低学年)
- 4. 教材研究のしかた(物語教材 中・高学年)
- 5. 教材研究のしかた(説明文教材 低学年)
- 6. 教材研究のしかた(説明文教材 中・高学年)
- 7. 書写(硬筆・毛筆指導)の指導内容
- 8. 「伝統的な言語文化と国語の特質」の指導について
- 9. 学習指導案の書き方と国語科の評価法
- 10. 模擬授業と振り返り(詩教材)
- 11. 模擬授業と振り返り(物語教材 低学年)
- 12. 模擬授業と振り返り(物語教材 中・高学年)
- 13. 模擬授業と振り返り(説明文教材 低学年)
- 14. 模擬授業と振り返り(説明文教材 中・高学年)
- 15. ICT を取り入れた授業の構想

準備学習(予習・復習)・時間

教材分析のしかた(文学、説明文など)を復習し、学んだことをもとに授業計画や学習指導案を事前に作成する。60 分以上取り組むこと。

テキスト

『小学校学習指導要領』文部科学省 講義時に適宜資料(テキスト)を配布

参考書・参考資料等

村尾聡『文学教育論－西郷文芸学の教育学的考察－』ブイツーツリューション、2014 年 斉藤鉄也『ためきの糸車』新読書社、2016 年 奥葉子『おおきなかぶ』新読書社、2017 年 辻恵子『一つの花』新読書社、2016 年

学生に対する評価

授業への積極的参加 30％ レポート 30％ 定期試験 40％

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で学習したことを最低限理解できている。
- (B) 講義で学習したことをもとに授業計画・学習指導案を作成できる。
- (A) 講義で学習したことをもとに自分なりの工夫した授業計画・学習指導案を作成できる。
- (S) 講義で学習したことをもとに自分なりの工夫した授業計画・学習指導案を作成し、模擬授業ができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間後、学習したことに関する小レポートを書かせ、次の講義時にフィードバックを行う。

その他

教材分析の仕方は、パワーポイントを使って講義し、実際に学生に教材を分析し授業計画や学習指導案を作成させ、模擬授業を実施させる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 25 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	社会科指導法						学期	前期2 ターム	
副題	-					授業 方法	講義	担当者	奥田修一郎
ナンバ リング	K2-20-030	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(テーマ)・小学校社会科教育の理論の理解と体験活動を通して、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。(授業の概要)本講義では、小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考へていくのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得することと目的とする。学習指導案の作成や、模擬授業の準備を丁寧に行うことにより、教材研究の意義について考察する。受講者が、授業時間外に教材作成のための準備や、模擬授業のための準備を行う必要がある。

授業の到達目標

1)小学校社会科教育の目標・内容・方法・評価について理解する。2)小学校社会科の授業を計画・実施することができる。3)小学校社会科における授業づくりの基礎・基本を習得する。4)小学校社会科の学習指導要領や、小学校社会科の授業内容について理解する。5)グループでの模擬授業などの演習を通して、実践的な場面を想定した小学校における社会科指導法の実践力を高めること。

授業計画

1. 次期学習指導要領における社会科の目標
2. 主体的で対話的な深い学びをつくるために
3. 教材とは何かを考察する。ユニバーサルデザインを意識した授業づくり
4. 学習指導案の作成について
5. 情報機器の活用・いかし方(デジタル教科書、タブレットなど)教材研究
6. すぐれた実践に学ぶ 見方・考え方を踏まえた授業と教材研究
7. 模擬授業の実施と検討(1)～第3学年 「身近な地域」または「地域に見られる販売の仕事」
8. 模擬授業の実施と検討(2)～第4学年 「都道府県の様子」または「自然災害から人々を守る」
9. 模擬授業の実施と検討(3)～第5学年 「我が国の農業・水産業・工業」
10. 模擬授業の実施と検討(4)～第5学年 「我が国の国土の様子と国民生活」
11. 模擬授業の実施と検討(5)～第6学年 「我が国の政治の働き」
12. 模擬授業の実施と検討(6)～第6学年 「我が国の歴史① 江戸時代終わりまで」
13. 模擬授業の実施と検討(7)～第6学年 「我が国の歴史② 現代まで」
14. 模擬授業の実施と検討(8)～第6学年 「グローバル化する世界と日本の役割」
15. 学習評価(パフォーマンス評価等)、まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、資料などを提示・配布するので、予習をしておくようにする(50分)。また、自分が担当する模擬授業の内容を教材研究し、資料、ワークシート、指導案を作成する。classroomに授業で使ったパワー資料を掲載するので、授業後復習するようにする。(60分)

テキスト

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 日本文教出版(社会科内容論で使用したもの) 北俊夫他/新編 新しい社会6(上)/東京書籍

参考書・参考資料等

北俊夫他/新編 新しい社会3～6/東京書籍

学生に対する評価

レポート【作品も含む】(30%)、小テスト(20%)、模擬授業と指導案(30%)、ワークシートと積極的参加度(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・学習内容を踏まえた授業展開を考え・作成することができる。
- (B)・学習内容を踏まえた授業展開を考え・作成することができる。また、学習者の意欲・関心を意識した授業を展開することができる。
- (A)・学習内容を踏まえた授業展開を考え・作成することができる。また、主体的で対話的な学びを意識して授業を展開することができる。
- (S)・学習内容を踏まえ、見方・考え方を働かせる授業案を考え・作成することとともに、資料などの用意ができる。また、主体的で対話的な深い学びを意識し授業を展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出された課題に対しては、次につながるコメントを書き、フィードバックする。また、模擬授業に関しては、グループでの対話的な練り上げや振り返りを行うことを行う。

その他

・現学習指導要領では、「主体的・対話的な深い学び」が求められている。特に、社会科はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法がこれまで多く取り入れられてきた。それを学ぶためにも、授業では、PBL、グループディスカッション、グループ内プレゼン、ゲームシミュレーションなどを行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・中学校教員及び小学校地域学校支援コーディネーターとして勤務経験を持つ教員が、教材開発をする視点や教材研究の仕方を具体的な授業実践から説明するとともに、授業経験を活かして、授業力向上の指導をしていく。

科目名	理科指導法							学期	前期 1 ターム
副 題	科学的な考えを持って講義を組み立てる方法とは					授業 方法	講義	担当者	児島昌雄／ 柳原高文
ナンバ リング	K2-17-031	実務経験 の有無	無	関連 DP	1	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

(テーマ)小学校理科授業に対する基本的な考え実践力を身に付けると共に、日常生活における科学的知識と応用が出来るようにする。(授業の概要) 1)小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。 2)実際に観察・飼育・実験をすることで、学習指導要領に基づく小学校理科の内容と指導法について理解を深める。 3)小学校理科で扱う内容の理解から、災害や小学校で起こりうる事故を科学的な考えで理解し、災害からの避難方法、事故防止に役立つ実践的に学ぶ。

授業の到達目標

1)小学校理科の目的・内容の理解の上で、理科の指導法について理解することができる。 2)小学校理科の授業を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。 3)科学的な知識を身につけ日常生活に応用できる。

授業計画

1. 授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察
2. 小学校学習指導要領に定められた小学校理科の目的・目標および内容 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認
復習：講義内容をふり返りまとめる
3. 教科目標を達成するための指導法1 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
4. 教科目標を達成するための指導法1 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
5. 「エネルギー分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
6. 「粒子分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
7. 「生命分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
8. 「地球分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
9. 昆虫採集と飼育 予習：身の回りで生息する昆虫を調べる 復習：昆虫の飼育方法を調べる
10. 災害と科学・情報機器の利用法 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
11. 指導案作成(情報機器の効果的な活用を含む) 予習：指導案の構想を練る 復習：指導案作成
12. 指導案グループ論議(情報機器の効果的な活用を含む) 予習：指導案を確認する 復習：グループ討議から指導案の見直し
13. 模擬授業1 予習：指導案を確認する 復習：模擬授業から指導案を見直し
14. 小中連携を検討する 予習：小・中学校学習指導要領の内容の関連を調べる 復習：小学校理科の内容を整理する
15. 初等理科の学習評価について 予習：指導要領の評価を確認する 復習：指導と評価について自分の意見をまとめる

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編」

参考書・参考資料等

「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集 改定2版」 松原静郎・岩間淳子(編)オーム社 2018年 2000円

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、指導案：20%、模擬授業：20%、定期試験：40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校理科で学習する内容の知識がある。
 (B) 小学校理科で学習する内容の知識と関連問題を解くことができる。
 (A) 小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができる。
 (S) 小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で科学的(理科的)に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう?」「これは何?」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍やweb等で調べ課題解決をすること。

科目名	音楽科指導法							学 期	前期 1・2 ターム
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	植田恵理子
ナンバ リング	K2-20-032	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業では、①「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。
 ②音楽科の特性を理解し、子供の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。
 ③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。グループ単位で学生たちが議論を展開し、共同で指導案を仕上げ、グループの構成員が行った模擬授業を振り返り、自ら発見した課題について互いに協力して主体的に解決する力を養う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し、学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。

授業の到達目標

1)育成すべき資質・能力に対応した音楽科の授業を設計し、実践できるようになる。 2)「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容を理解し、音楽科の教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付ける。

授業計画

1. 「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 1 音楽科の目標と各学年の指導内容
2. 「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 2 歌唱共通教材と器楽の実践
3. 「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 3 音楽づくりの実践と「共通事項」
4. 音楽科学習指導案 1 指導案の原理・形式と学習評価基準について
5. 音楽科学習指導案 2 指導案の作成(情報機器の効果的な活用を含む)
6. 模擬授業の準備 1 題材の選択と教材研究
7. 模擬授業の準備 2 模擬授業の指導案作成(情報機器の効果的な活用を含む)
8. 模擬授業 1 日本の伝統音楽・諸外国の音楽による授業の実践
9. 模擬授業 2 わらべうた・日本の民謡による授業の実践(情報機器の効果的な活用を含む)
10. 模擬授業 3 ポピュラー音楽・身体表現による授業の実践
11. 模擬授業 4 音楽づくり・手作り楽器による授業の実践
12. 模擬授業の総括 全模擬授業の振り返りと学生による討論
13. 二部合唱と指揮の実践(クラス音楽会で発表)
14. クラス音楽会の企画と準備
15. クラス音楽会の開催と総括

準備学習(予習・復習)・時間

・指導案、模擬授業の発表、グループワークでは、個々やグループで内容を振り返り、課題やその解決方法を探り、確認する。(90 分) ・課題について調べたこと、内容について各自で整理し、児童が主体的に取り組み、学びにつなげることを重視した指導案、模擬授業を作成する。(90 分)

テキスト

『最新 初等科音楽教育法』(改訂版)(初等科音楽教育研究会編、音楽之友社)「小学校学習指導要領」(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)「小学校学習指導要領解説」(平成 29 年 6 月 文部科学省)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

模擬授業に関する総括レポート(40%)、模擬授業及び、授業内発表内容(30%)、音楽科学習指導案の提出(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校の音楽科授業の意義と目的等について基本的な理解できる。
- (B) 基本的な理解に基づき、音楽科授業の教材と指導案について考えることができる。
- (A) 音楽科授業の指導について、自分の意見を述べるとともに、模擬授業を組み立て、実践することができる。
- (S) 音楽科授業の指導について、自分の意見に基づき、模擬授業と必要な技能について工夫をするとともに、実践することができる。

課題に対するフィードバックの方法

指導案については、当該週週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内の発表や、模擬授業については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講義ではあるが、時間内に個人・グループワークによる音楽の活動実践を取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	家庭科指導法							学 期	後期 4 ターム	
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	松本歩子	
ナンバ リング	K2-20-033	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 4	単位数	2	他	一	

授業の目的と概要

家庭科で学ぶ子どもの姿と教師のかかわり方をイメージした上で、小学校家庭科が目指す学習内容や、指導計画、指導法や評価などの基本事項を習得する。これらを活かして児童や地域の実態にあった授業の設計を行い、学習指導案の作成や模擬授業など、具体的・実践的な家庭科指導の在り方について学習する。

授業の到達目標

・小学校家庭科で習得させる事項について理解することができる。・小学校家庭科の学習指導に必要な知識・技能、指導方法、評価、年間計画などの基本を理解することができる。・学習指導案の作成を通して、授業の構想と立案について理解することができる。・模擬授業の実施と総合評価の実施によって、授業力を身に付けることができる。・児童や地域の実情を考慮し、生活課題に向き合えるような授業を提案することができる。

授業計画

1. 小学校家庭科の歩みとねらい
2. 家庭科の目標と内容
3. 家庭科の学習指導・評価のあり方
4. 指導と評価の計画
5. 授業づくりの工夫(情報機器を活用した授業実践動画の視聴他)
6. 学習指導案の書き方
7. 学習指導案の作成(個人)
8. 学習指導案の修正(個人)
9. 模擬授業の検討(グループ) - 指導案の比較検討 -
10. 模擬授業の検討(グループ) - 教材作成・情報機器の活用 -
11. 模擬授業の検討(グループ) - プレ実施・グループ討議 -
12. 模擬授業 - 食分野 -
13. 模擬授業 - 衣・住分野 -
14. 模擬授業 - 家族・消費環境分野 -
15. 模擬授業の評価とまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

授業後にテキスト・資料をもとに復習し確実な理解を図るとともに、自らの考えを小レポートにまとめること (60 分) 指導案作成に当たっては授業内での指示に従い、グループで話し合うなど準備を計画的に進め模擬授業へとつなげること (60 分)

テキスト

『小学校学習指導要領解説 家庭編』(文部科学省)
文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』開隆堂

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
『小学校家庭科教育法』大竹美登利他編著 建帛社

学生に対する評価

授業への積極的参加 30%、成果発表 40%、学期末レポート 30%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校家庭科で習得させる事項及び、学習指導に必要な基本事項を理解し、指導案の作成や模擬授業に取り組んでいる。
- (B) 小学校家庭科で習得させる事項及び、学習指導に必要な基本事項を理解し、指導案の作成や模擬授業、総合評価の実施に取り組んでいる。
- (A) 小学校家庭科で習得させる事項及び、学習指導に必要な基本事項を理解するとともに、児童や地域の生活課題を踏まえた指導案の作成や模擬授業、総合評価に取り組んでいる。
- (S) 小学校家庭科で習得させる事項、学習指導に必要な基本事項を理解するとともに、児童や地域の生活課題等を踏まえ自ら工夫して指導案や模擬授業、総合評価に取り組んでいる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	初等英語科指導法							学期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバ リング	K2-20-034	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

幼稚園や小学校において英語指導するための基礎的な知識を習得し、それを教育現場で活用できるようにする事を本授業の目的とする。英語教育に関する様々な理論を踏まえた講義を行う。講義では小学校低学年の特徴、児童の個々の違いに基づき、教育現場の状況を鑑みながら様々な指導法を考察し、グループ討論などを実施する。

授業の到達目標

1. 様々な指導法について理解し、英語指導への適用を考える。 2. 幼稚園、小学校低学年の特質を理解し、中学年との違いを踏まえた指導案を作成できる。 3. 児童の個性の違いを踏まえた指導ができる。

授業計画

1. 授業オリエンテーション(本講義の内容とねらいの確認)
2. 小学校における外国語活動・外国語科の授業の現状
3. 第二言語習得に関する基本的な理論について
4. 小学校での英語教授法と指導法はどのように行われているか
5. 小学校現場でのグループ活動とロールプレイの観察
6. グループでの発表と討論
7. 情報伝達技術(ICT)を利用した授業展開
8. ティーム・ティーチングの理念と定義、効果的な指導方法
9. 学習指導要領におけるリーディング、ライティングの指導
10. 学習指導要領におけるリスニング、スピーキングの指導
11. 学習指導要領に基づいた異文化理解とコミュニケーション指導
12. パフォーマンス評価とポートフォリオ評価
13. 指導案の作成及び模擬授業の計画
14. 模擬授業の実施
15. 模擬授業の振り返り、授業全体のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを予め読んでおき、専門用語と内容を理解しておくこと。(90分)。事後学習として授業の内容をまとめ、提出または発表ができるように準備をしておくこと。(90分)

テキスト

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』(望月昭彦編著) 2018年12月4日 大修館書店
ISBN:9784469246216 328頁 2,300円 および配布資料

参考書・参考資料等

文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』文部科学省. 文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編』文部科学省. 文部科学省 (2018). Let's Try! 1. 東京書籍. 文部科学省 (2018). Let's Try! 2. 東京書籍.

学生に対する評価

毎時間の講義終了後のレポート(30%)、調査および発表に対する評価(30%)、試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校英語教育に関する基礎的な用語を理解することができる。
- (B) 小学校英語教育に関する基礎的な用語を説明することができる。
- (A) 小学校英語教育の現状や課題について、論理的に自分の言葉で説明することができる。
- (S) 小学校英語教育の現状や課題を論理的に説明し、さらに英語で授業を行うための英語力を身につけることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・講義についての質問は、授業内、レポートや試験等の課題については次時にフィードバックを行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・学生による模擬授業やICTを取り入れた科目である。 ・初等英語教育の実践等、内容により英語で講義を行う場面がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・先進的な初等英語教育を提供する私立小学校の英語科主任としての経験や指導技術を活かし、シラバスに沿って段階的な英語教育の指導技術を紹介する。そのため受講生には講義の理解と模擬授業を含む課題発表を連携させながら、指導に必要な英語力も身につけてもらう講座である。

科目名	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）					学期	集中
副題	理科				授業方法	講義	担当者
ナンバリング	K2-20-035	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2
						他	A・I

授業の目的と概要

本講義は、小学校のアクティブ・ラーニング的な授業運営と創造的な教材開発について理解を深めることを目的とする。取り上げる例としては、理科分野における、①仮説実験授業、②児童の認知的発達を促進を目指す英国の授業プログラムの討を中心とする。その際、座学中心ではなく、ア）講師による模擬授業への参加と教材分析、イ）出版されている授業記録・授業報告の分析、ウ）受講者による模擬授業の実施と振り返りの討論などの能動的な活動を通じて、この目的を達成する。また、社会科等の教材例なども含める予定である。

授業の到達目標

受講者は、・小学校の授業の目標と授業運営・教材の用い方について基本的な理解を得る・「仮説実験授業」の思想、授業構造と運営、教材の特徴について理解する・英国の認知的能力の発達を促進を目指す授業の思想、授業構造と運営、教材の特徴について理解する・授業の設計・運営、教材の開発について基本的な理解を得る

授業計画

1. 講義の主旨の紹介：授業の目標、構成、教材などについての導入
2. 講師による模擬授業の受講・観察：理科の探究型の授業（例：「仮説実験授業」）
3. 前時の受講・観察にもとづく「仮説実験授業」の構造と授業書の役割の分析
4. 講師による模擬授業の受講・観察と集団的な分析：社会科の「仮説実験授業」の例
5. 講師による模擬授業の受講・観察と分析：英国の児童の認知的発達を促進する授業プログラムとその教材について
6. 講義：英国の児童の認知的発達を促す授業プログラムとその教材の開発の思想と背景
7. 与えられた授業案と教材の受講者の各班による検討と授業準備
8. 受講者の各班による模擬授業の実施：A, B, グループ
9. 受講者の各班による模擬授業の実施：C, D, グループ
10. 受講者の各班による模擬授業の実施：E, F, グループ
11. 第8回から第10回までの模擬授業のまとめ
12. 各班によるマイクロ授業とその教材開発の計画および準備
13. 各班によるマイクロ授業の実施とその教材開発についての発表：A・C グループ
14. 各班によるマイクロ授業の実施とその教材開発についての発表：D・F グループ
15. 本講義全体の振り返り：最終レポート課題の提示

準備学習(予習・復習)・時間

①事前学習として指定された論文を読むこと、②事前学習として、課せられた模擬授業の練習を班と共同で行うこと、③事前学習として、班ごとの発表の準備をすること、④事後学習として、授業の内容を振り返り、課せられたミニレポート課題に答えること。※いずれも60分以上取り組むこと。

テキスト

笠岡平、イギリス科学教育の豊かな可能性、岡本正志編著『今こそ教育！』、ミネルヴァ書房、第9章、2021 その他は必要なプリントを講師が用意し配布

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領、2017、幼稚園学習指導要領、2017 板倉聖宣『仮説実験授業のABC・第5版』、仮説社、2011 他は授業中に紹介する

学生に対する評価

授業中の提出物（30％）、授業中の実習課題のパフォーマンス（30％）、授業中の発言による議論への貢献（10％）、最終レポート課題（30％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本講義で取り上げられた授業の少なくとも一つについてその思想、授業運営、教材の特徴のおおよその理解を示している
- (B) 本講義で取り上げられた授業の少なくとも一つについてその思想、授業運営、教材の特徴の適切な理解を示している
- (A) 本講義で取り上げられたいずれの授業についてもその思想、授業運営、教材の特徴の適切な理解を示し、自らの授業観をのべることができている
- (S) 本講義で取り上げられたいずれの授業についてもその思想、授業運営、教材の特徴の優れた理解を示し、自らの授業観を適切にのべることができている

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出されたミニレポートに見られる主要な意見については次回授業時に討議すべき話題として取り上げる。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

グループワーク、学生によるプレゼンテーション、実験実習、学生による模擬授業の実習、ディスカッションをとる科目である。一部、新型コロナウイルス感染症のまん延の状況によって、遠隔授業（オンライン同期型授業およびオンデマンド型）とする場合がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

講師は、高校および中学校教員として理科の授業を担当した豊富な経験を持ち、その経験を活かして、学校教育現場および児童・生徒の実態に即した現場で役立つ学修経験の場を保障する。

科目名	授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)							学期	集中
副題	自然科学を五感を使って体験する				授業方法	講義	担当者	児島昌雄／ 柳原高文	
ナンバリング	K2-17-036	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	一

授業の目的と概要

(テーマ) 小学校理科における実験・観察の基本的な考え方・技能を身につけるとともに、事故や災害について 科学的視点で思考する。(授業の概要) 実験・観察の目的・方法、および理科実験を授業にどう位置付けるかを解説した上で、理科授業にある実験や観察を実際に体験し基礎的な技能を習得する。その上で、理科実験や観察の教材開発ができる実践力を身に付ける指導を行う。

授業の到達目標

1) 理科授業における実験・観察の目的・方法を理解することができる。 2) 実験・観察の基礎的な技能を習得することができる。 3) 実験器具・薬品を安全に使う知識・技能を習得する。 4) 実験や観察を工夫して授業に取り入れることができる。

授業計画

1. 授業の進め方、理科授業における実験・観察の目的、評価方法
2. 小実験・観察の方法、実験器具・薬品の安全な扱い方、情報機器を授業に活かす手法 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
3. 身の回りの自然の観察とスケッチ方法 予習：講義内容の情報を調べる 復習：講義内容をふり返りまとめ
4. 実験演習(1)「物質・エネルギー」分野…物の重さ・温度による変化など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
5. 実験演習(2)「物質・エネルギー」分野…磁石・電気など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
6. 実験演習(3)「物質・エネルギー」分野…燃焼・水溶液など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
7. 実験演習(4)「生命・地球」分野 分野…気象など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
8. 実験演習(5)「生命・地球」分野 分野…地震・火山など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
9. 実験演習(6)「生命・地球」分野 分野…月・太陽など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
10. 野外観察演習「生命」分野…動植物など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
11. 野外観察演習「生命」分野…人体・環境など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
12. 野外観察演習「地球」分野…天気・地層など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
13. 野外観察演習「地球」分野…月・太陽など 予習：講義内容を教科書で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめ
14. 実験・観察結果の表現と、教材開発(グループ討議) 予習：指導案の構想を練る 復習：指導案作成
15. 発表

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

講義内容に合致する情報をまとめたレジュメ資料を毎回配付する。

参考書・参考資料等

『理科の実験安全マニュアル』(東京書籍)

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、レポートなどの提出物：40%、指導案：40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校理科で学習する内容の知識がある。
- (B) 小学校理科で学習する内容の知識と関連した実験を行うことができる。
- (A) 小学校理科で学習する内容の知識を基に実験を行い、教材開発ができる。
- (S) 小学校理科で学習する内容の知識を基に実験を行い、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常生活の中で科学的(理学的)に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう?」「これは何?」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に可能な限り体験を行い書籍やweb等で調べ課題解決をすること。

科目名	音楽Ⅰ(表現技法)						学 期	後期 3・4 ターム	
副 題	-				授業 方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバ リング	K1-21-037	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3	単位数	1	他	—

授業の目的と概要

小学校・幼稚園・保育所において子供たちと接するとき、音楽は欠かせないものである。
音楽を通して子供たちと楽しい時間を共有するためには、然るべき音楽能力が必要となってくる。実際に歌い、ピアノを弾くという実践を通じて、音楽の基礎を身につける。
音楽Ⅰ(表現技法)では音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。声楽分野では発声法を基礎から学び、練習曲(コンコーネ 50 番練習曲)や唱歌を用いて楽譜を読んで歌うことに慣れ、また、簡単な二声の合唱曲に取りくむ。ピアノでは各自の能力に合わせて、バーナム・バイエル・ブルグミュラー24の練習曲などの演奏に取り組む。

授業の到達目標

音楽理論：基礎的な楽典知識を身につけ、楽譜を正確に読むことができる。
声楽：正しい発声法および正確な音程で歌うことができる。
ピアノ：ごく簡単なピアノ曲を初見演奏できる。

授業計画

1. 発声法 1 / ピアノ演奏の基礎
2. 発声法 2 / ピアノ課題曲 1
3. 発声法 3 / ピアノ課題曲 2
4. 歌唱 1 / ピアノ課題曲 3
5. 歌唱 2 / ピアノ課題曲 4
6. 歌唱 3 / ピアノ課題曲 5
7. 歌唱 4 / ピアノ課題曲 6
8. 歌唱 / ピアノ小テスト 1
9. 歌唱 5 / 課題曲 7
10. 歌唱 6 / 課題曲 8
11. 歌唱 7 / 課題曲 9
12. 歌唱 8 / 課題曲 10
13. 歌唱 9 / 課題曲 11
14. 歌唱 10 / 課題曲 12
15. 歌唱小テスト 2 / ピアノ小テスト 2

準備学習(予習・復習)・時間

ピアノや声楽の演奏技術上達のためには、日々の練習は欠かせない。・事前学修として、次回の課題曲の譜読みをする (40 分)。事前学修として、次回の課題曲を毎日練習すること (140 分)。

テキスト

バーナムピアノテクニック 1 (音楽之友社)、バイエルピアノ教則本 (全音出版)、ブルグミュラー24 練習曲 (全音出版)

参考書・参考資料等

マイ・レパートリー (ヤマハミュージック)

学生に対する評価

授業への取り組み (30%)、ピアノ小テスト (35%)、歌唱小テスト (35%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 楽譜を理解し、ごく簡単なピアノの曲が弾け、正しい音程で歌える。
- (B) 楽譜を理解し、簡単なピアノの曲が弾け、正しい音程で歌える。
- (A) 音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲を正しく弾け、良い発声法で歌える。
- (S) 楽譜を読む力があり、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは、毎回の授業でおこなう。

その他

ピアノおよび歌唱の練習を毎日すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

合唱指導とピアノの個人レッスンの実務経験を生かして、学生の個人個人の能力に合わせて教育指導する。

科目名	音楽Ⅱ(表現技法)						学 期	後期 ３・４ ターム	
副 題	-				授業 方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバ リング	K2-21-038	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3	単位数	1	他	—

授業の目的と概要

(授業のテーマ)

小学校・幼稚園・保育所において子供たちと接するとき、音楽は欠かせないものであるが、音楽を通して子供たちと楽しい時間を共有するためには、然るべき音楽能力が必要となってくる。実際に歌い、ピアノを弾くという実践を通じ、音楽の基礎・応用・表現力を身につける。

(授業の概要)

音楽Ⅱ(表現技法)では、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎から応用を学ぶ。授業の前半では声楽実技。後半はピアノの実技をおこなう。声楽では発声法の基礎から学び、練習曲(コンコーネ)や唱歌を用いて歌唱技術を向上させる。ピアノでは各自の能力に合わせて、ブルグミュラー・ソナチネなどに取り組み、ピアノ演奏における表現力を培う。

(受講に際しての留意点)

今年度は、音楽Ⅰ(表現技法)の成績によって、音楽Ⅱ(表現技法)のための補講受講が必要となる場合がある。音楽Ⅱ(表現技法)の受講希望者は、必ず、事前に補講についての問い合わせをするように。

授業の到達目標

音楽理論：基礎的な楽典知識を有し、楽譜を正確に読むことができる。 声楽：正しい発声法および正確な音程で、表現力豊かに歌うことができる。 ピアノ：簡単なピアノ曲を初見演奏できる。

授業計画

1. 発声法の復習 1 / 課題曲 1
2. 発声法の復習 2 / 課題曲 2
3. 発声法の復習 3 / 課題曲 3
4. 歌唱 1 / 課題曲 4
5. 歌唱 2 / 課題曲 5
6. 歌唱 3 / 課題曲 6
7. 歌唱 4 / 課題曲 7
8. 歌唱小テスト 1 / ピアノ小テスト 1
9. 合唱 1 / 課題曲 8
10. 合唱 2 / 課題曲 9
11. 合唱 3 / 課題曲 1 0
12. 合唱 4 / 課題曲 1 1
13. 合唱 5 / 課題曲 1 2
14. 合唱 6 / 課題曲 1 3
15. 合唱学内発表会 / ピアノ小テスト 2

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

コンコーネ 50 番練習曲中声用(全音出版) ブルグミュラー 24 練習曲(全音出版) ソナチネアルバム 1・2(全音出版)

参考書・参考資料等

マイ・レパートリー(ヤマハミュージック)「学習指導要領解説 音楽」文部科学省(29)

学生に対する評価

授業への取り組み(30%)、ピアノ小テスト(35%)、歌唱小テストおよび学内発表会での実践(35%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲を正しく弾け、良い発声法で歌える。
 (B) 音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。
 (A) 楽譜を読む力があり、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。
 (S) ピアノ演奏や歌唱によって、音楽の楽しみを表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは、毎回の授業でおこなう。

その他

今年度は、音楽Ⅰでの成績に応じて「音楽Ⅱを受講するための補講講義」を事前におこない、その補講講義の成績により、音楽Ⅱの受講の可否を判断する。音楽Ⅱを受講希望の学生は、「音楽Ⅱを受講するための補講講義」の受講が必要であるか、必ず確認すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

合唱指導とピアノの個人レッスンの実務経験を生かして、学生の個人個人の能力に合わせて教育指導する。

科目名	幼児と健康							学期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	本山司	
ナンバ リング	K1-21-039	実務経験 の有無	無	関連 DP	3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

健康の概念を明らかにし、乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。また幼児期に、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身につけることの大切さを理解する。

授業の到達目標

幼児期の健康について、運動遊びや運動指針を深く理解し、現在の子どもを取り巻く生活習慣と健康課題について深く理解することができる。

授業計画

- 1. オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明
- 2. 幼児の「健康」についての目的と内容の理解
- 3. 幼児の体と発育・発達と現在の健康課題について
- 4. 幼児の心の発達及び生活習慣について
- 5. 幼児の身体の発達と運動能力について（健康なこころと体を育む保育）
- 6. 幼児の身体の発達と運動能力について（幼児の動機付けや意欲）
- 7. 幼児の身体の発達と運動能力について（幼児理解と保育の視点）
- 8. 幼児の安全について
- 9. 幼児の病気(含感染症等)・ケガについて
- 10. 保育現場における応急処置の基礎及び病気の予防
- 11. 0～2 歳児の生活について
- 12. 0～2 歳児の動作について
- 13. 3～5 歳児の生活について
- 14. 3～5 歳児の動作について
- 15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前にシラバスを読み、授業計画の内容について事前学習を行なっておくこと。(60 分)
- ・学習した内容を踏まえて、ポイントを各自で整理すること。(60 分)

テキスト

平成 29 年告示「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社 定価 550 円）

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

授業の積極的な参加(20%)、授業への取り組み方（姿勢，態度）(20%) レポート提出(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習内容を理解することができる。
- (B) グループ学習等の活動を通して主体的に行動することができる。
- (A) 現在の幼児の健康課題について説明することができる。
- (S) 幼児が健康を獲得するための方法を提案することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

毎回出席をとる。テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等を行うことがある。

科目名	幼児と人間関係						学期	後期 3 ターム	
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	吉次豊見	
ナンバ リング	K1-21-040	実務経験 の有無	有	関連 DP	1.2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

人との関わりに関する領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、幼児期の人間関係の発達や特性や子どもの人間関係にかかわる現代社会の状況をふまえ、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養うための幼稚園教育内容及び援助について理解する。
本講義では、幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解し、教育内容の構成について学ぶ。具体的には、まず、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。その際、子どもを取り巻く社会の状況（縮小する家族、母親の就労、変化する生活環境など）を踏まえて理解できるようにする。次に、それぞれの年齢での子どもの発達がどのようなものか、教師・保育者はどのように一人ひとりに関わって人との関わりを促していけばいいのかを学習していく。さらに、自立心、共感性、道徳性・規範意識、コミュニケーション能力などを育成するために、どのような支援をしていけばいいのかを、事例を使って、具体的に考えていけるようにする。最後に、人間関係の育ちを育む環境づくりについて考察できるようにする。

授業の到達目標

1) 幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいおよび内容について理解する。2) 子どもを取りまく社会の状況に関心を持ち理解するとともに、改善の方策を考える。3) 幼児期の人間関係の発達の特性を事例から理解し、特性をふまえた幼稚園教育内容および方法について考察できる。4) 自立心、共感性、道徳性・規範意識、コミュニケーション能力を培う指導・援助方法及び人とのかわり方で気になる子どもへの支援方法について考える。5) 子どもたちを取り巻く人間関係（保護者と保育者、保護者同士、保育者同士、地域など）を豊かにするため、家庭や地域社会との連携を深める大切さを理解する。

授業計画

1. 領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱い
2. 子どもを取り巻く社会の状況について
3. 「非認知能力」とは何か。マシュマロテストから考える
4. 3歳児の遊びと人間関係、子どもの考えの広がり
5. 4歳児の遊びと人間関係 生活を通して学ぶ
6. 5歳児の遊びと人間関係 5歳という立場とその発達
7. 子どもの自立心をどう育むか。自立心につながる絵本教材の活用
8. 子どもたちのいざこざ・けんかなどのトラブル 事例研究を通して学ぶ①
9. 子どもの遊びや生活に見られる共感や思いやりとは。事例研究を通して学ぶ②
10. 幼児期に育てたい道徳性・規範意識の芽生え、ルールやマナーとの関連性に視点をにおいて：事例研究を通して学ぶ③
11. 個と集団の育ち、幼稚園における評価の考え方
12. コミュニケーションの理論とコミュニケーション能力を育むための関わりについて
13. 気になる子どもとのかかわり、多様な文化的背景に対応できるかかわり方の理解
14. 子どもを取り巻く人間関係 保護者との信頼関係づくり、同僚との関係、チーム力、子育て支援ネットワークの広がり
15. 幼保小の連携、まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

各授業までに保育所保育指針と幼稚園教育要領等の人間関係の項目や指示した資料について読んでおくこと。また授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること(60分)

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

レポート(40%)、小テスト(20%)、発表(10%)、授業でのワークシート記述(20%)と積極的参加度(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 乳幼児期の発達と人間関係の繋がりが理解できている。
(B) 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。
(A) 子どもたちの仲間関係や、保育者・地域の人々との人間関係を育てる保育実践について具体的な場面から構想できる。
(S) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を理解し、具体的な指導場面を想定しつつ保育を構想していく力がある。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。・提出された課題やレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

・公立幼稚園教諭として12年間の勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、理論のみならず保育現場の実際や子どもたちの姿、保育者のあり方など具体的な実践事例をふまえて指導する。

科目名	幼児と環境						学期	前期 1 ターム
副 題	自然との関わりを五感を使って理解する				授業 方法	講義	担当者	児島昌雄／ 柳原高文
ナンバ リング	K2-17-041	実務経験 の有無	無	関連 DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

(テーマ)領域(環境)のねらいと内容について理解し、幼児と身近な環境との関わりの意義や自然認識の発達について学ぶ。(授業の概要) 幼児は、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つ。この授業では、幼児の思考、自然認識の発達や、幼児と環境との関わりの意義、現代的な課題などについて学ぶ。授業は、アクティブラーニングの手法で行い、学生の主体的な学習が求められる。

授業の到達目標

- 1) 幼稚園教育要領における保育内容(環境)のねらいと内容を理解し、説明できる。
- 2) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、幼児と環境との関わりの意義や、自然認識の発達について理解する。
- 3) 幼児の生活における数量・図形や、施設等の関わりについて、その意義や発達について理解する。

授業計画

1. 授業の進め方、評価方法、保育内容領域(環境)の全体構造
2. 保育内容領域(環境)のねらいと内容 予習：講義内容の幼稚園教育要領解説に目を通す 復習：講義内容をふり返りまとめる
3. 「森のようちえん」実践例と教育的効果 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
4. 自然保育の構成とそのねらい 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
5. 幼児の好奇心と探求心の芽生え 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
6. 幼児と環境(1) 自然環境とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
7. 幼児と環境(2) 生き物とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
8. 幼児と環境(3) 生活の中での文字・数・図形とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
9. 幼児と環境(4) 身近なモノ・標識・国旗とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
10. 幼児と環境(5) 生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
11. 地域の自然・文化と保育内容(環境) とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
12. 幼児の好奇心と探求心を高める環境構成 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
13. 幼児の自然認識の発達について 予習：情報を収集する 復習：講義内容をふり返りまとめる
14. SDG's などの現代的課題について 予習：情報を収集する 復習：講義内容をふり返りまとめる
15. まとめと振り返り 予習：これまでの授業を整理しておく 復習：振り返りをまとめる

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、発表・レポート：30%、定期試験：50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 環境を理解することができる。
- (B) 環境を理解し行動することができる。
- (A) 環境を理解し行動ことができ、プログラム作成ができる。
- (S) 環境を理解し行動ができ、プログラム開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常生活の中で自然環境に思考する。動植物がとりなす自然環境や気象などの科学的な事象にも興味関心を持ち、幼児との関わりを考える。

科目名	幼児と言葉							学 期	前期 2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	香田健治	
ナンバ リング	K2-17-042	実務経験 の有無	無	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(目的・ねらい) 1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
(概要) 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え、以下の知識・技術を学ぶ。
1. 子どもの生活と遊びにおける他者(保育士等や他の子ども)との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術 2. 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識及び技術 3. 子どもの生活における様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要な知識及び技術

授業の到達目標

保育所保育指針に示される保育の内容のうち、言葉(言語表現)に関する知識と技術を身につけ、子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等、に親しむ体験や、様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びを体験する。

授業計画

1. 幼児と言葉の内容とねらいについて (『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして)
2. 人間にとっての言葉の意味を考えながら(詩をテキストにして) 保育内容(言葉)を捉える
3. 幼児と文学(物語・絵本)、よい絵本とは何か
4. 絵本の絵について (絵の役割、絵のイメージ)
5. 絵本の世界を豊かに体験する
6. 反復と対比 (絵本のイメージと意味)
7. 絵本の読み聞かせについて
8. 絵本の制作
9. 制作した絵本の内容について (発表と検討)
10. 物語絵本の解釈
11. 物語絵本の分析 保育としての物語絵本を考える
12. 物語絵本の読み聞かせについて
13. こどもの発達と言葉
14. 言葉の持つおもしろさ(ことばあそび)
15. 振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

指定した教科書を通読しまとめること。(60分) 様々な作製の授業については、事前に指示する準備物を持参すること。(30分) 授業後の振り返りをノートに記述する。(15分)

テキスト

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年(生協で購入) ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年(生協で購入) ・福山多江子、伊澤永修、大澤洋美、生野金三編著『0～6歳児「言葉を育てる」保育一よくあるギモン 40&言葉あそび 20』東洋館出版社、2021年(生協で購入)

参考書・参考資料等

・文部科学省『幼稚園教育要領』 ・厚生労働省『保育所保育指針』 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価

授業への積極的参加30%、レポート30%、定期試験40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 保育内容「言葉(言語表現)」に関する最低限の知識及び技能を身につけている。
(B) 保育内容「言葉(言語表現)」に関する知識及び技能を概ね身につけている。
(A) 保育内容「言葉(言語表現)」に関する知識及び技能を十分に身につけている。
(S) 保育内容「言葉(言語表現)」に関して優れた知識及び技能を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出の振り返りについては、必要事項について次週の授業でフィードバックを行う。

その他

・将来、教師を目指す受講生であるから、出席、受講マナーはもとより、講義内容へ積極的に参加・参画すること。 ・グループワークを行う科目である。

科目名	幼児と表現						学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	植田恵理子	
ナンバ リング	K2-21-043	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、幼児の表現を受け止め共感できる感性を養う。

授業の到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。
2. 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、保育を構想できる。
3. 音楽表現などの表現活動の基礎的知識・技能を学び、保育に活用する際に必要な感性を豊かにする。

授業計画

1. オリエンテーション、幼稚園教育要領・保育所保育指針における基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造
2. 乳幼児の表現の発達
3. 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性
4. 保育における表現活動の環境① 物的・人的環境
5. 保育における表現活動の環境② 保育者の援助
6. 領域「表現」と演奏活動
7. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び①
8. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び②
9. 総合的な表現活動
10. 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向
11. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：造形・身体表現遊び
12. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：音楽表現遊び
13. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇遊び
14. 多様な教材と豊かな表現：総合的な表現活動
15. 授業のまとめ、領域「表現」の評価の考え方、授業内テスト

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

石井玲子（編著）『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」-音遊びから音楽表現へ-』教育情報出版入

参考書・参考資料等

『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育 保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房、『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）

学生に対する評価

課題への取り組み（30％）、提出物（40％）、授業内テスト(30％)等により総合的に評価する

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 領域「表現」のねらい及び内容を基本的に理解できる。
- (B) 基本的な理解に基づき、領域表現の活動環境や教材について考えることができる。
- (A) 領域「表現」に必要な様々な教材、活用方法について具体的に構成できる。
- (S) 領域「表現」の様々な活動に対し、他の領域との関連性を含め、教材、方法等を具体的に構成できる。

課題に対するフィードバックの方法

課題、提出物については、当該翌週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内テストについては、後日あるいは、授業内で可能なフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	地域体験基礎							学 期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバ リング	K1-17-044	実務経験 の有無	有	関連 DP	5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。授業は、課題解決型の形式で行い、調査、グループ討論やプレゼンなど、学習者主体の講義となる。

授業の到達目標

地域体験の意味を、資質・能力形成（特に非認知能力）と関連させて考える。（1）連携団体の特徴、地域の課題等を把握し、地域での活動のあり方を知る。（2）地域活動を通して、自らの成長についても振り返ることができる。

授業計画

1. オリエンテーション(地域体験の内容、進め方、学習の意味)、自分の住んでいる町を紹介する。
2. 体験活動の取材での留意事項を理解する。日誌記入・提出の仕方を通じて ICT の活用も理解する。
3. 小山田地域のフィールドワークを行う。
4. 小山田地域のフィールドワークを行う。
5. フィールドワークでの気づきを共有するとともに、地域の人の思いを知る。
6. 地域で活動する意味をワークショップから考察する。
7. 非認知能力とは何かを（経済学、心理学の視点から）理解する。（その1）
8. 非認知能力とは何かを（学習指導要領から）理解する。（その2）
9. 体験活動はなぜ必要なのかを考察する。
10. 体験から学びへとどうつなげるのかを理解する。
11. 体験活動を書くために必要な視点を社会的アプローチから迫る。
12. 体験レポートを書くための設計図づくりを行う。
13. 体験3日目の活動を発表しあい、表現や内容をブラッシュアップする。
14. 体験前と体験後での自分の変化に関したレポートづくりを行う。
15. 私たちは地域活動を今後どうすすめていけばいいのかを、グループで討論する。

準備学習(予習・復習)・時間

・課題について、取材・調査・体験したことをもとにまとめ、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、最終レポートにまとめられるように準備しておく（90分）。・地域調査に出かけ、グループで調査結果をまとめ、発表のための準備をする。（120分）。

テキスト

授業前や授業中に配布する資料

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

最終レポート(50%) レポート(25%) プレゼン(25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・連携団体の活動、非認知能力とは何かを知る。
 (B)・地域の課題や連携団体の活動を理解する。非認知能力が注目されてきた背景を知る。
 (A)・地域の現状と課題を理解し、自分たちのできる参加段階の企画を立てることができる。・学習活動での非認知能力育成の意義を説明できる。
 (S)・より積極的な参加段階の企画を立て、外部からの意見をもらい、自分たちの企画を検討・評価し、発信できる。・非認知能力の評価の仕方を知ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出されたレポート・課題については、コメントをつけ個々にフィードバックをするとともに、発展的に全体にもフィードバックし深めていくようにする。

その他

・「地域活動をどのように進めればよいか」という課題を解決していく PBL を取り入れた科目である。・グループでの調査・議論・まとめ・発表を中心に進め、討議やグループ学習を随時行うアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

コミュニティスクールの地域教育支援コーディネーターとしての勤務経験や中学校教員として校内の総合的な学習の時間を担当し、かつ地域コーディネーターや学校運営協議会、社会教育委員の役割を担った経験を活かして、地域の現状・課題をつかみ、地域と学校がつながる上で何が大切かを理解させる。また、連携団体の活動から、真正な学びとは何かを考察し、かつ、非認知能力の育成の大切さに気づかせ、授業やこれからの生活にいかせるようにする。

科目名	科学技術と社会							学 期	後期 3・4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	岡本正志	
ナンバ リング	K1-24-045	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

科学技術の急速な発展において、今日ほど科学や技術と人間や社会との関係が問われている時代はない。AI の登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。科学技術の歴史的な発展についても触れる中で、今日と未来についても一緒に検討していきたい。

授業の到達目標

今日の科学技術について基本的な知識を学ぶとともに、社会への影響について検討する。科学的な思考について理解し、教育者として、科学技術と社会についてどう考えるか、調査と討論において深める。

授業計画

1. イントロダクション：100 年前に考えた現在の世界 (Yesterday' s Tomorrow)
2. 技術の発展と社会変化：ひとつの技術が世界を変えた(時計の社会史)
3. 技術の発展と社会変化：産業革命を探る
4. 科学的な思考とは：地動説を巡って
5. 宇宙論を検討する：なぜビッグバン理論が登場したのか
6. 実験観察と理論の確立
7. (調査課題) 科学技術が社会に与えるインパクト
8. 課題発表と討論
9. 生命科学の発展と人間
10. 物理学の発展 光と磁気の科学から電磁気学に
11. 通信技術の発展と社会変化
12. AI の登場と社会の変化
13. (調査課題) 私たちと AI ：教育に AI はどう関わるか
14. 課題発表と討論
15. 振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：参考書などで、次の回の講義テーマについて調べておく。事後学習：講義内容をノートにまとめ、理解できているか確認し、自らの課題を検討する。調査課題：課題テーマについて調べまとめて、発表できるように準備する。※いずれも 60 分以上。

テキスト

資料配布

参考書・参考資料等

岡本正志編著『科学技術の歩み』建帛社

学生に対する評価

課題発表 (30%)、小レポート (20%)、定期試験 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で説明された科学技術の歴史や内容について、言葉や概念の基礎的な理解をする。
- (B) 科学技術と社会との関係について、いくつかの事例を理解し説明できる。
- (A) 科学技術と社会に関する課題を検討し、自分の意見を発表できる。
- (S) 科学技術が社会にどのような影響を及ぼしているのか理解し、それを教育にどのように活かせるか考えられる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見、小テスト等については講義内で説明、解説する。全体への振り返りは最後の授業で行う。

その他

課題発表やグループワーク、討論など、アクティブラーニング形式で行う。

科目名	植物栽培の基本						学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	竹田義	
ナンバ リング	K1-24-046	実務経験 の有無	有	関連 DP	5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

地域体験で、植物栽培に関わる体験がたくさん用意されている。この体験を有意義にするため、植物栽培の基本的な知識・技能について講義する。植物の生態、植物と環境との関係、肥料、土、水、空気、温度など生育に大きく関わる要素について解説するとともに、必要に応じて、公園緑化センターでの実技も行う。

授業の到達目標

・地球環境における植物の役割、循環型社会を維持する上で生態系保全の重要性について理解し、子どもたちに緑の大切さについて説明できるようになる。・社会生活の中で、植物と人間の関わり、多面的な利用について知ることで植物についての理解が深まる。・栽培に必要な基礎知識、技術を習得し、科学的な知識に基づいた植物の栽培ができるようになる。・教育、生活や地域社会との関わりのなかで、体得した草花の栽培技術を生かせるようになる。

授業計画

1. 植物、園芸とは何か
2. 生物多様性保全と園芸
3. 野生植物と園芸植物
4. 有用植物の来歴
5. 植物の形とライフサイクル
6. 生産・消費・流通の特徴
7. 園芸植物の多面的利用
8. 植物の生育と環境
9. 植物の栽培管理と土・水・肥料
10. 植物の品種改良
11. 植物の繁殖
12. 栽培道具・設備と環境調節
13. 花壇植栽とデザイン
14. 植栽植物の種類と扱い方
15. 植物園と公園

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配布する資料の要点をレポートとして提出する。(90 分) ・毎回の授業で関連する専門用語を数例提示するので、その意味について解説して次回の授業時に提出する。(90 分)

テキスト

・大川清・今西英雄・土井元章 『高等学校教科書 農業 草花』、実教出版、2012 年

参考書・参考資料等

・大川清 『花卉園芸総論』、養賢堂、1995 ・小笠原誓 『別冊 NHK 趣味の園芸 栽培上手になるビジュアル園芸用語』、NHK 出版、2005 ・岩槻邦男 『日本の植物園』、東京大学出版会、2004

学生に対する評価

試験 (50%)、レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 植物、園芸について基礎的な知識を習得している。
 (B) 植物や部位の正式な名称を理解している。
 (A) 野生植物と園芸植物の関連性について説明できる。
 (S) 植物を栽培する上での要点を、科学的根拠に基づいて説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、その都度授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立植物園において植栽設計や管理運営に従事してきた経験から、学んだことを自己の職業設計においてどう実践に結び付けられるか、目的意識をもって学ぶことが如何に大切かを理解できるように指導する。

科目名	自然と人間							学 期	後期 3・4 ターム
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	那須義次
ナンバ リング	K1-24-047	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

複雑な生態系のしくみを理解し、生物多様性の重要性を学ぶことによって、自然とヒトとの関わりについての理解を深める。座学だけでなく、実際に学内のフィールド調査を通じて生態系と生物多様性を理解する。学内に設置した小鳥用巣箱を通じて、野鳥保護だけでなく自然保護についても理解する。河内長野市内でおこなわれている自然保護活動の実践現場の見学を通じて、自然とヒトとの関わりについて体験しながら、教育にどのように活かせるのかも考察する。

授業の到達目標

・複雑な生態系をひもとくための基礎知識が理解できる。・生物多様性の重要性を学ぶことができるとともに、フィールド調査の体験を通して生物多様性が理解できる。・自然保護活動の実例を学ぶことによって、自然とヒトとの関わりについて理解できる。

授業計画

1. 環境と生物が織りなす様々な生態系
2. 生態系の基礎用語①食物網と生態ピラミッド
3. 生態系の基礎用語②ニッチと個体群
4. 生態系の基礎用語③植物と動物の違い、生物多様性
5. 生態系の基礎用語④植物と動物の進化、生存戦略
6. フィールド調査①学内の植物と動物
7. 生態系をつくる関係①シードバンクと共生関係
8. 生態系をつくる関係②種子分散と擬態、軍拡競争
9. 生態系をつくる関係③生物の移動と分散
10. 生態系とヒト①農業と自然との関係
11. 生態系とヒト②グローバル社会と外来種問題
12. フィールド調査②小鳥用巣箱の管理
13. 生態系とヒト③生態系サービスと自然保護
14. フィールド調査③バードレスキュー活動の見学
15. まとめと考察

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回のテキストの範囲を読み、専門用語等の意味を理解し、図書やホームページを通して関連分野の予備知識を得ておくこと(90分)、事後学習として授業の内容について整理しておくこと(90分)。

テキスト

鷲谷いずみ著『新版絵でわかる生態系のしくみ』、講談社、2018年(生協で購入)

その他、テーマに応じた補足資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

鷲谷いずみ著『絵でわかる生物多様性』(講談社、2017年) 宮下直・西廣淳著『人と生態系のダイナミクス①農地・草地の歴史と未来』(朝倉書店、2019年) 日本生態学会編『生態学入門第2版』(東京化学同人、2012年) 浅間茂・中安均著『校庭の生き物ウォッチング』(全国農村教育協会、2003年)

学生に対する評価

全体レポート(40%)、フィールド調査時の取り組み(3回、各20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生態系と生物多様性の用語を理解できている。
- (B) 生態系と生物多様性について理解し、具体的な事例とともに自分の言葉で表現できる。
- (A) 生態系と生物多様性を理解し、それらについて論理的かつ小学生にもわかる平易な文章で具体的に表現できる。
- (S) 生態系と生物多様性を理解し、人間との関わりについて具体例を元に小学生の授業でいかに取り組むかを提言できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。・提出された全体レポートは、最終授業で全体に対するフィードバックをおこなう。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大阪府農業大学校講師としての勤務経験を活かし、昆虫分類学および野鳥と昆虫との共生関係の研究を進めている教員が、その知識および経験を踏まえ生態系や生物多様性について具体的に講義するとともに、フィールド調査を通じて理解させる。

科目名	日本文化						学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	浅井雅宏	
ナンバ リング	K1-02-048	実務経験 の有無	有	関連 DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本文化の仏画について、その意味や歴史との関係を踏まえた講義を学び、仏教や日本の歴史と日本人の精神について理解を深める。実際に仏画を描き体験して学ぶことで、目標設定や困難にたち向かう仏教的解決方法を修得する。

授業の到達目標

絵写経・写仏について理解し、説明及び実施が出来るようになる。解決すべき問題の壁に当たった時や自らの考えをまとめる時に、古来より行われてきた、心身を落ち着かせ心に向き合う時間をつくるための方法を身に付ける。

授業計画

1. 絵写経・写仏の説明。・実習：絵写経
2. 絵写経・写仏の活用方法。実習：カーボン紙づくり
3. 日本における仏画の歴史（仏教伝来～奈良白鳳時代）。実習：色紙に写仏。
4. 日本における仏画の歴史（平安時代）。実習：色紙写仏に墨入れ。
5. 日本における仏画の歴史（鎌倉・室町時代）。実習：写仏。
6. 目で覚える彩色の仕方。実習：写仏と彩色。
7. 日本における仏画の歴史（江戸時代）。実習：絵写経
8. 日本における仏画の歴史（近代）。実習：絵写経
9. 実習：色紙写仏に彩色。
10. ディスカッション。レポート提出。
11. 実習：絵写経
12. 実習：絵写経
13. 課題であるオリジナル絵写経の制作。
14. 課題であるオリジナルの絵写経の制作・提出。
15. 課題であるオリジナルの絵写経の発表。

準備学習(予習・復習)・時間

・課題について調べて、作品制作および発表の準備をする（30 分） ・実習においては、毎回の内容を振り返り、今後どのような技量が必要かを、確認する（60 分） ・講義内容についてのレポートを提出する。（60 分）

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

中村涼應 中村幸真・初めて描く仏画入門 淡水ムックゆうシリーズ 週末の手習いー7

学生に対する評価

・作品（40％）・レポート（30％）・発表（30％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 絵写経・写仏を描くことができる。
- (B) 絵写経・写仏の活用を理解し、描くことができる。
- (A) 絵写経・写仏の活用を理解し、技術も優れている。
- (S) 絵写経・写仏の歴史・活用方法を修得し、技術も優れている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

実習、ディスカッション、学生によるプレゼンテーションを取り入れた科目である。実習に必要な、筆(1本 600 円)、面相筆(1 本 450 円)、彩色筆(450 円×2 本)は授業で全員購入すること。その他、顔彩絵具(24 色、メーカー：吉祥、2400 円)も必要だが水彩絵の具も可。初回授業で説明する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・二科展入賞・会友経験及びグラフィックデザイン業務の経験より、美の本来の美しさを見出す実習を行い、将来設計を豊かな感性と共に考える重要性を認識させる。仏画制作・教室講師の経験より、仏画の知識や技術を身に付けさせる。絵写経を広める活動経験を通して、心のセルフケア方法としての、静かな時間の取り方やコツコツと取り組む大切さを生徒と共有し認識させる。

科目名	文学							学 期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバ リング	K1-20-049	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

文学とは人間の真実やものごとの本質を美的に表現したものである。だからこそ、読者は文学作品からふかい思想的な解釈を発見し、自らの認識を広げ、ふかめて行くことが出来る。本科目は、小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、児童文学作品、絵本などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の間人観・世界観を広げ、ふかめていくことを目的とする。

授業の到達目標

文学教育の基本的知識を身に付け、教材を分析・解釈することができる。

授業計画

1. 学習指導要領における「文学」の位置づけ
2. ものの見方・考え方 1（教育的認識論—低学年）
3. ものの見方・考え方 2（教育的認識論—中学年）
4. ものの見方・考え方 3（教育的認識論—高学年）
5. 視点論 1（視点とは何か、語り手、共同体など）
6. 視点論 2（視点人物、対象人物、話主など）
7. 構造論 1（文学作品の構造とは、構造分析など）
8. 構造論 2（話者の話体と作者の作体、作家と作者など）
9. 形象論（形象相関の原理、形象の全一性）典型論
10. 文芸の美（「ちいちゃんのかげおくり」（あまきみこ）など）
11. 文芸の美（ユーモア、ファンタジーなど）
12. 文学作品の分析と解釈 1（「海の命」立松和平）
13. 文学作品の分析と解釈 2（「やまなし」宮沢賢治）前半
14. 文学作品の分析と解釈 3（「やまなし」宮沢賢治）後半
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った文芸学の理論（詩や物語をどのように分析し、どのように解釈するのか）について要点を整理し、概念用語を覚える（60分以上）。

テキスト

講義時に適宜資料(テキスト)を配付

参考書・参考資料等

西郷竹彦『名詩の世界 西郷文芸学入門講座』光村図書、2005 年
村尾聡『文学教育論—西郷文芸学の教育学的考察—』ブイツーンソリューション、2014 年
西郷竹彦『宮沢賢治「やまなし」の世界』黎明書房、2009 年

学生に対する評価

小テスト(30%)、レポート(70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 講義で学習した内容を自分の言葉で表現できている。
- (A) 講義で学習した内容を文芸用語を使って表現できている。
- (S) 講義で学習した内容を文芸用語を使って的確に表現できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

パワーポイントを使って、模擬授業形式で講義を行う。学生同士の話し合い（グループワーク）の時間もとる。講義後に授業内容についての感想を書いてもらい小テストとする。授業の3分の1をこえて欠席した場合は失格とし、遅刻・早退は2分の1の欠席と計算とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について25年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	創作研究						学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	英語絵本作り				授業 方法	演習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバ リング	K1-07-050	実務経験 の有無	無	関連 DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、英語圏の様々な文化を童話文法の視点から学び、将来教員として必要な英語力を体験的・総合的に取得するために、グループによる絵本作りや演劇という創作活動を行う。本講義の目的は、英語への理解を深めるために単に英語の4技能(Reading, Listening, Writing, Speaking)1領域(Interaction)の力を高めるだけでなく、小学生が英語に興味・関心を持ちモチベーションを持続させることができるようにするために、教員は何を使用し、どのようにそれを使用するべきかを考える力をつける。

授業の到達目標

童話文法の学習から英語学習の「気づき」や「理解」ができるようになること、そして絵本、紙芝居、演劇(ミュージカル)の制作や、幼稚園や小学校英語教育での実践で「発信」することができるように活動する。

授業計画

1. オリエンテーション(講義の進め方、予習、復習、成績評価について説明する)
2. 講義(絵本や紙芝居作成のための物語文法を学習する)
3. 絵本作成の基本を講義後、グループによる絵本作成
4. グループによる紙芝居作成
5. 作成した絵本と紙芝居の発表 各グループへの評価をフィードバックする
6. 作成した「絵本」を実演する
7. 作成した「紙芝居」を実演する
8. 第二言語習得とバーバルとノン・バーバルについて学習する
9. 英語学習における演劇の効果について学習する
10. グループによる演劇実演の準備1
11. グループによる演劇実演の準備2
12. 実演のための発音指導
13. 実演のためのリハーサルと各グループへの評価をフィードバックする
14. 小学校等で「演劇」を実演する
15. 総括とフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

集中講義時間内に進捗度に合わせて一定時間の予習・復習の指示をする

テキスト

プリント教材を準備し、初回講義で配布する。

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する

学生に対する評価

評価はグループワークでの参加度、授業態度、実演を加味して行う。
発表3回分(60%)、授業参加の積極性(30%)フィードバック(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の基本的な内容を理解することができる。
- (B) グループ活動で仲間と協力を得ながらも与えられた役割を完遂することができる
- (A) グループ活動に協力的に参加し、与えられた役割を完遂することができる。
- (S) 絵本作成や演劇実演の活動に関して、グループで中心的な役割をはたすことができ、それらの作品を児童が理解できるように実演することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う

その他

絵本作成は1グループ3名編成、演劇活動は1グループ5人から6人で作品を完成する。

科目名	茶道						学 期	後期 3・4 ターム	
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	岡本文音	
ナンバ リング	K1-26-051	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。その上で受講生自らが茶会を企画実践し、亭主側と客側とを体験する。これらを通して、茶の湯の精神や美意識について考える。

授業の到達目標

茶の湯（茶道）における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。茶の湯（茶道）の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようにする。

授業計画

1. 講義 茶道概説 茶事（茶会）のながれ
2. 実習 客の所作と心得 1 お茶のいただき方（薄茶）
3. 実習 客の所作と心得 2 席入りの仕方
4. 講義 茶の湯の文化 1 茶道史 茶の湯以前
5. 実習 盆略点前 1 割稽古
6. 実習 盆略点前 2 割稽古
7. 講義 茶の湯の文化 2 茶道史 草創期の茶の湯
8. 実習 盆略点前 3 割稽古
9. 実習 盆略点前 4 割稽古
10. 講義 茶の湯の文化 3 茶道具について
11. 実習 盆略点前 5 通し稽古
12. 実習 盆略点前 6 通し稽古
13. 実習 茶杓削り
14. 実習 茶会の企画と実践
15. 実習 茶会体験 初釜

準備学習(予習・復習)・時間

実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60 分) 体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60 分) 講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90 分)

テキスト

学校茶道編集委員会編 『学校茶道（初級編）』 財団法人茶道文化振興財団発行 平成 15 年出版 授業時に一括購入

参考書・参考資料等

- ①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 2007 年
- ②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社 2005 年

学生に対する評価

授業時に随時課す提出物（30%）茶会の企画と実践（35%）期末試験（35%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
- (B) 基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
- (A) 客の所作と盆略点前を修得している
- (S) 茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

実習の費用（茶・菓子・炭）として 3,500 円、および茶杓削りの材料費として約 1,000 円が必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

茶道教授者の実務経験より、学生の個人能力に合わせて教育指導をする。

科目名	書学入門(書道)							学 期	後期 3・4 ターム
副 題	-					授業 方法	演習	担当者	野田悟
ナンバ リング	K1-06-052	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 4	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。さらに発展的に、東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論を含めた実践から焦点を当てる。本講座は基本的に古典臨書を根底とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。

授業の到達目標

国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる筆順も含めた書写力の向上と、授業理論・実践・指導内容の理解を目指す。さらに、発展的に芸術としての書道の悠久の歴史や楽しさを学ぶ。漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と写経作品による創作を行う。

授業計画

- 第1回：ガイダンス 表意文字としての漢字の位置
- 第2回：小学校国語科書写の学習内容の概要と評価
- 第3回：小学校国語科書写の実技と理論、指導案について
- 第4回：臨書入門 顔真卿「多寶塔碑」①
- 第5回：臨書入門 顔真卿「多寶塔碑」②
- 第6回：臨書入門 褚遂良「雁塔聖教序」①
- 第7回：臨書入門 褚遂良「雁塔聖教序」②
- 第8回：前半の半紙臨書作品の提出及び鑑賞
- 第9回：二つの法帖を比較臨書①
- 第10回：二つの法帖を比較臨書②
- 第11回：自分で法帖を1つに絞り再度臨書する。
- 第12回：自分で選択した法帖の背臨
- 第13回：般若心経写経創作①
- 第14回：般若心経写経創作②
- 第15回：般若心経写経創作③及び合評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の時間に備える。(120分以上) ＊課題の指示は、授業中に行う。

テキスト

・中国法書選 40 顔真卿「多寶塔碑」、34 褚遂良「雁塔聖教序」、16 王羲之「集字聖教序」：二玄社・書道字典を持っている方が望ましい。・写経セット [LA26-59] を購入の事。＊その他、必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『説文解字』（中華書局等）、『龔智昌集』、『篆隸万象名義』等（高野山大学蔵）『新書源』（二玄社）等々『小学校学習指導要領解説 国語』、文部科学省、H29

学生に対する評価

・基本的に提出作品及び授業態度による評価。・各学期ごとに採点し、平均点を算出する。そのため欠席が、各学期1/3を超えた場合その時点で失格とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨書している法帖の結構並びに基本的な筆遣いが出来ているか。
 (B) 臨書の鍛錬を基に、線がしっかりとっていて、結構や余白につりあいとれているか。
 (A) 法帖を基盤とした高いレベルでの作品を作れるか。
 (S) 作品作りの上で、落款や跋文(願文も含む)を非常に高いレベルで創作できるか。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間中に毎回の課題を貼ってもらい、授業の導入部分で批評しながら、フィードバックを行う。・毎回の課題は作品〔レポート〕として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、毛氈、文鎮、半紙、反切は個々に準備の事〔ガイダンス時に詳しく説明する〕。・書道実技の講座として、毎回、課題が課され、授業以外での自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。課題は反切画宣紙を使用する。・休み時間のうちに全ての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。展覧会出品も考えている。その場合の表具代は自己負担となる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家であり、高校書道教員及び芸術系大学院講師の勤務経験を持つ教員の指導により、東洋文化を考えるうえで、表意文字である漢字の原点に立ち返り、教育現場での必要性を講じ、実技指導する。

科目名	地域体験特論							学期	前期 2 ターム
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	岡本正志／ 柳原高文／ 和井田祐司
ナンバ リング	K2-26-053	実務経験 の有無	無	関連 DP	2, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

（テーマ）地域での体験活動を教育に活かす（授業の概要）地域で農業・栽培などの体験活動することの目的・意義をしっかりと理解させたうえで、個別の体験活動についての説明を行う。さらに、可能なら、文化活動、特に演劇表現活動について体験する時間を取りたい※。様々な体験活動を、教育活動につなぐことができるように指導する。 ※脚本家の都合で変更になる場合もある。

授業の到達目標

地域で農業体験などのいろいろな体験活動をして、活動の内容・意義を理解するとともに、身体で覚えた経験を教育活動に繋げることができる。

授業計画

1. 地域体験の目的と意義
2. 1 回生時の体験活動の振り返り
3. 栽培体験、森林整備体験について
4. 地域活動体験、馬術体験について
5. 農業・栽培体験を生かした教育活動
6. 地域体験、馬術体験を生かした教育活動
7. 体験活動で培う非認知的能力
8. 文化活動を構想する
9. 文化活動体験について（演劇活動の基礎的理解）
10. 文化活動体験について（演劇の基本、発声、基本的動き）
11. 文化活動体験について（裏方の動き）
12. 文化活動体験について（脚本・演出）
13. 文化活動体験（発表会）
14. 文化活動体験を生かした教育活動
15. 本講義のまとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

体験活動と教育活動との関連について、毎回、課題を提出するので、よく検討し、次回の講義の時に発表できるように準備しておく。体験活動を行う場合もあるので、その際には、体験の内容やその意義等についてまとめておくこと（いずれも 60 分以上）。

テキスト

毎回の講義の際に、体験先の情報等をまとめたレジュメを配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

授業への参加・発表：50%、レポートなどの提出物：50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- （C）発表や提出物など、最低限の義務を果たした
- （B）発表に工夫が見られ、提出物の内容が妥当である
- （A）良い発表を行い、提出物も優れている
- （S）発表や提出物共に、特に優れた内容でオリジナリティがある

課題に対するフィードバックの方法

質問等については毎回の授業でフィードバックする。提出物についても、添削し授業でフィードバックを行う。

その他

アクティブラーニング：課題を検討し発表・討論する。

科目名	学校・保育現場体験Ⅰ							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	今西幸蔵／ 植田恵理子	
ナンバリング	K1-16-054	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校・保育現場での体験活動。活動の内容は ・授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助 ・授業における教員とのチームティーチングによる生徒の学習指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動・ などである。体験が深まるまでは見学や行事の手伝い、下校指導などが中心となり、経験が深まるにつれて内容が高度になる。

授業の到達目標

教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。

授業計画

1. 内容詳細
2. ①業務全般（児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可）
3. ②授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助
4. ③校外学習は参加不可（徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可）
5. ④授業における児童・幼児への学習指導補助
6. その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの
7. 体験するまでの流れ
8. 4月下旬 説明会・事前指導
9. 5月中旬 体験先決定（河内長野市教育委員会・高野山大学で協議）
10. 6月中旬～ 体験開始
11. 適宜、振り返りを含む中間的な指導
12. 1月下旬 事後指導
- 13.
- 14.
- 15.

準備学習(予習・復習)・時間

1. 事前学修として、体験先の学校や保育所に関する情報収集を図り、そこで行われている教育活動の内容を知る（60分以上）。 2. 事後学修として、体験記録などのレポートを作成し、その内容を振り返り、得られた経験知を自分のものとする（60分以上）。

テキスト

資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等

使用しない

学生に対する評価

教育実習に準じて、校園長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。（100％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 実際に学校や保育の現場に触れ、そこで働いておられる人々の姿から教育や保育の意味・意義を感じ取り、職業としての現状を理解する。
- (B) 学校や保育所の現場での実習を通して、教員や保育士の仕事内容を知り、自分の将来の職業選択について考えることができるようになる。
- (A) 学校や保育所の現場を理解することから、教員や保育士に必要とされているものが何かが理解できるようになり、志望の実現のために必要とされることを学ぶ意欲を高める。
- (S) 教育や保育の現場を深く理解するとともに、教員や保育士になろうとする意欲・希望がこれまで以上に強いものになり、専門性の高い知識やスキルの習得への関心を持つ。

課題に対するフィードバックの方法

体験記録などのレポートに対して、一定の評価を与えるとともに、問題点や課題を指摘する。そのことにより体験活動の成果を深めることになる。

その他

1. 学校や保育所現場での体験活動をととして、教育や保育の意味・意義を理解して欲しい。その上で、教員・保育士としての将来の自分の姿を見つめ、そのために必要な学修に努めることを期待する。2. 実習であるので、活動自身がアクティブラーニングと一致する要素がある。プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション等を行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校・高等学校及び教育委員会事務局職員としての勤務経験があり、その経験を活用して、教員や保育士などを希望する学生を指導する。また、他大学で教員として、この科目と内容のほぼ変わらない学修活動を指導してきている。

科目名	学校・保育現場体験Ⅱ						学 期	通年	
副 題	-				授業方法	実習	担当者	山田正行／ 柳原高文	
ナンバリング	K2-16-055	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校・保育現場での体験活動。活動の内容は ・授業・保育の見学・行事への参加・下校や帰りの指導・給食・清掃の補助 ・授業・保育における教員・保育士とのチームティーチングによる学習・保育指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動 などである。「学校・保育現場体験Ⅰ」における体験学習に基づいて行うので、学生の体験は深まっているが、現場の先生・保育者の指導に基づき、適切な関わりを行う。

授業の到達目標

教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。

授業計画

1. 内容詳細
2. ①業務全般(児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可)
3. ②授業・保育の見学・行事への参加・下校・帰りの指導・給食・清掃の補助
4. ③校外学習は参加不可(学校から徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可)
5. ④授業における児童・幼児への指導補助
6. その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの
7. 体験するまでの流れ
8. 4月下旬 説明会・事前指導
9. 5月中旬 体験先決定(河内長野市教育委員会・高野山大学で協議)
10. 6月中旬～ 体験開始
11. 適宜、振り返りを含む中間的な指導
12. 1月下旬 事後指導
- 13.
- 14.
- 15.

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について予習 (90 分)、復習 (90 分)

テキスト

資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等

授業で適宜指示する。

学生に対する評価

教育実習に準じて、学校長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 体験活動の理解が六割あり、積極的に参加する。
- (B) 体験活動の理解が七割あり、積極的に参加する。
- (A) 体験活動の理解が八割あり、積極的に参加する。
- (S) 体験活動の理解が九割あり、積極的に参加する。

課題に対するフィードバックの方法

体験活動を十分に理解し、積極的な参加で、地域に有益な貢献を果たす。

その他

科目名	地域体験Ⅰ							学 期	通年
副 題	-				授業方法	実習	担当者	柳原高文	
ナンバリング	K1-19-056	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	1	他	—

授業の目的と概要

大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、1 年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標

地域社会を担っている団体での体験活動を行うことで、農業・栽培の知識・技能を習得し、気候や害虫、害獣など様々な環境での農業・栽培の工夫や技法を習得し、教育現場で活かせる力を習得し、児童に栽培の指導ができるようになる。

授業計画

1. 4 月上旬 説明会・事前指導
2. 5 月中旬 体験先決定
3. 6 月初旬～ 体験開始
4. 8 月初旬又は 12 月下旬 事後指導
5. 参加団体
6. ①農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）
7. ②農業・栽培体験（サバーファーム）
8. ③農業・栽培体験（和泉体験農園）
9. ④農業・栽培体験（花の文化園）
10. ⑤農業・栽培体験（公園緑化協会）
11. ⑥果樹・栽培体験（山口果樹園）
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前学習として対象作物の栽培について書籍や web 利用で情報を得ておく。
- ・栽培日誌を読み、先週の活動の状況を確認する。
- ・活動して気付いたことなどの栽培日誌を作成し、適所に絵や写真などで記録する。

テキスト

参考資料配布

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 農業・栽培について作業ができる。
- (B) 農業・栽培について適切な作業が出来る。
- (A) 農業・栽培について気候や害虫・害獣など環境変化に応じて作業が出来る。
- (S) 農業・栽培について気候や害虫・害獣など環境変化に応じて作業が出来き、それを生徒指導に活かせる。

課題に対するフィードバックの方法

各回の栽培日誌を点検し、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の作業は体力を要するので、前日から体調管理を行うこと。作業に適した服装、持ち物の準備をすること。

科目名	地域体験Ⅱ						学 期	通年	
副 題	-				授業方法	実習	担当者	松本歩子	
ナンバリング	K1-26-057	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4, 5	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅱは、1 年次で行い、地域体験Ⅰで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標

地域活動を通して、地域社会および生活文化に関する多様な知識・技能を習得する。 地域の方々と適切なコミュニケーションをとることができる。 仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を身につける。

授業計画

1. 4 月上旬 説明会・事前指導
2. 5 月中旬 体験先決定
3. 6 月初旬～ 体験開始
4. 8 月初旬又は 12 月下旬 事後指導
5. 参加団体
6. ①地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）
7. ②地域活動体験（森林ボランティアトモロス）
8. ③文化活動体験（りら創造芸術高等学校）
9. ④馬術体験（クレイン）

準備学習(予習・復習)・時間

毎時間、授業後に活動の振り返りを行い、評価と今後の課題について整理し小レポートにまとめる（60 分）

テキスト

参考資料配布

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域活動を通して地域の方から知識技能を学び、仲間と協力しながら課題に取り組むことができる。
- (B) 地域活動を通して地域の方から知識技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら課題に取り組むことができる。
- (A) 地域活動を通して地域の方から知識技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら主体的に課題に取り組むことができる。
- (S) 地域活動を通して地域の方から知識・技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら主体的に課題に取り組み、その学びを言語化して共有できる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、コメントを付して返却する。

その他

フィールドワークを行う科目である

科目名	地域体験Ⅲ							学 期	通年
副 題	-				授業方法	実習	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K2-24-058	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4, 5	単位数	1	他	—

授業の目的と概要

大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅲは、2年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標

地域社会を担っている団体での体験活動を行うことで、農業・栽培の知識・技能を習得し、気候や害虫、害獣など様々な環境での農業・栽培の工夫や技法を習得し、教育現場で活かせる力を習得し、児童に栽培の指導ができるようになる。

授業計画

1. 4月上旬 説明会・事前指導
2. 5月中旬 体験先決定
3. 6月初旬～ 体験開始
4. 8月初旬又は12月下旬 事後指導
5. 参加団体
6. ①農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）
7. ②農業・栽培体験（和泉体験農園）
8. ③農業・栽培体験（大阪府花の文化園）
9. ④農業・栽培体験（河内長野市公園緑化協会）
10. ⑤農業・栽培体験（野菜農園豊泉）
11. ⑥果樹・栽培体験（山口果樹園）

準備学習(予習・復習)・時間

地域体験後、活動の振り返りを行い、体験の学びと今後の課題について小レポートを作成する。また、体験発表会に向けて、活動の成果と課題をパワーポイント資料にまとめる。

テキスト

参考資料配布

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域体験を通して、地域の方々関係団体から知識・技能を学ぶことができた。
- (B) 地域体験を通して、地域の方々や関係団体の活動の意味を理解することができた。
また、自分の立てた目標（非認知能力の面）を意識して行動がとれていた。
- (A) 地域体験で得たことを言語化し、学びを共有することができた。
また、非認知能力に磨きをかけるように意識して活動ができていた。
- (S) 地域体験で得たことを、仲間と協力しながら主体的に表現・発信することができた。
また、活動から得られた非認知能力に磨きをかける経験を、他に生かすことができていた。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、担当教員がコメントを書き返却する。

その他

毎回の作業や活動には、体力を要するので、前日からの体調管理を行うこと。
作業に適した服装、持ち物を準備すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務してきた。地域体験での体験・活動が小学校現場にどのように生かされ、実践に結びつけていくのかを助言する。

科目名	地域体験Ⅳ						学 期	通年	
副 題	-				授業方法	実習	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K2-26-059	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4, 5	単位数	1	他	—

授業の目的と概要

大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅳは、2年次で行う。地域体験Ⅲで参加した活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力などの非認知能力、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標

地域活動を通して、地域社会および生活文化に関する多様な知識・技能を習得する。地域の方々と適切なコミュニケーションをとることができる。仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を身につける。

授業計画

1. 4月上旬 説明会・事前指導
2. 5月中旬 体験先決定
3. 6月初旬～ 体験開始
4. 8月初旬又は12月下旬 事後指導
5. 参加団体
6. ①地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）
7. ②地域活動体験（森林ボランティアトモロス）
8. ④文化活動体験（りら創造芸術高等学校）
9. ⑤馬術体験（クレイン）

準備学習(予習・復習)・時間

毎時間、授業後に活動の振り返りを行い、評価と今後の課題について整理し小レポートを作成する(60分)。また、成果発表会に向けて、活動の成果と課題をパワーポイント資料にまとめる。

テキスト

参考資料配布

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域体験を通して、地域の方々や関係団体からの知識・技能を学ぶことができた。
- (B) 地域体験を通して、地域の方々や関係団体の活動の意味を理解することができた。また、自分の立てた目標（非認知能力の面）を意識して行動がとれていた。
- (A) 地域体験で得たことを言語化し、学びを共有することができた。また、非認知能力にみがきかけようよう意識して活動ができていた。
- (S) 地域体験で得たことを、仲間と協力しながら主体的に表現・発信することができた。また、活動から得られた非認知能力にみがきかける経験を、他に生かすことができていた。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、担当教員がコメントを書き返却する。

その他

毎回の作業や活動には、体力を要するので、前日からの体調管理を行うこと。作業に適した服装、持ち物を準備すること。

科目名	高野山国際ガイド体験							学 期	集中
副 題	世界遺産高野山を英語で観光ガイドする				授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K2-26-060	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

English Communication 等で学んだ知識や技能を、実際に体験することで深め、より高いレベルの英語活用能力を獲得することを目指す。高野山を訪れる多くの外国人観光客に、ボランティアの観光ガイドとして関わり、観光客への案内やサポートを英語で行う。様々な国から訪れる多くの人々を対象に高野山の歴史、建造物や精進料理はもちろんのこと、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。

授業の到達目標

ガイド体験に高野山に関することを学び、ガイドに必要な英語力を習得し、プレゼンできるようになる。「壇上伽藍」「奥の院」「精進料理」など、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。ガイド体験を通して、外国の文化を偏見なく理解する。

授業計画

1. 授業の進め方、予習の範囲、成績評価について説明し、グループ分けをする
2. 和歌山県あるいは高野山観光協会の職員によるレクチャーと質疑応答
3. 高野山の音声ガイドや英語案内版に含まれていない情報を分析・発表する。
4. 観光説明の英文作成、各グループで現地でガイドに使用する資料作りをする
5. ガイド体験①(現地で外国人にガイドをする)
6. ガイド体験②(現地で外国人にガイドをする)
7. ガイド体験③(現地で外国人にガイドをする)
8. ガイド体験後にビデオを見てフィードバックとアンケートを行う。

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

テキストは使用しない。

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントを配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度(グループワーク)、ガイド体験の成果を加味して行う。英文作成(30%)、発表(40%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野山観光やツーリズムを理解できる。
- (B) 高野山観光の案内内容を十分に理解し、日本語を交えながら観光案内ができる。
- (A) 高野山においてメモを見ながら英語での観光案内ができる。
- (S) 高野山においてスムーズな英語での観光案内ができる。

課題に対するフィードバックの方法

観光案内を実践した直後とレポート課題を提出した翌週に行う。

その他

コンピュータールームでのグループ学習のために USB を準備すること。

科目名	中国語					学 期	後期 3・4 ターム		
副 題	初歩から実用的な中国語の学び				授業 方法	演習	担当者	劉燕子	
ナンバ リング	K2-07-061	実務経験 の有無	無	関連 DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

地域に根ざし世界を見渡せるグローバル（グローバル＋ローカル）な中国語を教える。中国のみならず世界各地に華僑・華人があり英語に加えて中国語も使えることで国際社会でのコミュニケーション能力を高める。そのためまず同じ漢字文化圏の日本語と中国語の熟語の意味の異同を手がかりに学習の意欲を喚起する。そして発音、文字（大陸の簡体字と台湾や香港の繁体字）、語彙、ビンイン、文法、会話や計算、実用性のある語学力へと進め、音読と聞き取りのアクティブ・ラーニングにより実践的語学力を習得させ、中級に進むための基礎とする。

授業の到達目標

①学生が中国語の発音・語彙・文法の基礎を習得し、中国語検定試験準4級レベルに到達できるようになる。②基礎から実用性のある語学力の向上を通して中国の生活や文化が理解できるようになる。③学生が中国語でコミュニケーションでき、日中の相互理解を進められるようになる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション自己紹介と握手（親しいクラスづくり）。人称代名詞の音読とリスニング。声調（四声）
2. 中国語の基本的語順。「您贵姓？」（お名前は何？）など疑問文によるコミュニケーション。否定の副詞「不」。
3. 疑問詞の疑問文、動詞の「在」。「邮局（郵便局）」でのコミュニケーション。
4. 所有を表す「有」、連動文。「早上好（おはよう）」を使ったコミュニケーション。
5. 形容詞述語文、語気助詞。「你好吗？（こんにちは）」を使ったコミュニケーション。
6. 存在を表す「有」、数量詞、所有・所属関係を表す「的」。「几口人？」を使ったコミュニケーション。
7. 指示代名詞、名詞述語文。「多少钱？（おいくらですか）」を使ったコミュニケーション。
8. 語気助詞「了」、比較文。「多大？（どれくらい）」を使ったコミュニケーション。
9. 介詞「在」、反復疑問文。「打工（アルバイト）」を使ったコミュニケーション。
10. 動態助詞「了」、否定を表す副詞「没」。「漫画」を切口にしたコミュニケーション。
11. 助動詞「想」、動詞の重ね型。「换钱（両替）」を使ったコミュニケーション。
12. 主述述語文、場所を表す代名詞。「感冒（風邪）」に関するコミュニケーション。
13. 時量補語、時刻の表現。「困了（眠い）」を使ったコミュニケーション。
14. 動態助詞、選択疑問文。「长城（万里の長城）」を使ったコミュニケーション。
15. 年月日の表現、結果補語。誕生日に関するコミュニケーション。期末テスト（筆記、口述、リスニング）

【後期】

1. 助動詞「会」、介詞など。料理の作り方に関するコミュニケーション。
2. 助動詞「能」、疑問詞など。趣味に関するコミュニケーション。
3. 副詞「在」、曜日の表現。電話などでのコミュニケーション。
4. 「的」構文、助動詞「可以」。料理の注文に関するコミュニケーション。
5. 「是…的」構文、禁止を表す副詞「别」。スマホなど最新のSNSに関するコミュニケーション。
6. 介詞、様態補語。交通機関の利用に関するコミュニケーション。
7. 単純方向補語、助動詞「要」。展示の鑑賞に関するコミュニケーション。
8. 挿入語、介詞、補語など。サッカーの試合の観戦におけるコミュニケーション。
9. 動量補語、動態助詞「着」。スポーツジムにおけるコミュニケーション。
10. 二重目的語、使役表現。グッドニュースのコミュニケーション。
11. 中国語の発音のブラッシュアップ。中国語検定試験準4級レベルの練習（1）。
12. 中国語のリスニングのレベルアップ。中国語検定試験準4級レベルの練習（2）。
13. 中国語の基本的な語順や語法の復習と活用。中国語検定試験準4級レベルの練習（2）。
14. 中国語の基本的な構文の復習と活用。中国語検定試験準4級レベルの練習（3）。
15. 「聴く、話す、読む、書く」中国語検定試験準4級レベルの総復習。期末テスト（筆記、口述、リスニング）。

準備学習(予習・復習)・時間

テキストに即した予習（90分）、授業の指示に基づく復習（90分）。

テキスト

『We can! 中国語 初級』佐藤晴彦・徐送迎、朝日出版社

参考書・参考資料等

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』新訂版、相原茂他、同学社

学生に対する評価

平常点（40％）、中間の小テスト（20％）、期末テスト（40％）の総合評価。テストは筆記、口述、リスニングによる。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストと講義の基礎が理解できる。
- (B) テキストと講義の基礎が理解でき、練習問題を解答できる。
- (A) テキストと講義の基礎が理解でき、練習問題を解答でき、応用できる。
- (S) テキストと講義の基礎が理解でき、練習問題を解答でき、応用でき、さらに自習によって得た表現を用いて活用できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業やクラスルームで解説・総評し、個別的にはメールで対応する。

その他

科目名	体育の理論と実技						学 期	後期 3・4 ターム	
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	本山 司	
ナンバ リング	K1-26-062	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

「運動不足」「体力の低下」が問題視され、「運動嫌い」「スポーツが苦手」な子どもが増え、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要である。この体育実技では、体力強化、身体づくりとともに、運動やスポーツの楽しさを体感し、技能面を高めたり、楽しさを味わったりできるような練習やゲームの進め方を考えながら進めていく。

授業の到達目標

ボール運動の個人技能を身につけたり、集団(チーム)としての動きの高まりをめざしたりして取り組むことができるようにする。また、自身の体力の維持増進を図るとともに、さまざまな運動の特性を知り、運動技能の向上を図ることができるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定、簡単なボール運動を行う。
2. ドッジボール(さまざまな形式のドッジボール)
3. パスゲーム①(ドリブルを使わずに、簡単なルールで行う)
4. パスゲーム②(チームの戦術を考える)
5. バスケットボール①(3on3 バスケットボール)
6. バスケットボール②(チームの戦術を考える)
7. プレールボール①(基本技能の向上をめざす)
8. プレールボール②(チームの戦術を考える)
9. バレーボール①(基本技能の向上をめざす)
10. バレーボール②(チームの戦術を考える)
11. フラッグフットボール①(攻撃と守備の人数を変えて行う)
12. フラッグフットボール②(チームの戦術を考える)
13. フットサル①(基本技能の向上をめざす)
14. フットサル②(チームの戦術を考える)
15. 授業のまとめ、振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前学習として実施する内容について調べて理解しておくこと。(60 分)
- ・学習した内容や運動技能等を踏まえて、ポイントを各自で整理すること。(60 分)

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校体育科学学習指導要領解説 体育編

学生に対する評価

- ・授業への積極的な参加(20%) レポート(60%) 実技能力(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことを理解することができる。
- (B) 授業内容を理解して、主体的に行動することができる。
- (A) 安全な運動方法について理解することができる。
- (S) 子どもたちに運動を教える際の留意点等を理解することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

毎出席をとる。実技の授業については運動しやすい服装や指定の靴等を各自できちんと準備し、授業に臨むこと。完全管理のため、貴金属類は必ず外しておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校保健体育教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、学校現場で使える運動の提供と自身の体力維持増進するための方法を指導する。

科目名	AIと世界							学 期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	広瀬勝則	
ナンバ リング	K1-13-063	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 5	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要

インターネットやAI技術の急速な進歩が、社会に大きな影響を与えている。情報が世界をまたいで飛び交い共有化され、AIが様々な分野に進出して、従来とは異なった新たな社会が登場する。こうした Society 5.0 と名付けられる新しい社会のなかで、人類はどのようにふるまっていけば良いのか、未来社会で人間が活躍しう分野は何だろうか。本科目では、AI についての基礎的な知識を学び、AI が活躍する新たな社会における人間の役割などについて検討する。また、簡単な AI プログラミングの作成を通して、先端テクノロジーが日常生活に入り込んでいることを知る。

授業の到達目標

AIの誕生から現在に至るまでの歴史を理解し、現在どのような分野でAIが活用されているかを学習する。簡単なScratchプログラミングの作成方法について習得し、AIプログラミングの基礎について学習する。AIの発達がもたらす未来の社会について考察し、将来の教育にAIがどのように活用できるかを学ぶ。

授業計画

1. AIとは（暮らしを便利に身近にするAI）
2. AIの歴史（1）（第1次AIブームから第2次AIブーム）
3. AIの歴史（2）（第3次AIブーム）
4. AIとビッグデータ（1）（ビッグデータの利用）
5. AIとビッグデータ（2）（機械学習とディープラーニング）
6. AIでできるようになったこと
7. 社会にはいるAI
8. AIの進化で教育はどう変わるのか
9. Scratchプログラミング（1）（キャラクターを動かす）
10. Scratchプログラミング（2）（ゲームを作成する）
11. AIプログラミングの作成（1）（AIレジの作成）
12. AIプログラミングの作成（2）（O×クイズの作成）
13. AIについての研究レポート作成（1）（AIの歴史と暮らしの中のAI）
14. AIについての研究レポート作成（2）（AIの現状と教育への影響）
15. 研究レポート発表

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業内容に関連する資料を書籍やインターネットから集めておくこと（90分）

テキスト

『しっかりと知りたい ビッグデータとAI』宇野 毅明（著）、池田亜希子（著） 丸善出版株式会社(2018年) 定価（本体760円+税）

参考書・参考資料等

森川幸人『イラストで読む AI 入門』株式会社筑摩書房 2019 年発行 定価（本体価格 780+税） 小林真輔『できたののしくやりきる Scratch3 子ども AI プログラミング入門』株式会社インプレス 定価 1,320 円（税込）

学生に対する評価

レポート（50%）、課題（30%）、発表（20%）。授業態度も重視する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) AI について基本的なことを理解している。
- (B) AI について基本的なことを理解していて、その内容について説明できる。
- (A) 暮らしの中で活用されているAIについて説明できる。Scratchを使って簡単なプログラミングを作成できる。
- (S) AIの役割、人間の役割について理解し、教育への影響について論じることができる。Scratchプログラミングを使って、簡単なAIプログラミングを作成できる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。
プログラミングの質問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・日ごろからニュースなどで触れられているAIやビッグデータについて関心を持ち、気づいたことをノートにメモしておくこと。・レポート発表にはPowerPoint2016を使用する。操作方法は授業で説明するが、「情報と教育」のテキストも参考に予習をしておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。

科目名	世界遺産と観光						学期	集中	
副題	-				授業方法	講義	担当者	宗田好史	
ナンバリング	K1-11-064	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

高野・吉野・熊野という“紀伊山地の三霊場と参詣道”がUNESCOの世界文化遺産に登録され18年がたつ。また、日本政府が世界遺産条約を批准して30年、世界遺産条約が締結され50年となり、コロナの時代を経て、世界遺産の意味も観光の形態も大転換している。その中で、高野山は弘法大師の教えを伝える信仰の地であり続ける。信仰の歴史に接する観光客の態度は、UNWTO（国連観光機関）が提唱する持続可能な観光の姿である。講義では、特に聖地巡礼を通じて信仰の歴史を知り、世界遺産を体験する文化観光を学ぶ。文化財保護の制度を学び、世界と日本の様々な観光の形を理解し、世界各地の多様な信仰を知る。また、文化遺産を取巻く各地の宗教紛争を知り、信仰が文化となり、観光がその交流を促進する可能性と、その教育的意義を探る。

授業の到達目標

世界遺産が観光資源になるという誤解を解き、観光に経済効果があるという間違った思い込みを止める。そのため地域経済の仕組みを理解し、産業連関と経済構造を把握する術を身に着ける。また、地方税収の資料から観光の経済効果を自治体財政の上で分析し、世界遺産を取巻く住民、事業者、行政関係者に正しい理解を図るための具体的説明能力を習得する。

授業計画

1. 世界遺産の意味を知る？世界遺産条約（1972年採択）までの50年とその後50年、文化遺産の変遷
2. ヨーロッパの文化遺産、記念物、建造物群、遺跡、そして歴史都市、文化的景観、産業遺産、無形文化遺産
3. 東アジアの文化遺産、日中韓の戦後史と文化財保護の政治的意味、世界文化遺産委員会での議論
4. 東南アジア、中南米の世界文化遺産、キリスト教と植民地と先住民族の歴史と遺産を伝える
5. 文化遺産保存の歴史とICOMOS（国際記念物遺産会議）の取組み、国際機関、UNESCOの役割の変遷
6. 近代日本の文化財保護制度、古社寺保存法から史蹟名勝、国宝保存法へ、近代史国際比較の視点から
7. 戦後日本の文化財保護制度、保護法制定とその後の改正、文化財の変遷、そして世界遺産条約へ
8. 世界遺産の変遷、世界遺産委員会での1990年代の議論から、不均衡問題、文化的多様性、真正性へ
9. 国際社会と文化遺産、国際協力と文化的権威主義、文化遺産の政治的利用、民主国家の限界、日韓の争点
10. 文化遺産と観光、戦後の日本観光史、修学旅行から世界遺産観光へ、観光行動の変化と文化遺産の消費
11. UNWTO 持続可能な観光、国際観光市場拡大と観光公害、コロナ禍とインバウンド、消滅と再生
12. 紀伊山地の霊場と参詣道、登録後16年の軌跡、地元理解と世界の評価、将来展望
13. 信仰の世界遺産、三大宗教にみる文化遺産への対応、宗教離れへの対応、消滅可能自治体と寺院消滅
14. 観光の経済効果を知る、観光事業のビジネスモデル、地方税収から財政構造を知る、観光公害と地域政策
15. まとめ、世界遺産と観光、文化遺産による国際理解の促進と平和教育の取組み、UNESCOの教育理念を知る

準備学習(予習・復習)・時間

予習・復習のために授業日ごとに前日の振り返りをし、次の授業の理解を深める。授業の一連の流れを知り、習ったことを再現できるように反復する（90分）。

テキスト

宗田好史『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社、2020年 宗田好史『創造都市のための観光振興—小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社、2009年

参考書・参考資料等

宗田好史『町家再生の論理—創造的まちづくりへの方途』学芸出版社、2009年 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか—市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社、2012年 宗田好史『京都観光学のススメ』、人文書院、2005年

学生に対する評価

授業日ごとの課題と出席（50％）と最終レポート（50％）で評価する

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の目的に記された内容について合格と認められる最低限の成績である
- (B) 授業の目的に記された内容について合格と認められる成績である
- (A) 授業の目的に記された内容について優れた成績である
- (S) 授業の目的に記された内容について特に優れた成績である

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見を常に受けつけ、授業で細かく対応する。

その他

対面授業による集中講義を予定している。状況に即して、リモート講義も用意する。その場合は、ICTを活用し、より広い理解の促進を図る。特に、チャット等を活用して課題や質問、意見へのフィードバックを進める。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

国際連合地域開発センター職員として、インドネシア、マレーシア、中国雲南省で文化遺産保護に携わり、その後の世界文化遺産登録を推進した。日本イコモス国内委員会理事、国際文化観光専門委員会代表として「国際文化観光憲章」(1999年)起草に当たった。また、イタリアではアッジンジ、オルチャ渓谷、マントバ等の保存管理計画策定に協力した。その後も古都京都の文化財の統括的保存管理計画策定に参加し、紀伊山地の霊場と参詣道では国土交通省専門委員として道路整備等受入環境の整備に従事、今も百舌鳥古市古墳群学術会議、彦根城登録推薦書作成学術会議等に関わっている。

科目名	身体技法(ダンス)							学期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	実技	担当者	範衍麗	
ナンバ リング	K1-17-065	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 2	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

本授業では身体表現の豊かさの年齢的特徴やリズムカルな動きの発達などの知識を学ぶ。また、身近な素材を使った表現遊び、動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって表現する遊び、劇遊び、フォークダンスを演習する。

授業の到達目標

ダンスやリズム遊び、表現遊びを体得し、身体表現の知識・技能を保育現場で活用することができる。自らの役割を理解し、積極的に行動する力を身に付ける。

授業計画

1. オリエンテーション・豊かな身体表現とは
2. 外国のフォークダンス
3. 身近な素材を使った身体表現 1 ボンボン、傘袋などを使った身体表現
4. 身近な素材を使った身体表現 2 タオル、新聞紙、スカーフなどを使った身体表現
5. 絵本から身体表現への展開
6. 絵本から劇遊びへの展開
7. 身体表現を取り入れた伝承遊び 1 だるまさんが転んだ、はないちもんめなど
8. 身体表現を取り入れた伝承遊び 2 ことろ、あぶくたつたにえったなど
9. 日本の民謡
10. 触れ合い遊び
11. 即興的な身体表現
12. リズム遊び
13. ダンスの創作 1 ダンス創作の知識や基本ステップ
14. ダンスの創作 2 グループごとでダンスを創作する
15. 創作ダンスの発表・授業の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

授業後に毎回一定時間を要する課題を課すので、次回の授業の前に課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

古市久子編著 保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現 ミネルヴァ書房 2013 新リズム表現研究会編著 身体表現をたのしむあそび作品集 かもがわ出版 2018

学生に対する評価

授業参加の積極性 (40%)、授業内発表 (30%)、提出物 (20%)、創作ダンスの発表 (10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分なりに身体で表現することができる。
- (B) メンバーと協力して自分なりに身体で表現することができる。
- (A) 積極的に授業に参加し、身体で豊かに表現することができる。
- (S) 積極的に参加し、メンバーと協力して活動ができる。身体で豊かに表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークを行う科目である。30 分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。

科目名	現代社会と医療							学 期	前期 1・2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	早川和生	
ナンバ リング	K1-26-066	実務経験 の有無	有	関連 DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代の日本の医療制度や健康情報について、教員として知っておくべき基本的知識を幅広く習得する。また、学校現場において教員として勤務した時に、有益で役立つ具体的な医療・保健・福祉活動を知る。

授業の到達目標

幼稚園や小学校などの教育現場で発生する健康問題や課題について、適切に対処するために必要な基礎知識を習得する。

授業計画

1. 日本の人口動態、都道府県別比較と健康課題と社会環境
2. 結婚、離婚及び出生の現状
3. 衛生行政、医療施設と保健福祉施設
4. 医療と保健福祉の専門職の養成
5. 医療保険制度、公的医療、生活保護、在宅医療、訪問看護
6. 産業保健と職場の健康
7. 地域別の生命表
8. 国民医療費の増大
9. 小児保健と学校保健
10. レポート作成とミニテスト
11. 環境保健、公害、大気汚染、放射線、電磁波、水道、産業保健
12. 現代社会と救急救命活動
13. 障害者・児の障害別支援
14. 現代社会の高齢者福祉と介護
15. 高齢者の医療問題と学術研究

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

厚生省の指標；増刊号、「国民衛生の動向 2021/2022、厚生労働協会、2021 年、(生協で購入)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

試験 70%、レポート 30%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の到達目標に記された内容について合格と認められる最低限の成績である。
 (B) 授業の到達目標に記された内容について妥当と認められる成績である。
 (A) 授業の到達目標に記された内容について優れた成績である。
 (S) 授業の到達目標に記された内容について特に優れた成績である。

課題に対するフィードバックの方法

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

病院、医療機関、保健機関、学校等での現場体験を通して得た具体的な実践知識も含めて授業を行う予定である。

科目名	世界の医療課題							学 期	後期 3・4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	早川和生	
ナンバ リング	K1-26-067	実務経験 の有無	有	関連 DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

前期の授業「現代社会と医療」の内容を踏まえて、世界全体の医療制度について国際的視野を持って人類全体の健康問題と課題や今後の進むべき方向を考える上で必要な基本的知識を習得する。

授業の到達目標

世界的視野を持って学校教育や幼児教育を考える上で必要な健康問題や医療問題について、基本的な専門知識を習得する。

授業計画

1. 健康指標と日本および世界各国の人口動態（寿命）
2. 日本の都道府県別人口動態（死因）
3. 世界の人口動態（疾病罹患率の国際的比較）
4. 乳児死亡、周産期死亡、死産、新生児志望
5. 死因の概要動向（都道府県別）
6. 日本と世界の死因概要と動向（悪性新生物）
7. 日本と世界の死因概要と動向（脳血管疾患、心疾患、等）
8. レポート作成とミニテスト
9. 精神保健と自殺率の国際比較
10. 感染症り患の現状
11. 感染症対策：予防接種、食中毒、感染源特定演習
12. 国際保健機関、ユニセフ等の国際機関の活動と日本人
13. 世界各国の医療制度
14. 現代に司法、法律と医療
15. 予防医学研究の動向

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

厚生 の指標 増刊号、「国民衛生の動向、2021/2022、厚生労働協会、2021 年（生協で購入）、履修する学生は全員が各自で 1 冊を購入すること。

参考書・参考資料等

学生に対する評価

試験 70%、レポート 30%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の到達目標に記された内容について合格と認められる最低限の成績である。
- (B) 授業の到達目標に記された内容について妥当と認められる成績である。
- (A) 授業の到達目標に記された内容について優れた成績である。
- (S) 授業の到達目標に記された内容について特に優れた成績である。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートには各々にコメントして評価を記して返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

病院、医療機関、保健機関、学校等の現場体験を通して得た具体的な実践知識も含めて授業を行う予定である。

科目名	教育課程論							学 期	後期 3・4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	八木英二	
ナンバ リング	K2-17-068	実務経験 の有無	有	関連 DP	DP1	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 学習指導要領をふまえ、教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。(授業の概要) 学校教育は、目的や価値の実現をめざす活動であり、到達目標を達成するために、教育内容を組織的、体系的に編成するものが教育課程であることを講義する。講義で得た知見をとおして、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方について、学生自身が身につけることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の場を設定する。

授業の到達目標

1) 学校教育における教育課程の役割、機能、意義について理解する。 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的、改訂の変遷及び主 な改訂内容を理解する。 3) 学習指導要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。

授業計画

1. 学習指導要領及び教育課程編成の意味理解
2. 学習指導要領の歴史の変遷及び改訂内容
3. 国際動向からみた教育課程【授業内課題1】学習指導要領とは何か
4. 教育課程の社会的役割と機能 ―近年の国際的・国内的動向
5. 教育課程編成の基本原理（「教育課程の構造」とコンピテンシー）
6. 教育内容の選択と配列【授業内課題2】教育課程はどのように編成すべきなのか
7. 生徒や学校、地域との連携、協働 ―社会的要請と学校の在り方
8. 児童・生徒の実情を踏まえる指導計画【授業内課題3】子ども理解と学校の在り方
9. カリキュラム・マネジメントの意義(1) ―発達の階梯と学びのメカニズム
10. カリキュラム・マネジメントの実施(2) ―教育課程づくりの条件整備
11. カリキュラム評価(1) ―必要性と意義【授業内課題4】カリキュラム・マネジメントとは
12. カリキュラム評価(2) ―教育目標・評価論の変遷と機能
13. カリキュラム評価(3) ―評価の方法と実際
14. グローバルな市民教育カリキュラム(1) ―新学習指導要領を中心に
15. グローバルな市民教育カリキュラム(2) ―これからの社会（SDGs）と教育課程

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として講義内容の感想提出を求める（15 分）。反転授業を行う時には事前の宿題を課すこともある（60 分）。

テキスト

金馬国晴編『カリキュラム・マネジメントと教育課程』学文社

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』

学生に対する評価

授業内課題（60％）、期末レポート（40％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義内容について基礎レベルの習得が認められる水準
 (B) 講義内容について平均的な理解に達していると判断される水準
 (A) 求められる課題についての理解が優れていると認められる水準
 (S) 自身の独創的な考えも加えつつ講義内容についての発展的な理解を示すことが出来る水準

課題に対するフィードバックの方法

課題の結果について全体状況は授業内で対応するが、個々の状況は個別対応も行う

その他

現場に関与した参与観察記録等を授業内容（VTR 記録や口頭説明）で用いることが多い。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

科目名	道徳教育の理論と方法						学 期	集 中
副 題	-				授業方法	講義	担当者	小林将太
ナンバリング	K2-17-069	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

道徳教育の歴史・理論などの基礎知識を紹介し、道徳教育をめぐる現在の課題や焦点を押さえたうえで、学習指導要領に沿った具体的事例の考察を通じてその理解を深め、授業実践力の育成へとつなげる。授業では、ディスカッションやプレゼンテーション等を交え、適宜ビデオ教材を用いる。

授業の到達目標

道徳教育を実践するにあたり、現代社会で生じる道徳的葛藤をはらんだ諸問題に対して、根本的なレベルで批判的考察を加えるために教師に求められる視点や思考力を身につけたうえで、それにもとづいて「特別の教科 道徳」の授業を実際に構想できるようになることを目指す。

授業計画

1. イントロダクション（ガイダンスと導入）
2. 道徳教育の歴史（１）―戦前（大正新教育など）
3. 道徳教育の歴史（２）―戦後
4. 道徳性の発達理論
5. 学習指導要領に示される道徳教育の目標・内容・方法
6. 道徳科の指導方法と学習指導案の作成方法
7. 学習指導案の作成・検討（１）―主題（ねらいと教材）
8. 学習指導案の作成・検討（２）―主題設定の理由
9. 学習指導要領に示される道徳教育の指導計画・評価
10. 模擬授業とその評価・改善（１）
11. 学習指導案の作成・検討（３）―学習指導過程
12. 学習指導案の作成・検討（４）―板書計画やワークシート
13. 道徳教育における現代的な課題（シティズンシップ教育など）
14. 模擬授業とその評価・改善（２）
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

授業回ごとにミニレポートを課す。授業の復習をしながら考えたことなどを記述すること（30分）。一部の授業回では、予習としてあらかじめ資料等を読むこと（30分）。

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説：特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき 岡部美香・谷村千絵 編（2012）『道徳教育を考える：多様な声に応答するために』法律文化社 苫野一徳（2019）『ほんとうの道徳』トランスビュー

学生に対する評価

出席・授業末に課すミニレポート・授業への参加度 40%、学期末試験 60%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)「特別の教科 道徳」の学習指導案を一定の形式に沿って作成することができる。
- (B)「特別の教科 道徳」の学習指導案を、他の人も理解・実践できる内容で、一定の形式に沿って作成することができる。
- (A)「特別の教科 道徳」の学習指導案を、道徳的課題を明確にした上で、他の人も理解・実践できる内容で、一定の形式に沿って作成することができる。
- (S)「特別の教科 道徳」の学習指導案を、道徳的課題を明確にし、教材の特質もふまえた上で、他の人も理解・実践できる内容で、一定の形式に沿って作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。できれば ICT を活用したいと考えている。

その他

成績評価にあたっては、全授業回への出席を原則とする。欠席しなければならない事情がある場合は必ず説明・相談すること。学習指導案の作成・検討はグループワークで実施する。模擬授業も、各グループの複数名で実施する。

科目名	生徒指導論							学 期	後期 3 ターム
副 題	生徒指導の理論と実践				授業 方法	講義	担当者	今西幸蔵	
ナンバ リング	K2-17-070	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 授業は、学校における生徒指導の在り方や進め方を理解することによって、実際に児童・生徒を指導・支援する具体的方策について理解することを目的とする。(授業の概要) 今日の学校ではさまざまな問題が生じ、課題として児童・生徒に対する適切な指導が求められている。生徒指導の本質を理解し、適切な指導が可能となるスキルを習得することが必要である。不登校や問題行動のある児童・生徒、発達障害のある児童・生徒に対して、教員として適切な指導が行えるよう、多面的な観点からの生徒指導の進め方を講義する。

授業の到達目標

1) 学校における児童・生徒に対する指導の意義や原理を把握する。 2) 幼児期から少年期に至る児童・生徒の特性を知り、そのための学校の指導体制をつくり、必要な指導や支援について理解できる。 3) 発達障害のある児童・生徒について正しく理解し、適切な指導ができる。 4) 不登校や問題行動を行う児童・生徒について支援し、指導できる。 5) 児童・生徒を指導するための地域ネットワークを構築することの意義が理解できる。

授業計画

1. 学校と生徒指導の意義
2. 生徒指導の方法原理
3. 生徒指導と教育課程の関係【授業内課題 1：教員として生徒指導をどう理解したか】
4. 児童の特性と理解
5. 生徒の特性と理解【授業内課題 2：現代の児童・生徒の意識と行動】
6. 学校における児童・生徒への指導体制
7. 教育相談の意義と実践的スキル
8. スクールカウンセリングの意味と諸機関との連携【授業内課題 3：カウンセリングマインド】
9. 児童・生徒全体への指導の進め方
10. 学校行事における学級指導の進め方【授業内課題 4：全体指導の実践的能力】
11. 個々の児童・生徒への指導と支援 1 (問題行動)
12. 個々の児童・生徒への指導と支援 2 (不登校)
13. 個々の児童・生徒への指導と支援 3 (発達障害)【期末レポート：個々の児童への指導法】
14. 「校則」等に見る規範と法制度の理解
15. 学校と家庭・地域社会との関係づくり

準備学習(予習・復習)・時間

毎時、授業前にレジュメを配付するので、これを通して何を学ぶのかを理解し、予習する。授業時には授業資料を配付するので、これを使用して授業内容の内実化を図る。さらに与えられた課題を提出することによって復習に努める。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

今西幸蔵編『生徒指導・進路指導の理論と実践』法律文化社

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』教育図書

学生に対する評価

授業内課題 (80%)、期末レポート (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生徒指導に関わる基礎理論と実践の意味・意義をおおむね理解することができる。
- (B) 生徒指導に関わる基礎理論を理解した上で、教員としてどのように実践すべきかを考えることができる。
- (A) 生徒指導に関わるさまざまな理論と児童・生徒の発達特性を理解し、教員として何をすべきなのかを考え、学校の指導体制を計画することができる。
- (S) 生徒指導に関わるさまざまな理論と児童・生徒の発達特性を深く理解し、その上に立って教員の専門性を生かした指導のあり方を検討し、学校の指導体制の組織化ができるだけの知識とスキルを習得する。

課題に対するフィードバックの方法

各自のレポートを添削した上で解説を加え、問題点を指摘して改善することを促し、学修成果があがるように努める。

その他

授業時には、アクティブ・ラーニングの方法論を採用し、グループワークによって学修の充実化を図る。具体的には、ディスカッション、ディベート、ロールプレイや反転学習を実施して単元目標の達成に努める。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

担当者は、中学校教諭 3 年、高等学校教諭 13 年、府教育委員会指導主事等 8 年及び高等学校教頭 3 年としての経験を持つ教員であり、その経験を生かして、理論学習だけでなく具体的実践のあり方、進め方を指導する。特に管理職を務めた経験から、学校における生徒指導体制づくりや個別の課題を抱える児童・生徒への指導・支援について、幅広い視野から取り組むことができる力を育成する。

科目名	幼児理解方法論							学期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	茂野仁美	
ナンバ リング	K1-21-071	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

乳幼児期の発達とは生涯の中で、短期間での劇的な変化を遂げる時期である。乳幼児期の発達課題についての学びを深め、現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解について考察することを目的とする。

授業の到達目標

乳幼児期の発達課題について習熟を深める。現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解のための相談や支援の概要について理解する。

授業計画

1. 乳幼児期の発達とは
2. 人やものとの出会い
3. 愛着形成と家族の移行
4. 遊びと認知発達
5. ことばとコミュニケーション
6. 自己と情動
7. 人の心の理解と仲間関係の発達
8. 道徳性と向社会的行動
9. クラスの中での育ち
10. 保育者から見た気になる子ども（つまづきと幼児理解）
11. 気になる子どもへの関わり方（特別な配慮を要する幼児の理解）
12. 保育と発達検査・知能検査
13. 発達と保育を取り巻く社会的な変化
14. 養育者を支援する
15. まとめ 保育者の視点から発達をアセスメントすること

準備学習(予習・復習)・時間

事例を用いた演習の振り返りとして、理論と実践を結び付けられるよう、教科書をよく読むこと。

テキスト

高嶋景子・砂上史子 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

使用しない

学生に対する評価

定期試験(60%)、通常授業でのミニレポートの点数及び授業での取り組む姿勢(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 事例を読み、文章から読みとれる事象について、理解している。
- (B) 事例を読み、文章から読みとれる事象に対して、子どもとの関わりや、援助方法を考えることができる。
- (A) 事例を読み込み、文章に表れていない事象について想像し、子どもとの関わりや、援助方法を考えることができる。
- (S) 事例を深く読み込み、文章に表れていない事象について想像し、子どもとの関わりや、援助方法の意義や根拠について議論することができる。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。また、定期試験の結果から、復習すべき点についての解説を行う。

その他

ICTによる、授業ごとの振り返りの提出。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

乳幼児健診の発達相談や、小学校でのスクールカウンセリングに関わる教員が、クラス運営における個々の子どもの発達理解に基づいた、仲間関係の発達や遊びの意義を読み解く視点について知識を提供し、事例を用いて子どもの行動の意味や、適切な援助を検討する演習をお小菫子。

科目名	進路指導・キャリア教育								学 期	後期 3 ターム
副 題	-					授業 方法	講義	担当者	濱川昌人	
ナンバ リング	K2-16-072	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A	

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 児童の「生きる力」の育成を目的として、学校におけるキャリア教育・進路指導の意義や原理を理解する。

(授業の概要) キャリア教育や進路指導の意義や内容、基本的な考え方について理解し、キャリアに関わる諸要素やコンピテンシーについて講義する。学校と地域や関係機関との連携についての重要性について理解するとともに、具体的な内容について調べたり、討議したりしながら内容を深めていく。また、これらの内容を生かしながら、キャリア教育を志向した教育課程づくりについて考察する。

授業の到達目標

1) キャリア教育・進路指導についての意義や原理を知り、具体的な指導につながるような力量を身につけることができる。 2) キャリア教育・進路指導についての歴史的な背景や変遷、期待されることについて理解を深めることができる。 3) 学校と地域や関係機関との連携の重要性を理解し、具体的な連携や取り組みについて調べ検討し、教育課程づくりに生かすことができるようにする。

授業計画

1. 「キャリア教育」の定義
2. 「キャリア教育」の必要性和意義・内容【授業内課題1】「キャリア教育」の必要性、意義・内容をまとめる
3. 社会人、職業人として必要な資質・能力とは【授業内課題2】社会人、職業人としての資質・能力とは
4. キャリア発達の諸要素と職業観・勤労観の育成
5. 日本における職業教育・進路指導について
6. 進路指導のさらなる推進としての「キャリア教育」【授業内容課題3】キャリア教育とは何か
7. 「キャリア教育」と現代の課題【授業内課題4】「キャリア教育」推進の視点からみた現代の課題とは何か
8. 学校教育における「キャリア教育」～キャリアパスポート～
9. 小学校における「キャリア発達」【授業内課題5】小学校の頃を振り返って
10. 教育課程における「キャリア教育」
11. 「キャリア教育」の要としての特別活動【授業内課題6】「キャリア教育」をどのように進めるか
12. 学級活動における「キャリア教育」
13. 教科指導における「キャリア教育」
14. 「キャリア教育」の具体的実践の工夫【期末レポート】「キャリア教育」についての具体案の作成
15. これからの「キャリア教育」と諸課題

準備学習(予習・復習)・時間

・次回の講義範囲について概説するので事前学修を行う。(60分)・講義内容と講義で配布される資料の要点を整理する (60分)・授業後に毎回課題を課すので、次回に提出すること。(60分)

テキスト

文部科学省 改訂版『小学校キャリア教育の手引き』教育出版

参考書・参考資料等

経済産業省 『キャリア教育 ガイドブック』学事出版

学生に対する評価

授業内課題、役割等 (50%) 期末レポート (10%) 試験 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学修内容の理解への一層の努力が必要である。
 (B) 学修内容を概ね理解している。
 (A) 学修内容を理解し、活用しようと努力している。
 (S) 学修内容をしっかり理解し、活用することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバック行う。

その他

ディスカッションや発表を取り入れた授業である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

小学校の教員、管理職としての指導、実務経験を生かして実際の教育実践に対応した内容や事例を講義内容として提供する。とくに大学の講義において、進路指導・キャリア教育、特別活動、総合的な学習を指導してきた経験も踏まえる。

科目名	保育原理							学期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	馬場住子	
ナンバ リング	K2-21-073	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]

1. 保育の意義及び目的について理解する。
2. 保育に関する法令及び制度を理解する。
3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 保育の意義及び目的
2. 保育に関する法令及び制度
3. 保育所保育指針における保育の基本
4. 保育の思想と歴史の変遷
5. 保育の現状と課題

授業の到達目標

保育原理全般について理解する。

授業計画

1. オリエンテーション/保育の目的
2. 保育の歴史
3. 諸外国と日本の保育の現状と課題
4. 保育の基本①(保育の基盤と養護の意味)
5. 保育の基本②(保育者に求められる専門性)
6. 保育の基本①(0・1・2歳)
7. 保育の内容②(3・4・5歳)
8. 保育の内容③(保育の内容と養護)
9. 保育の方法①(保育実践における原則/環境を通した保育)
10. 保育の方法②(保育の過程/保育の計画)
11. 保育におけるさまざまな配慮①(健康及び安全/食育)
12. 保育におけるさまざまな配慮②(特別な配慮を要する子ども)
13. 保育の場における子育て支援
14. 保育の専門性と質の向上
15. まとめ(保育の本質とは)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを読んでおく。(30 分) 事後学習として、授業の内容をまとめておく。課題について、調べ学習や発表準備をする。(90 分)

テキスト

瀧川光治 小栗正裕 宮地あゆみ編著 『保育の学びファーストステップ』 青踏社 (生協で購入)

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

筆記試験 60%、授業への積極的態度・ミニレポート等の提出物 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 保育に関わる基本的な理念や思想を理解している。
- (B) 保育に関わる基本的な理念や思想を、自らの言葉で説明できる。
- (A) 保育に関わる基本的な理念や思想を、現代的課題に結びつけられる。
- (S) 保育に関わる基本的な理念や思想の理解をもとに、現代的課題について多角的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

個人での調べ学習またはグループワークを行い、発表したり、互いに自身の考えを伝え合うことから学び合う場面を設ける。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

保育士として子育て支援を行ってきた経験を活かし、現代の子どもや保護者を取り巻く環境や課題について、具体的事例を基にその支援方法について指導する。

科目名	子ども家庭福祉							学期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバ リング	K2-22-074	実務経験 の有無	無	関連 DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい] 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

[授業全体の内容の概要] 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 2. 子どもの人権擁護 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系 4. 子ども家庭福祉の現状と課題 5. 子ども家庭福祉の動向と展望

授業の到達目標

子ども家庭福祉全般について理解する。

授業計画

1. オリエンテーション 保育と子ども家庭福祉の関連、現代社会における子ども家庭福祉
2. 子ども家庭福祉の理念と概念
3. 子ども家庭福祉の歴史の変遷と国際動向
4. 子どもの人権 (1) 子ども観の変化と歴史
5. 子どもの人権 (2) 現代における子どもの権利擁護
6. 子ども家庭福祉の制度と法体系 (1) 子ども家庭福祉を支える制度
7. 子ども家庭福祉の制度と法体系 (2) 子ども家庭福祉と関連領域の法体系
8. 子ども家庭福祉の担い手 (1) 子ども家庭福祉を担う行政機関
9. 子ども家庭福祉の担い手 (2) 子ども家庭福祉を担う施設とサービス及びその費用
10. 子ども家庭福祉の担い手 (3) 子ども家庭福祉を担う専門職と地域の社会資源
11. 子ども家庭福祉の現状と課題 (1) 少子化と子育て支援、母子保健、多様な保育ニーズ
12. 子ども家庭福祉の現状と課題 (2) 障がいのある子どもへの支援、少年非行への対応
13. 子ども家庭福祉の現状と課題 (3) 子ども虐待やDVの防止、社会的養護
14. 子ども家庭福祉の現状と課題 (4) ひとり親・貧困・外国籍の子ども家庭福祉
15. 子ども家庭福祉の動向と展望 地域共生社会における子ども家庭福祉 まとめ 定期試験を実施する。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学習として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと (90 分)。

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2020』(中央法規、2019)。

学生に対する評価

授業への参加の度合い (30%)、最終レポート (30%)、毎回提出する小レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 子ども家庭福祉の対象と範囲、担い手、関連する諸制度や実践活動について基本的な知識を有している。
- (B) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
- (A) 子ども家庭福祉の対象と範囲、担い手、関連する諸制度や実践活動について基本的な知識を有するとともに、自らの生活に関連付けて説明することができる。
- (S) 子ども家庭福祉の対象と範囲、担い手、関連する諸制度や実践活動について基本的な知識を有するとともに、自らの生活や現代社会の諸問題に関連付けて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全てのフィードバックを行う。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉の課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。 ②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴する。 ③状況に応じて、ICT を活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	社会福祉論						学期	前期 2 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバ リング	K1-22-075	実務経験 の有無	無	関連 DP	4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 2. 社会福祉の制度や実施体系 3. 社会福祉における相談援助 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題

授業の到達目標

社会福祉全般について理解する。1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。3. 社会福祉における相談援助について理解する。4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業計画

1. オリエンテーション 保育と社会福祉の関係 保育者に求められる役割
2. 社会福祉を支える考え方
3. 社会福祉の歴史の変遷 海外の動向との比較
4. 社会で暮らす人びとの生活課題 社会福祉と子ども家庭支援との関連
5. 社会福祉の制度と法体系 (1) 社会福祉制度と法体系の確立と展開
6. 社会福祉の制度と法体系 (2) 各制度と法体系の内容理解と相互の関連
7. 社会福祉を担う行政機関と社会福祉の財政
8. 社会福祉の施設とそこでの運営
9. 社会福祉の専門職
10. 社会保障および関連制度
11. 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助を支える考え方
12. 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の対象範囲とそれらへの理解
13. 社会福祉における相談援助 (3) 相談援助の方法と技術
14. 社会福祉における権利擁護とサービスの質保証
15. 今後の社会福祉の動向と課題 地域共生社会 まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学習として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと (90 分)。

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2022』(中央法規、2021)

学生に対する評価

授業への参加の度合い (30%)、最終レポート (30%)、毎回提出する小レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有している。
- (B) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
- (A) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に理解し、自らの生活に関連付けて説明することができる。
- (S) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に理解し、自らの生活や現代社会の諸問題に関連付けて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉の課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。 ②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴する。 ③状況に応じて、ICT を活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	保育者論							学期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	板倉史郎	
ナンバ リング	K1-21-076	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]

1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 保育者の役割と倫理 2. 保育士の制度的位置付け 3. 保育士の専門性 4. 保育者の連携・協働 5. 保育者の資質向上とキャリア形成

授業の到達目標

保育者の役割と倫理、保育士の専門性を理解する。

授業計画

1. 保育者の役割・職務内容
2. 保育者の倫理
3. 児童福祉法における保育士の定義
4. 保育士の資格・要件、失格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等
5. 保育士の資質・能力
6. 養護及び教育の一体的展開
7. 家庭との連携と保護者に対する支援
8. 計画に基づく保育の実践と省察・評価
9. 保育の質の向上
10. 保育における職員間の連携・協働
11. 専門職間及び専門機関との連携・協働
12. 地域における自治体や関係機関等との連携・協働
13. 保育者の資質向上に関する組織的取組
14. 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義
15. 組織とリーダーシップ

準備学習(予習・復習)・時間

- ・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)
- ・毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習をしておくこと (60 分)

テキスト

伊藤一雄他編著『新しい教職基礎論』サンライズ出版 (生協で購入)

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

授業への積極的な態度、ミニレポート、小テスト等により総合的に評価。状況を見てそれぞれの割合を授業の中で示す。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・講義で扱った用語について説明できる。
 (B)・講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
 (A)・ルーブリック(B)の内容に加えて、疑問点や自分の考えを記述できる。
 (S)・ルーブリック(A)の内容が説得力があるものとなっている。

課題に対するフィードバックの方法

- ・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
- ・提出されたレポートは、次回授業時にコメントを加えて、返却する。

その他

- ・小グループで適宜ディスカッションを行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

- ・小学校教員としての経験を活かして、保護者等への対応を中心についての知識、手法について説明、指導する。

科目名	保育の心理学						学 期	後期 3・4 ターム	
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	米澤好史	
ナンバ リング	K2-10-077	実務経験 の有無	無	関連 DP	3	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 発達を捉える視点 2. 子どもの発達過程 3. 子どもの学びと保育

授業の到達目標

保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達の理解と援助の基本、保育における人との相互的関わり等を理解する。

授業計画

1. 子どもの発達を理解することの意義
2. 子どもの発達と環境
3. 発達理論と子ども観・保育観①
4. 発達理論と子ども観・保育観②
5. 社会情動的発達①
6. 社会情動的発達②
7. 身体的機能と運動機能の発達
8. 認知の発達
9. 言語の発達
10. 乳幼児期の学びに関わる理論①
11. 乳幼児期の学びに関わる理論②
12. 乳幼児期の学びの過程と特性①
13. 乳幼児期の学びの過程と特性②
14. 乳幼児期の学びを支える保育①
15. 乳幼児期の学びを支える保育②

準備学習(予習・復習)・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト

授業内で必要に応じて提供する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

出席及び授業参加意欲、参加態度 50%、試験とレポート 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の到達目標に記された内容について合格最低基準である
 (B) 授業の到達目標に記された内容について妥当な習得がなされている
 (A) 授業の到達目標に記された内容について優れた成果を認められる
 (S) 授業の到達目標に記された内容について特に優れていると認められる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

状況に応じて遠隔による授業を行うことある。

科目名	子ども家庭支援の心理学							学期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	渋谷郁子	
ナンバ リング	K2-10-078	実務経験 の有無	有	関連 DP	3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本講義は子どもや家庭という概念を改めて問い直すところから出発する。講義の主要な柱は、生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得すること、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係などについて発達の観点から理解することの2点である。これらを通して、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに子育て家庭をめぐる社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためには問題をどうとらえるべきなのか、洞察を深める。

授業の到達目標

1. 子どもとその家族の置かれた状況を理解し、発達の観点から説明することができる。
2. 家庭の機能を理解するための基礎的知識を身につけ、説明することができる。
3. 子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。

授業計画

1. 子どもと家庭
2. 生涯発達 (1) 乳幼児期から学童期にかけての発達
3. 生涯発達 (2) 思春期・青年期の発達
4. 生涯発達 (3) 成人期・老年期における発達
5. 家族・家庭の意義と機能：親子関係・家族関係の理解
6. 子育てを取り巻く社会的状況
7. ライフコース：恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭
8. 子育ての経験と親としての育ち
9. 多様な家庭の形とその理解
10. 子どもの生活・生育環境と心の健康
11. 災害後の心理的問題とその支援
12. 発達の課題とその理解 (1) 自閉スペクトラム症
13. 発達の課題とその理解 (2) 注意欠如多動症、学習症
14. 誰もがケアできる世の中に
15. 配慮を要する家庭への支援

準備学習(予習・復習)・時間

授業後に授業内容を振り返り、復習を行うこと (60 分)。全部で 4 回、理解度を問う小テストを実施する。

テキスト

毎回配布するレジュメとテキストを併用する。本郷一夫・安藤智子(編)「子ども家庭支援の心理学」(2018) 建帛社 (生協で購入)

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

筆記試験 50%、小テストやワークシート・レポートなどの授業内課題 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り扱った用語をおおむね理解している。
 (B) 子どもと家庭の状況を発達の観点から説明できる。また、家庭の機能について説明できる。
 (A) 子どもと家庭の状況を発達の観点から説明できる。また、家庭の機能について適切に説明できる。
 (S) 子どもと家庭の状況を発達の観点から説明できる。また、家庭の機能について適切に説明できる。
 さらに、子どもや家庭を支援するための適切な方法を考えられる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生の質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 レポートは添削し、授業内で返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士としての臨床経験から、子どもや家庭への支援について実践的な知見を提供する。

科目名	子どもの保健							学期	前期2 ターム
副題	-				授業 方法	講義	担当者	釜島美智代	
ナンバ リング	K1-21-079	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい] 子どもの生理機能の発達を理解したうえで、健康状態を把握できるようになること。子どもに多い病気（特に感染症、アレルギーの病気を中心に）の病態を学び、早期発見、予防、対応について理解することを目的とする。

授業の到達目標

子どもの生理機能の発達について説明できる。子どもの健康状態の把握の方法と対応を説明できる。子どもに多い感染症の特徴と予防方法、対応を説明できる。子どもに多くみられるアレルギーの病気の病態と対応を説明できる。

授業計画

1. 保育における保健活動
2. 母子保健と胎児の発育
3. 子どもの身体発育
4. 子どもの身体発育の評価
5. 生理機能の発達と関連する症状、病気：体温
6. 生理機能の発達と関連する症状、病気：呼吸
7. 生理機能の発達と関連する症状、病気：循環
8. 生理機能の発達と関連する症状、病気：消化器
9. 生理機能の発達と関連する症状、病気：排泄・泌尿器
10. 生理機能の発達と関連する症状、病気：感覚器
11. 子どものかかりやすい感染症：概論
12. 子どものかかりやすい感染症
13. 感染症の予防と対策：予防接種
14. アレルギーの病気：食物アレルギー
15. アレルギーの病気：気管支喘息、アトピー性皮膚炎

準備学習(予習・復習)・時間

授業中に一定時間（60分以上）の予習復習を別途指示する。

テキスト

鈴木美恵子編著 「これだけはおさえて！保育者のための子どもの保健」 創成社 2019

参考書・参考資料等

日本外来小児科学会編著『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド第4版』厚生労働省 「保育所における感染症ガイドライン（2018年改訂版）」2018 厚生労働省 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）」

学生に対する評価

授業内の課題、レポート(40%)、到達度確認テスト(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 子どもの健康を守るために必要な最低限の知識を習得している
 (B) 子どもの健康を守るための幅広い知識を習得している
 (A) 子どもの健康を守るための知識を資料などを調べることでより深めることができる。
 (S) 子どもの健康を守るための知識を応用して問題を解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に提出したワークシートは確認して返却する。授業内に行った小テストは授業内で解説する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

小児病棟、病児保育、放課後デイサービス、小児救急電話相談事業に従事した経験のある教員が病気になった時の子どもの様子や病気の子どもの看護する保護者の様子などを紹介し、学生が実際の場面をより具体的にイメージできるように授業を行う。

科目名	保育内容総論							学期	前期 1 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	明神規子	
ナンバ リング	K2-21-080	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい] 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。

4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 保育の全体構造と保育内容 2. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3. 保育の多様な展開

授業の到達目標

保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し、実際の保育内容を演習を重ねることにより理解を深める。

授業計画

1. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解(5領域のねらい及び内容とその繋がり)
2. 保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景
3. 保育現場における遊びの実際(ビデオ鑑賞による)から、「環境による保育」を捉える
4. 遊びの中にある教育活動をどう捉えるか
5. 乳幼児期の子ども理解(保育園や未就園児の子どもの生活と遊び)
6. 支援を要する子ども理解(子どもの生活と遊び)
7. 幼小接続、学びの連続性(領域から教科へ)
8. 幼小接続の相互の教師の理解
9. 乳幼児の発達を見据えた教育課程、指導計画
10. 長期指導計画、短期指導計画の特徴の理解
11. ひとつの行事について長期計画の立案
12. 長期計画案をもとに短期計画を立案
13. 行事のために必要な指導法(ICTの活用法)
14. 模擬保育に向けた指導計画立案
15. 模擬保育の実施、評価と改善(振り返り)

準備学習(予習・復習)・時間

予習：授業中に予告した内容について予習すること。 復習：授業内容に関連する実践的資料を取り上げ、学びを深めること。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

神長美津子・津金美智子・田代幸代編著『保育内容総論』光生館

参考書・参考資料等

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年度 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価

筆記試験 50%・授業への積極的参加・ミニレポート等の提出物・授業態度による評価 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習内容を理解することができる。
 (B) 講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
 (A) ルーブリック (B) の内容に加えて、疑問点や自身の考えを記述できる。
 (S) ルーブリック (A) の内容が説得力があるものになっている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等を行うことがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

保育所の経験を活かして、幼児教育の基本や保育内容とその具体的な指導方法について講義する。保育所での経験を生かして、保護者等の対応についての知識、手法について説明、指導する。

科目名	乳児保育Ⅰ							学期	前期 2 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	明神規子	
ナンバ リング	K2-21-081	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

〔授業の目的・ねらい〕 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と雲煙体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。〔授業全体の内容の概要〕 1. 乳児保育の意義・目的と役割 2. 乳児保育の現状と課題 3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 4. 乳児保育における連携・協働

授業の到達目標

乳児保育の意義・目的等を理解し、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。

授業計画

1. 乳児保育とは何か - 子どもにとっての乳児教育 -
2. 全体的な計画(保育課程)、指導計画を考える上で必要なこと
3. 全的的な計画(保育課程)を編成し、指導計画を作成する
4. 0 歳児の発達と保育
5. 1 歳児の発達と保育
6. 2 歳児の発達と保育
7. 模擬保育を通して学ぶ①(教材研究)
8. 模擬保育を通して学ぶ②(指導案作成)
9. 模擬保育を通して学ぶ③(グループ発表)
10. 0・1・2 歳児の基本的な生活 - 生活・用語技術 -
11. 健康・安全管理 - 子どもの生命を守り健康を育むために -
12. 乳児保育に求められる連携・協力 - 多面的な協力・連携 -
13. 社会における乳児保育の役割 - その歩みと今日的課題 -
14. 乳児保育が行われる場所 - 家庭以外のさまざまな場について -
15. 乳児保育今後の課題

準備学習(予習・復習)・時間

予習：授業中に予告した内容について予習すること。 復習：授業内容に関連する実践的資料を取り上げ、学びを深めること。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

高内正子・豊田和子・梶美保編著『健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ・Ⅱ』建帛社

参考書・参考資料等

参考書等は適宜指示する。

学生に対する評価

筆記試験 60%、授業への積極的参加・ミニレポート等の提出物 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習内容を理解することができる。
 (B) 講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
 (A) ルーブリック (B) の内容に加えて、疑問点や自身の考えを記述できる。
 (S) ルーブリック (A) の内容が説得力があるものになっている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等を行うことがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

保育所の経験を活かし、乳児の発育発達の特性や健康課題等を講義する。 保育所での経験を生かして、保護者等の対応についての知識、手法について説明、指導する。

科目名	乳児保育Ⅱ							学期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	明神規子	
ナンバ リング	K2-21-082	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]

1. 3 歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方の基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。
4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 乳児保育の基本
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践
3. 乳児保育における配慮の実践
4. 乳児保育における計画の実践

授業の到達目標

乳児保育の発育・発達過程や特性を理解し、乳児保育の生活と遊びの実践や配慮の実践を理解し、乳児保育の計画が作成できる。

授業計画

1. オリエンテーション / 質の高い乳児保育を目指して
2. 心の育ちとかかわり ①
3. 心の育ちとかかわり ②
4. 心の育ちとかかわり ③
5. 0・1・2 歳児の指導計画
6. 0 歳児の指導計画
7. 0 歳児の保育内容(模擬保育)
8. 1 歳児の指導計画
9. 1 歳児の保育内容(模擬保育)
10. 2 歳児の指導計画
11. 2 歳児の保育内容(模擬保育)
12. 基本的な生活 ー 展開と援助 ー
13. 遊びの指導・援助 ー 乳児保育にふさわしい遊び ー
14. 乳児保育における言葉の指導・援助 ー ことば遊び・絵本などー
15. 乳児保育が行われる場所 ー 家庭以外のさまざまな場についてー

準備学習(予習・復習)・時間

予習：授業中に予告した内容について予習すること。 復習：授業内容に関連する実践的資料を取り上げ、学びを深めること。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

今井和子監修『育ちの理解と指導計画』小学館

学生に対する評価

筆記試験 50%、授業への積極的な態度・ミニレポート等の提出物 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習内容を理解することができる。
- (B) 講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
- (A) ルーブリック (B) の内容に加えて、疑問点や自身の考えを記述できる。
- (S) ルーブリック (A) の内容が説得力があるものになっている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等を行うことがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

保育所の経験を活かして、乳児の発育発達の特長や健康課題等を講義する。 保育所での経験を生かして、保護者等の対応についての知識、手法について説明、指導する。

科目名	子どもの健康と安全						学期	後期3 ターム	
副題	-				授業 方法	講義	担当者	本山司	
ナンバ リング	K2-21-083	実務経験 の有無	無	関連 DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育における健康及び安全の管理 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 4. 感染症対策 5. 保育における保健的対応 6. 健康及び安全の管理の実施体制

授業の到達目標

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

授業計画

1. 子どもの健康と保育の環境、子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
2. 保育における衛生管理
3. 保育における事故防止及び安全対策
4. 保育における危機管理
5. 災害への備え
6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応
7. 応急手当の基本
8. 救急処置及び心肺蘇生法
9. 感染症の集団発生と予防、感染症発生時と罹患後の対応
10. 保育における保健的対応の基本的な考え方
11. 3歳未満児への対応
12. 個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)
13. 障害のある子どもへの対応
14. 保育における保健活動の計画及び評価
15. 健康及び安全の管理の実施体制

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前にシラバスを読み、授業計画の内容について事前学習を行なっておくこと。(60分)
- ・学習した内容を踏まえて、ポイントを各自で整理すること。(60分)

テキスト

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月厚生労働省)

参考書・参考資料等

「2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月厚生労働省)
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)等

学生に対する評価

授業時に実施する小テスト50%、定期試験50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習内容を最低限理解することができる。
- (B) 学習内容を理解し、説明することができる。
- (A) 学習内容の基に現代の保育環境が子どもに及ぼす健康・安全課題を考えことができる。
- (S) 学習内容の基に現代の保育環境が子どもに及ぼす健康・安全課題を考え、改善策を提案することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見、小テストは講義内でフィードバックを行う。

その他

毎回出席をとる。テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等を行うことがある。

科目名	障害児保育							学 期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	演習	担当者	南亜紀子	
ナンバ リング	K1-21-084	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい] 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 障害の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

授業の到達目標

障害児保育を支える理念及び個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を踏まえて保育の計画を作成することができる。

授業計画

1. 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷、障害のある子どもの地域社会への参加、及び合理的配慮の理解
2. 視覚障害・肢体不自由の理解と援助
3. 聴覚障害・言語障害の理解と援助
4. 知的発達症の理解と援助
5. 発達障害の理解と援助①(ADHD－注意欠如多動性障害、LD-学習障害等)
6. 発達障害の理解と援助②(ASD－自閉症スペクトラム障害)
7. 重症心身障害の理解と支援、医療的ケア
8. 特別な配慮を要する子どもの理解と支援
9. 障害のある子どもの保育の実際、子ども同士の関わりと育ち合い、職員間の協働
10. 記録、支援計画、個別の支援計画の作成
11. 保護者、地域の関係機関等との連携
12. 幼保小の連携
13. 障害のある子どもの保健・医療における現状と課題
14. 障害のある子どもの福祉・教育における現状と課題
15. 障害児保育についてのまとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業を振り返り、知識の再構築を図り、今後、どのような技量を身につける必要があるかを確認する(60分)。また、授業で課されたテーマについて、ミニレポートとして提出すること(60分)。

テキスト

武藤久枝、小川英彦編著『コンパス障害児の保育・教育』建帛社、2020年(生協で購入)

参考書・参考資料等

前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」萌文書林、2019年 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

授業への積極的参加、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。状況を見てそれぞれの割合を授業の中で示す。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 障害児保育を支える理念及び障害の特性を理解できている。
- (B) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を考えることができる。
- (A) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を踏まえて保育の計画を作成し、自らの考えをプレゼンテーションすることができる。
- (S) 障害児の特性を理解し、個別支援の在り方や保育目標を定め、保育活動に反映できる。さらに、保護者支援に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

個別指導計画作成の回には、具体的な事例を基に、グループワークで個別指導計画を作成し、各グループごとにプレゼンテーションを行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士、公認心理師の資格をもつ。キンダーカウンセラーとして大阪府内の幼稚園に巡回し、現場の保育士と共に、子どもたちの育ちを支えている。また、保護者に対する育児相談にも関わっている。これらの経験から、障害児保育について知識と手法を身に付け、さらに保育者として保護者支援の在り方についても、指導する。

科目名	表現技術(ピアノ)						学期	後期 3・4 ターム	
副 題	子どもの活動を支える音楽実践力(鍵盤楽器の技法)				授業 方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバ リング	K2-26-085	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業ではコードについて学び、子どもの歌の簡易的な弾き歌いができるように進めていく。保育においては、ピアノが弾けるということだけではなく、子どもの音楽表現を支えることが求められており、子どもの音楽の世界に気づき、受けとめ、共感し、励まし、子どもと一緒に音楽をつくる気持ちが必要である。そのために、ピアノを弾きながら子どもの気持ちや表情に気づくこと、あるいは言葉かけをしたり、歌詞を伝えたり、合図を送るなどができるよう、グループ活動を通して弾き歌いの力を高めていく。

授業の到達目標

1. 保育現場でピアノを弾くこと、歌を歌うことの意味を実践的に学び、説明することができる。 2. 保育現場で必要となる子どもの歌の伴奏(弾き歌い)の実技能力を身につける。 3. ピアノ曲のレパートリーを増やし、豊かな音楽表現の能力を身につける。

授業計画

- オリエンテーション: 授業のねらい、概要、授業形態、評価方法の説明、課題曲の設定
- 英語音名、日本語名、コードネームについて
- 弾き歌いの基礎① Cコード基本形を用いて
- 弾き歌いの基礎② C G G7コード基本形と転回形を用いて
- 弾き歌いの基礎④ C F G G7コード基本形と転回形を用いて
- 基本4コードのまとめ C F G G7
- 伴奏形のアレンジ: リズムを変えて
- イントロ、エンディングの工夫
- 弾き歌いの応用①Dm Amコードを用いて
- 弾き歌いの応用②Dm Em Amコードを用いて
- 基本7コードのまとめ C F G G7 Dm Em Am
- 弾き歌いの応用③ 卜長調の弾き歌い
- 弾き歌いの応用④ へ長調の弾き歌い
- 実技試験(1) コード
- 実技試験② 弾き歌い(自由曲)とまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

- ・授業内課題については、個々・グループワークで毎回の実践内容を振り返り、今後、どのような音楽的技量を身につける必要があるかを確認する。(90分)
- ・一回毎の課題について自宅で復習し、必要な技能を確実に身に付ける。(90分)

テキスト

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編集/エー・ティ・エヌ 『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編集/エー・ティ・エヌ

参考書・参考資料等

適宜、楽譜等を配布する

学生に対する評価

授業内課題(進度・課題達成状況) (60%)、試験(1)(2)の演奏内容(40%)で総合評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本4コードの基本形・転回形を用いた演奏ができる。
- (B) 基本4コードを用い、子どもの動きを予想した伴奏系にアレンジした演奏ができる。
- (A) 基本7コードを用いて、子どもの動きを予想した伴奏系にアレンジした演奏ができる。(イントロ、エンディングを含む)
- (S) へ長調以外のコードを用いて、子どもの動きを予想した伴奏系にアレンジした演奏ができる。(イントロ、エンディングを含む)

課題に対するフィードバックの方法

習得したコードや伴奏等の確認テスト、発表に対しては、ほぼ毎回授業時に行い、その場でフィードバックを行う。試験(1)(2)のフィードバックもその場で行う。

その他

個人・グループワークによる音楽の活動実技を取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	表現技術(造形)							学期	後期 4 ターム
副 題	幼児の造形の基礎を実習を通して学ぶ				授業 方法	演習	担当者	原田昌幸	
ナンバ リング	K2-21-086	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 2	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

領域「表現」に関わる総計の表現技術として、造形の基礎的な技法を学ぶ。絵の具やクレパスなどを用いたモダンテクニックを体験し、幼児の造形理解へと結びつける。また身近な素材や環境を用いた造形あそびを体験し、柔軟な保育を実践する力を身につける。

授業の到達目標

造形の知識や様々な技法を、演習を通して学び、保育に繋がる表現力を身につける。絵の具や、クレパスなどの造形的知識と使用法を理解するなど、基礎技能を身に付けることができる。造形活動を通して基礎技能を高めようとする意識を持ち、造形的な思考の習慣と力を身につけることができるようになる。

授業計画

1. 描く活動 人物クロッキー
2. 描く活動 イラストの基礎
3. モダンテクニック(クレパスによる基礎技法 スクラッチ、ステンシル、パチック)
4. モダンテクニック(絵の具による基礎技法 デカルコマニー、ステンシル)
5. モダンテクニック(絵の具による基礎技法 ドリッピング、流し絵、にじみ絵)
6. モダンテクニック(絵の具による基礎技法 糸を使って、ストローを使って)
7. 色彩の基礎知識(色と分類と属性)
8. 色彩の基礎知識(色彩構成と色の混合)
9. 粘土の造形 ①触覚教材として体験する
10. 粘土の造形 ②造形素材として体験する
11. 造形あそび―新聞紙で立体を作る
12. 造形あそび―作成した立体で遊ぶことで、幼児の造形活動を理解する
13. 造形あそび―廃材での工作
14. 造形あそび―廃材での工作を完成させる
15. 授業の振り返りとまとめ 乳幼児の造形活動について、授業内容をもとに理解する

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、毎回の内容をファイルにまとめておくこと (60 分)

課題によっては必要な素材を準備する。(60 分)

テキスト

適宜、プリント配布する。

参考書・参考資料等

適宜、プリント配布する。

学生に対する評価

学習を反映させた作品 50%、自己評価からみる課題レポート 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 課題内容の範囲で作品化できている。実施した課題内容を理解しまとめられている。
- (B) 課題内容を理解して作品化できている。実施した課題内容を理解したうえで、自分の気付きも加えてまとめられている。
- (A) 課題内容を理解したうえで自分なりに工夫を加えて作品化できている。実施した課題内容を理解したうえで、自分の気付きや発展も加えてまとめられている。
- (S) 課題の想定を超えた理解や工夫が加えられている。実施した課題内容をだけでなく、それらを生かして実際の保育も想定しまとめられている

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートは添削し、次回授業時に返却する

その他

基本的には個人での道具・材料は必要ないが、課題によっては事前に準備が必要な場合がある。その際には事前に予告する。

科目名	発達心理学							学期	後期 4 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	渋谷郁子	
ナンバ リング	K2-10-087	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

人間の生涯にわたる発達過程を、認知機能および感情・社会性の側面から学ぶ。また、主たる発達理論について理解を深める。

授業の到達目標

1. ヒトの認知・感情、社会性の発達プロセスを知識として習得する。 2. 主たる発達理論について理解する。
3. 非定型発達に関する基礎的な知識を習得する。 4. 1～3 を通して、ヒトという存在やヒトの発達について関心を深めること。

授業計画

1. ヒトとはどのような存在か：生き物としての人間、「私」の誕生、発達の規定因（遺伝と環境）
2. 人間の生涯にわたる発達：エリクソンの考え方、生涯発達、心理社会的危機、フロイトの考え方
3. 認知発達（1）：身体と運動の発達、ピアジェの考え方、発達段階、シエマ、同化と調節
4. 認知発達（2）：自己中心的世界、アニミズム、実念論、知的リアリズム
5. 認知発達（3）：ヴィゴツキーの考え方、発達の最近接領域、精神間機能と精神内機能
6. ことばの機能とその発達：言語発達過程、言語機能、一次のことばと二次のことば
7. 感情・情動の発達：情動発達の概要、感情の社会的影響、非認知能力
8. 社会性の発達：発達早期の社会性、愛着の発達段階と個人差、愛着障害
9. 遊びと仲間関係の発達：遊びのおもしろさ、遊びの形態の変化、自己主張と自己抑制、仲間関係の変化
10. 発達障害とその特徴（1）：障害観の変遷、発達障害の定義、ASD の特徴、発達検査
11. 発達障害とその特徴（2）：ADHD や LD 等の特徴、インクルージョン、発達心理関連の職種
12. 児童期の発達：発達の質的転換、9 歳の壁、ことばの発達、自己理解と自尊心
13. 青年期・成人期の発達：心理的離乳、アイデンティティの模索、親密性の獲得、親・職業人になること
14. 中年期・高齢期の発達：世代性、キャリア発達、夫婦関係の見直し、親役割の変化、加齢モデル
15. 発達の視点の重要性とヒト理解の深まり

準備学習（予習・復習）・時間

授業後に授業内容を振り返り、復習を行うこと（60 分）。授業時間ごとに理解度を問う小テストを実施する。

テキスト

授業中にレジュメを配布する。散逸しないように注意すること。

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験 50%、小テストやワークシート・レポートなどの授業内課題 50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 授業で取り扱った用語をおおむね理解している。
- (B) ヒトの認知・感情、社会性の発達プロセスや非定型発達に関する基礎的な知識を有している。また、主たる発達理論をある程度理解している。
- (A) ヒトの認知・感情、社会性の発達プロセスや非定型発達に関する正確な知識を有している。また、主たる発達理論を的確にとらえている。
- (S) ヒトの認知・感情、社会性の発達プロセスや非定型発達に関する正確な知識を有している。また、主たる発達理論を的確にとらえている。さらに、ヒトという存在やヒトの発達について自分なりの考え方を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生の質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 レポートは添削し、授業内で返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士としての臨床経験から、子どもへの支援について実践的な知見を提供する。

科目名	カウンセリング論							学 期	集 中
副 題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	K2-17-088	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

カウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を学習し、現実にある日常生活の課題取り上げ、ロールプレイングを通して解決方法を体験的に学び、理解する。 カウンセリング技法についてカウンセリングの基本的な知識と技術を学び、他者の話に傾聴できるようになる。

授業の到達目標

カウンセリング技法についてカウンセリングの基本的な知識と技術を学びし、他者の話に傾聴できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る(クライアント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る(精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る(解決思考アプローチ)
7. 様々なカウンセリングを知る(認知行動療法)
8. 様々なカウンセリングを知る(その他)
9. 子どもへのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
10. 保護者へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
12. 被害者へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90 分以上)。各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し (90 分)、次回の授業時に提出する。

テキスト

講師が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等

①河合雄雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房 ②國分康孝著『カウンセリングの理論』誠信書房 ③國分康孝著『カウンセリングの技法』誠信書房 ③諸富祥彦著『カウンセリングとは何か』誠信書房等

学生に対する評価

試験(50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
 (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
 (A) カウンセリングの技法(最低3つ以上)と基礎知識について説明できる。
 (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング(activelearning)を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚(フェルトセンス)に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、I S P トレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。

科目名	学校臨床心理学							学期	後期 3 ターム
副 題	-				授業 方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバ リング	K2-10-089	実務経験 の有無	有	関連 DP	3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深めます。

授業の到達目標

学校における心理学的な課題や複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画

1. 学校教育と心理学. 歴史的背景を知る
2. 発達心理学的視点と学校教育
3. 学校内チーム支援について
4. 保護者と学校を支援する視点
5. 児童期の発達と学校教育
6. 児童期の学習の問題について
7. 児童期の不登校について
8. 児童期の仲間関係といじめについて
9. 児童期における学校内チーム支援の在り方について
10. 思春期・青年期の発達と学校教育
11. 思春期・青年期の学習の問題について
12. 思春期・青年期の不登校について
13. 思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14. 思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認をしておくこと (90 分)

テキスト

講師作成の資料を配付する。

参考書・参考資料等

・学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック』第2版(2007・風間書房)・その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学校現場で生じる問題についての知識を身につけている。
- (B) 学校現場で生じる問題についての理解並びに対応の視点について理解をしている。
- (A) 学校現場で生じる問題についての理解並びに対応の視点について理解をし、それらについて自分の意見を述べることができる。
- (S) 学校現場で生じる問題についての理解並びに対応の視点について理解をし、それらについて自分の意見を述べることができ、かつ、その根拠を他者に正しく伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、学校現場で生じる種々の問題への対応について視点や姿勢を講義する。

科目名	海外留学体験							学 期	通年
副 題	海外留学のための事前および事後演習				授業方法	実習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K2-17-090	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

本講義では前期は海外留学の前の準備として、留学先の文化や生活を学び、留学に関して様々な準備すべきことを学習する。また留学のための関係書類の書き方も学習する。5 週間の留学期間を終えて、後期はその留学経験をもとに、英語の 4 技能 5 領域のさらなる向上と、様々な国の文化に対して偏見を持ったり固定観念で判断することなく理解できるようになることを目的とする。

授業の到達目標

講義では留学前は、海外での講義で対応できるようにリーディングやリスニング学習をすると共に、グループ学習でのロールプレイや、プレゼンテーションを行う。また留学後は海外で培った経験をもとに様々な資料を使用して自らの考えを英語で発信できるように学習する。

授業計画

【前期】

1. [留学前オリエンテーション] 予習範囲、授業の進め方、e-learning について、成績評価、グループ学習について説明する。
2. 留学の目的を明確にする。留学経験者の体験談。プレテスト
3. 復習単語テスト、留学先の文化や生活について学ぶ。e-learning(Listening)
4. 復習単語テスト、教室での英語表現を学習する。e-learning(Listening)
5. 復習単語テスト ホームステイ先での英語表現を学習する。e-learning(Listening)
6. 復習単語テスト 3 分程度の自己紹介をする。e-learning(Listening)
7. 復習単語テスト 高野山大学での学生生活を英語で表現する。e-learning(Listening)
8. 復習単語テスト 学習した内容(自己紹介と学生生活)を各自プレゼンする。e-learning(Listening)
9. 留学前の様々な関係書類を作成するための支援
10. 海外事情の視察①
11. 海外事情の視察②
12. 海外事情の視察③
13. 海外事情の視察④
14. 海外事情の視察⑤
15. 留学後の英語力判定テスト 留学の報告レポートを作成する

【後期】

1. [留学後オリエンテーション] 講義の進め方、成績評価、グループ学習について説明
2. 留学後の効果的な英語学習方法について体験談を聞く e-learning(Listening)
3. 復習英作文テスト、ロールプレイ(大学)、e-learning(Listening)
4. 復習英作文テスト、ロールプレイ(面接)、e-learning(Listening)
5. 復習英作文テスト、プレゼンテーション準備、e-learning(Listening)
6. プレゼンテーション e-learning(Listening)
7. 復習英作文テスト、ポスターセッションの為の講義、e-learning(Listening)
8. 復習英作文テスト、ポスターセッション準備、e-learning(Listening)
9. ポスターセッション、e-learning(Listening)
10. 復習英作文テスト、ディベートの仕方の講義 e-learning(Listening)
11. 復習英作文テスト、ディベートの準備、e-learning(Listening)
12. ディベート実践、e-learning(Listening)
13. 「今後の目標」をテーマに各自 5 分間スピーチをする、e-learning(Listening)
14. ポストテスト
15. ポストテスト及び e-learning の成績をフィードバックする

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

講義に必要なプリントを配布する。

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する

学生に対する評価

授業での発言、単語テストやプレゼンテーションを加味して行う。毎回の小テスト(30%)、発表やレポート(50%)、授業参加の積極性(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 留学先の文化や習慣を理解することができる
- (B) 教室で使用する英語を使用することができる。
- (A) 日常生活での簡単な英語による会話を理解できる。
- (S) 留学先で与えられた課題に関する資料作成し、ポスターセッションやプレゼンすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンやポスターセッション直後にフィードバックを行う。

その他

パソコンルームでのグループ活動のために USB を準備すること。

教 員 別 索 引

い	浅井 雅 宏	日本文化	67	み	明 神 規 子	保育内容総論	99
	板 倉 史 郎	保育者論	95			乳児保育Ⅰ	100
	伊藤佳世子	English CommunicationⅠ	25			乳児保育Ⅱ	101
		創作研究	69	む	宗 田 好 史	世界遺産と観光	83
		高野山国際ガイド体験	79		村 尾 聡	基礎ゼミⅡ	22
		海外留学体験	109			国語科内容論	38
	今 西 幸 蔵	基礎ゼミⅢ	23			国語科指導法	48
		教職入門	33			文学	68
		学校・保育現場体験Ⅰ	73			地域体験Ⅲ	77
		生徒指導論	89	も	本 山 司	基礎ゼミⅠ	21
う	植田恵理子	音楽科内容論	43			体育科内容論	46
		音楽科指導法	51			幼児と健康	58
		幼児と表現	62			体育の理論と実技	81
		学校・保育現場体験Ⅰ	73			子どもの健康と安全	102
		表現技法（ピアノ）	104		森 七 恵	教育原理	32
	上 野 和 久	教育相談	37		森 征 樹	日本国憲法	30
		カウンセリング論	107		森 崎 雅 好	学校臨床心理学	108
お	岡 部 美 香	教育原理	32		森 本 敦 子	English CommunicationⅡ	26
	岡 本 文 音	音楽Ⅰ（表現技法）	56			初等英語科内容論	47
		音楽Ⅱ（表現技法）	57			初等英語科指導法	53
		茶道	70	や	八 木 英 二	教育課程論	87
	岡 本 正 志	科学技術と社会	64		柳 原 高 文	基礎ゼミⅣ	24
		地域体験特論	72			理科内容論	41
	奥田修一郎	基礎ゼミⅢ	23			生活科内容論	42
		社会科内容論	39			理科指導法	50
		社会科指導法	49			授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	55
		地域体験基礎	63			幼児と環境	60
		地域体験Ⅳ	78			地域体験特論	72
	帯野久美子	キャリアデザインⅠ	27			学校・保育現場体験Ⅱ	74
		キャリアデザインⅡ	28			地域体験Ⅰ	75
か	釜島久智代	子どもの保健	98		山 上 祐 輝	地域体験Ⅲ	77
こ	香 田 健 治	幼児と言葉	61			地域体験Ⅳ	78
	児 島 昌 雄	理科内容論	41		山 田 正 行	基礎ゼミⅠ	21
		理科指導法	50			教育と社会	34
		授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	55			学校・保育現場体験Ⅱ	74
		幼児と環境	60	よ	吉 垣 隆 雄	図画工作科内容論	44
	小 林 将 太	道徳教育の理論と方法	88		吉 次 豊 見	幼児と人間関係	59
し	茂 野 仁 美	幼児理解方法論	90		米 澤 好 史	教育心理学	35
	渋谷 郁 子	子ども家庭支援の心理学	97			保育の心理学	96
		発達心理学	106	り	劉 燕 子	中国語	80
そ	添 田 隆 昭	空海思想入門	20		笠 潤 平	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）	54
た	竹 田 義	植物栽培の基本	65	わ	和 井 田 祐 司	地域体験特論	72
な	永 島 龍 弘	ほとけの世界	29				
	那 須 義 次	自然と人間	66				
の	野 田 悟	書学入門（書道）	71				
は	早 川 和 生	現代社会と医療	85				
		世界の医療課題	86				
	馬 場 住 子	保育原理	92				
	濱 川 昌 人	進路指導・キャリア教育	91				
	原 田 昌 幸	表現技法（造形）	105				
	範 衍 麗	身体技法（ダンス）	84				
ひ	東 尾 晃 世	算数科内容論	40				
	広 瀬 朋 則	情報と教育	31				
		AIと世界	82				
ま	松 本 歩 子	基礎ゼミⅡ	22				
		家庭科内容論	45				
		家庭科指導法	52				
		地域体験Ⅱ	76				
み	溝 淵 淳	基礎ゼミⅣ	24				
		子ども家庭福祉	93				
		社会福祉論	94				
	南 亜 紀 子	障害児保育	103				
	宮 本 直 美	特別支援教育	36				

文学部教育学科

講義概要・授業計画 令和4年度(2022)

2022年4月1日発行

編集・発行 高野山大学

〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町1685

Tel. (0721) 53-1101 (河内長野キャンパス事務室)

Fax. (0721) 69-6001 (河内長野キャンパス事務室)

E-mail : kyoiku@koyasan-u.ac.jp

URL : <https://www.koyasan-u.ac.jp>
